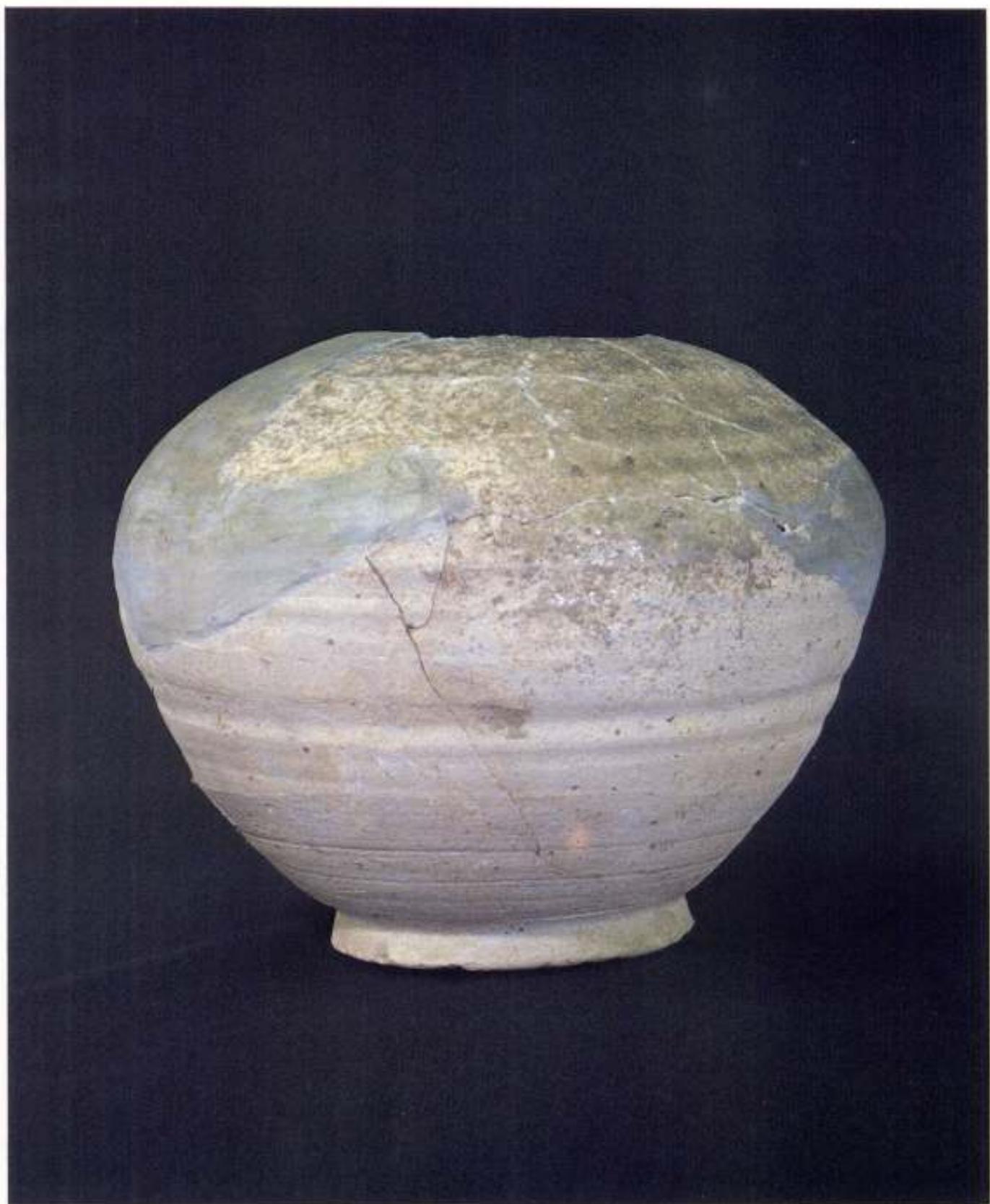


三尻遺跡群 上辻・下辻遺跡

1984

熊谷市教育委員会



下辻遺跡 3 T-1号住居跡 灰釉陶器

序 文

熊谷市は埼玉県北部の中心であり、歴史的にもゆかりの深い地域であります。三尻地区は、市域の西部にあたり、縄文時代から歴史時代の集落跡、多くの古墳、中世の館跡、寺院跡、墓地跡などの存在が知られています。名勝觀音山は三尻地区の西端にあり、孤立した丘陵で、松林におおわれ、渡辺峯山ゆかりの名刹龍泉寺もあります。

当地区では、昭和56年度から県営ほ場整備事業が継続して実施されています。本市教育委員会では、この事業に伴い、発掘調査を実施し、記録保存に努めています。

昭和56年度は、上辻・下辻遺跡を対象として調査を行い、本書は、その成果をまとめて報告するものです。

遺跡は、貴重な文化遺産として、後世に残すことが第一に計られるべきですが、工事の性格上やむをえず、記録保存の方策をとることとなったのです。

発掘調査によって得られた資料は、貴重な文化遺産として、学術研究、学校や社会教育に資するものであると考えます。こうした、調査・報告を契機として、多くの市民の方々が、埋蔵文化財保護について、より一層のご理解とご協力くださることを願ってやみません。

最後になりましたが、県文化財保護課、深谷土地改良事務所、熊谷西部土地改良事務所、地元三ヶ尻・拾六間住民の方々からご指導・ご協力いただきましたことに、深く感謝の意を表します。

昭和59年3月

熊谷市教育委員会
教育長 関根幸夫

例　　言

1. 本書は、熊谷市大字三ヶ尻字上辻・下辻に所在する上辻遺跡・下辻遺跡の発掘調査報告書である。
2. 本調査は、県営ほ場整備事業（熊谷西部地区）に伴う事前記録保存の為の発掘調査である。
3. 下辻遺跡は、深谷土地改良事務所の委託事業により、上辻遺跡は、国庫・県費補助事業により、それぞれ調査を実施した。
4. 発掘調査期間は下記のとおりである。
下辻遺跡 昭和56年9月1日～昭和56年11月27日
上辻遺跡 昭和56年11月28日～昭和57年2月9日
5. 発掘調査の担当、本書の執筆・編集は金子正之が行った。
6. 調査組織は次のとおりである。

調査主体者	熊谷市教育委員会教育長（前）	森田芳一	
	〃	（現）	関根幸夫
調査担当者	〃	社会教育課主事	金子正之
調査補助員	東洋大学学生	小林明仁	
	〃	清水俊明	
	國立館大学学生（現吹上町教育委員会）	大沢昌弘	
	創価大学学生	吉田 廣	
事務局	熊谷市教育委員会社会教育課課長（前）	並木良輔	
	〃	（現）岡田 詮	
	〃	課長補佐（前）里見昌夫	
	〃	（現）茂木 優	
	〃	係長 岡田伸洋	
	〃	主事 山川 建	
	〃	〃 寺社下博	
	〃	島野嘉寿子	

7. 本書の作成にあたって、埼玉県立川口北高等学校教諭田部井功氏に助言・協力をいただいた。記して感謝します。
8. 遺構断面図の中で、土器片はT、川原石はS、焼土ブロックはF、ロームブロックはR、炭化物はCと記号化した。

目 次

序文.....	I
例言.....	II
目次.....	III
挿図目次.....	IV
図版目次.....	V
I. 発掘調査に至るまでの経過.....	1
II. 発掘調査の経過.....	1
III. 遺跡の立地と環境.....	2
IV. 上辻遺跡.....	5
1. 遺跡の概観.....	6
2. 遺構.....	7
(1) I 区.....	7
(2) II 区.....	19
V. 下辻遺跡.....	26
1. 遺跡の概観.....	26
2. 遺構.....	28
(1) 第1トレンチ.....	28
(2) 第2トレンチ.....	33
(3) 第3トレンチ.....	35
(4) 第4トレンチ.....	37
(5) 第5トレンチ.....	39
VI. まとめ.....	41

挿 図 目 次

第1図 遺跡分布図	2	第37図 II区 6号住居跡	23
第2図 三ヶ尻古墳群分布図	3	第38図 II区 7号住居跡	23
第3図 遺跡位置図	4	第39図 II区 7号住居跡カマド	23
第4図 上辻遺跡I区全測図	5	第40図 II区 8号住居跡	24
第5図 I区1~3号住居跡	6	第41図 II区 8号住居跡カマド	24
第6図 I区1号住居跡東カマド	8	第42図 II区 9号住居跡	24
第7図 I区1号住居跡北カマド	8	第43図 II区 9号住居跡カマド	25
第8図 I区2号住居跡カマド	8	第44図 II区10号住居跡、1号溝跡	25
第9図 I区3号住居跡カマド	9	第45図 II区10号住居跡カマド	25
第10図 I区4~7号住居跡	9	第46図 II区1号溝跡	26
第11図 I区5号住居跡カマド	10	第47図 1T~5T全測図	27
第12図 I区6号住居跡カマド	10	第48図 1T~1号住居跡	28
第13図 I区8号住居跡	11	第49図 1T~2号住居跡、6号ピット	28
第14図 I区9号住居跡	11	第50図 1T~3号住居跡	28
第15図 I区9号住居跡カマド	12	第51図 1T~4号住居跡	28
第16図 I区10号住居跡	12	第52図 1T~5・6号住居跡、7号ピット	29
第17図 I区10号住居跡カマド	13	第53図 1T~5号住居跡カマド	29
第18図 I区11号住居跡カマド	13	第54図 1T~7号住居跡、8号ピット	30
第19図 I区11~18号住居跡(1)	14	第55図 1T~8号住居跡、9号ピット	30
第20図 I区11~18号住居跡(2)	15	第56図 1T~1号溝跡、1号ピット	31
第21図 I区12号住居跡北カマド	15	第57図 1T~2・3号溝跡、2・3号ピット	31
第22図 I区12号住居跡東カマド	16	第58図 1T~4号溝跡、4号ピット	32
第23図 I区15号住居跡カマド	16	第59図 1T~5号溝跡、5号ピット	32
第24図 I区17号住居跡カマド	17	第60図 1T~6号溝跡	32
第25図 I区19号住居跡	17	第61図 1T~7号溝跡	32
第26図 I区19号住居跡カマド	18	第62図 2T~1号住居跡	33
第27図 I区1号溝跡	18	第63図 2T~2号住居跡	33
第28図 I区2号溝跡	18	第64図 2T~3号住居跡	33
第29図 上辻遺跡II区全測図	19	第65図 2T~3号住居跡カマド	33
第30図 II区1~4号住居跡	20	第66図 2T~1号溝跡	33
第31図 II区1号住居跡カマド	20	第67図 2T~1号ピット	34
第32図 II区2号住居跡カマド	21	第68図 2T~2号ピット	34
第33図 II区3号住居跡カマド	21	第69図 2T~3・4・5号ピット	34
第34図 II区4号住居跡カマド	22	第70図 2T~6号ピット	34
第35図 II区5号住居跡	22	第71図 3T~1号住居跡	35
第36図 II区5号住居跡カマド	22	第72図 3T~2・3号住居跡、3号ピット	35

第73図	3 T—4号住居跡	36	第82図	4 T—7号ピット	38
第74図	3 T—1号溝跡、1・2号ピット	36	第83図	4 T—8号ピット	38
第75図	3 T—2号溝跡	36	第84図	5 T—1号住居跡	39
第76図	4 T—1号住居跡	37	第85図	5 T—1・2号溝跡	39
第77図	4 T—2号住居跡、3・4号ピット	37	第86図	5 T—3号溝跡	39
第78図	4 T—3・4号住居跡、5・6号ピット	37	第87図	5 T—1号ピット	40
第79図	4 T—5号住居跡・3～5号溝跡・9号 ピット	38	第88図	5 T—2号ピット	40
第80図	4 T—1号溝跡	38	第89図	5 T—3・4号ピット	40
第81図	4 T—2号溝跡	38	第90図	5 T—4号溝跡、5号ピット	40

図版目次

図版1	上辻遺跡・下辻遺跡航空写真		図版12—2	I区11・12号住居跡	
2—1	上辻遺跡I区全景(南から)		13—1	I区11号住居跡	
2	上辻遺跡I区全景(西から)		2	I区11号住居跡カマド	
3—1	I区1・2号住居跡		14—1	I区12号住居跡北カマド	
2	I区1号住居跡		2	I区12号住居跡東カマド	
4—1	I区2号住居跡		15—1	I区12号住居跡土器出土状態	
2	I区2号住居跡カマド		2	I区12号住居跡土器出土状態	
5—1	I区3号住居跡		16—1	I区12号住居跡土器出土状態	
2	I区3号住居跡カマド		2	I区12号住居跡土器出土状態	
6—1	I区4・5号住居跡		17—1	I区12号住居跡土器出土状態	
2	I区5号住居跡カマド		2	I区12号住居跡砥石出土状態	
7—1	I区6・7号住居跡		18—1	I区12号住居跡紡錘車出土状態	
2	I区6号住居跡土器出土状態		2	I区13号住居跡土器出土状態	
8—1	I区8号住居跡		19—1	I区14号住居跡土器出土状態	
2	I区8号住居跡遺物出土状態		2	I区14号住居跡土器出土状態	
9—1	I区9・10号住居跡		20—1	I区17号住居跡	
2	I区9号住居跡		2	I区19号住居跡	
10—1	I区9号住居跡カマド		21—1	I区19号住居跡カマド	
2	I区10号住居跡カマド		2	I区19号住居跡土器出土状態	
11—1	I区9号住居跡遺物出土状態		22—1	I区2号溝跡	
2	I区9号住居跡遺物出土状態		2	I区1号溝跡	
12—1	I区11～18号住居跡				

図版23—1 上辻遺跡Ⅱ区全景（東から）

- 2 Ⅱ区1～8号住居跡（西から）
24—1 Ⅱ区1～4号住居跡
2 Ⅱ区1号住居跡カマド
25—1 Ⅱ区2号住居跡土器出土状態
2 Ⅱ区2号住居跡土器出土状態
26—1 I区3号住居跡カマド
2 Ⅱ区3号住居跡貯蔵穴土器出土状態
27—1 Ⅱ区4号住居跡カマド
2 Ⅱ区4号住居跡土器出土状態
28—1 Ⅱ区4号住居跡土器出土状態
2 Ⅱ区4号住居跡紡錘車出土状態
29—1 Ⅱ区5号住居跡
2 Ⅱ区5号住居跡カマド
30—1 Ⅱ区6号住居跡
2 Ⅱ区6号住居跡カマド
31—1 Ⅱ区6号住居跡カマド
2 Ⅱ区6号住居跡カマド土器出土状態
32—1 Ⅱ区7号住居跡
2 Ⅱ区7号住居跡カマド
33—1 Ⅱ区8号住居跡
2 Ⅱ区8号住居跡カマド
34—1 Ⅱ区9号住居跡
2 Ⅱ区9号住居跡カマド
35—1 Ⅱ区9号住居跡遺物出土状態
2 Ⅱ区9号住居跡遺物出土状態
36—1 Ⅱ区10号住居跡・1号溝跡
2 Ⅱ区10号住居跡：1号溝跡

図版37—1 下辻遺跡発掘風景（東から）

- 2 下辻遺跡発掘風景（東から）
38—1 1T—1号住居跡・4号溝跡
2 1T—3号住居跡
39—1 1T—3号住居跡土器出土状態
2 1T—4号住居跡
40—1 1T—5号住居跡
2 1T—5号住居跡土器出土状態
41—1 1T—5号住居跡砥石・軽石出土状態
2 1T—6号住居跡土器出土状態
42—1 1T—8号住居跡・9号ピット
2 1T—2号溝跡・2号ピット
43—1 2T—1号住居跡カマド
2 2T—3号住居跡カマド
44—1 2T—1号ピット
2 2T—3・4号ピット
45—1 3T—1号住居跡
2 3T—3号住居跡
46—1 3T—4号住居跡
2 3T—1号溝跡、1・2号ピット
47—1 4T—1号住居跡
2 4T—2号住居跡
48—1 4T—4号住居跡
2 4T—4号住居跡カマド
49—1 4T—1号溝跡
2 4T—2号溝跡
50—1 4T—2号ピット
2 5T—1号住居跡

I . 発掘調査に至るまでの経過

熊谷市は、既に中条地区、万吉地区において、農業構造改善事業が実施され、埋蔵文化財を記録保存する為、発掘調査が行われている。三尻地区でも、昭和56年度から、ほ場整備事業が実施され、発掘調査を行うこととなった。

昭和56年7月9日付深地第660号で深谷土地改良事務所から、県営ほ場整備事業熊谷西部地区内にある埋蔵文化財の取り扱いについて協議文書が提出され、昭和56年8月3日付教文第457号において埼玉県教育委員会から、発掘調査を実施する旨回答がなされた。

これを受けた熊谷市教育委員会が、国庫、県費補助金、農政側負担金および市費をもって調査を実施することになった。

事業計画によると工事は、微高地上にある桑畠の抜根整地、水田の整地および道水路のパイプ埋設工事であった。桑畠は、面的に削平される部分が2ヵ所だったので、その部分を中心に発掘を行い、道水路と水田の部分はトレンチ発掘を実施することにした。

発掘調査は、昭和56年9月1日から開始された。

II . 発掘調査の経過

下辻遺跡は、大きく削平されることないので、まず土層堆積状態及び、遺跡範囲の確認を兼ねて、下辻遺跡の道水路部分のトレンチ発掘を行った。トレンチの幅は1mで、長さは道水路の長さに応じて100m前後であった。北から1T・2T・3T…と呼称し、計5本のトレンチを調査した。各トレンチとも、西側から5m間隔で1区・2区・3区…とし、1Tの1区から調査を実施した。その結果、竪穴式住居跡21軒、溝跡、ピットが検出された。

上辻遺跡は、面的に削平される部分が2ヵ所あり、南側をI区、北側をII区と呼称し、I区から調査を実施した。I区・II区とも、1辺5mのグリッド方式を用いて調査を行い、南隅をA-1として、北西へA・B・C…、北東へ1・2・3…とし、Aラインは、南西から北東へA-1・A-2・A-3…と呼称した。Bライン以西もAラインと同様に呼称した。

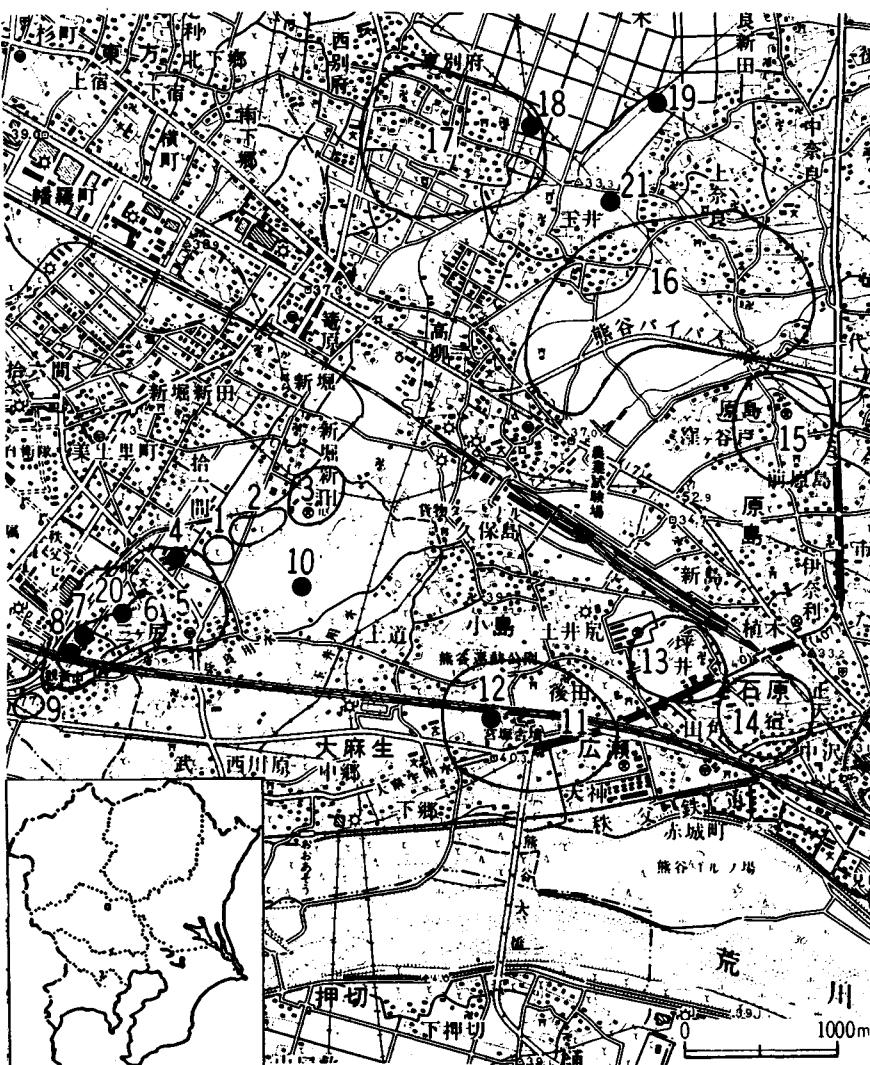
I区は、トレンチを入れ、土層堆積状態を確認してから、重機を入れて表土剥ぎを行い、ローム面まで掘り下げた。ローム面の精査をして、遺構を確認してから、各遺構ごとに調査を実施した。土層は、地山がローム層であり、その上に暗褐色土、耕作土が堆積していた。ローム面までの深さは、40~50cmであった。

II区は、下辻遺跡の5Tによって、土層の状態が確認できていたので、その結果からローム面まで掘り下げ、遺構確認を行ってから、I区と同様、各遺構ごとに調査を実施した。土層は、ローム層、灰褐色土、耕作土の順に堆積しており、ローム面までの深さは、30~50cmであった。

上辻遺跡からは、竪穴式住居跡29軒、溝跡3本が検出された。

上辻・下辻両遺跡とも、ローム層が堆積しており、遺構の検出は比較的容易であったが、遺構の覆土である暗褐色土が、粘質の土層で非常に硬く、調査は、この土の硬さに悩まされた。

本調査によって、竪穴式住居跡50軒、溝跡、ピットが検出され、多量の土器、鉄製品、石製品が出土し、調査地域に古墳時代～平安時代にかけての集落があったことが確認されて、昭和57年2月9日に調査は終了した。



第1図 遺跡分布図

1. 上辻遺跡
2. 下辻遺跡
3. 桶ノ上遺跡
4. 三尻中学校遺跡
5. 59—63 (県遺跡地名表番号)
6. 三ヶ尻古墳群
7. 三ヶ尻天王遺跡
8. 三ヶ尻林遺跡
9. 59—64(県遺跡地名表番号)
10. 黒沢館跡
11. 広瀬古墳群
12. 宮塚古墳
13. 坪井古墳群
14. 石原古墳群
15. 原島古墳群
16. 玉井古墳群
17. 別府古墳群
18. 寺東遺跡
19. 天神遺跡
20. 三ヶ尻上古遺跡
21. 新ヶ谷戸遺跡

III. 遺跡の立地と環境

熊谷市は、荒川が市域の南側を、西から南東へ流れしており、自然堤防上に集落が発達している。三尻地区は、市の西部にあたり、西側が櫛引台地で、東側が熊谷低地である。熊谷低地の微高地は、荒川の自然堤防と考えられ、現在、ほとんど桑畑になっている。低地は、水田となっており、荒川の旧流路跡であろう。上辻、下辻遺跡の南西には、丘陵地である觀音山があり、松林におおわれている。

本遺跡は、荒川から約2.5km、利根川から約7.5kmに位置し、荒川左岸の自然堤防上に立地している。標高42~44mを測り、南西から北東へ向かい若干傾斜している。本遺跡と水田面との比高差は、約1mである。

上辻・下辻遺跡の南西の櫛引台地上で、觀音山の北東側には、三ヶ尻古墳群（第2図）・三ヶ尻天王遺跡（第1図-7）・三ヶ尻林遺跡（第1図-8）・三ヶ尻上古遺跡（第1図-20）がある。三ヶ尻天王遺跡から古墳6基、三ヶ尻林遺跡から古墳16基が検出され、従来から知られていたもの以外にも新しい古墳が発見され、調査された。三ヶ尻林遺跡の4号古墳（第2図-5）は、最も良く当時の姿をとどめており、墳丘の高さ3m、直径23mの円墳である。石室は全長5.85mで、玄室はやや胴の張る長方形プランである。墳丘には円筒埴輪のほかに、人物・馬・家等の形象埴輪及び須恵器の大甕破片が認められている。石室内から直刀・鉄鎌・刀子・耳環・ガラ

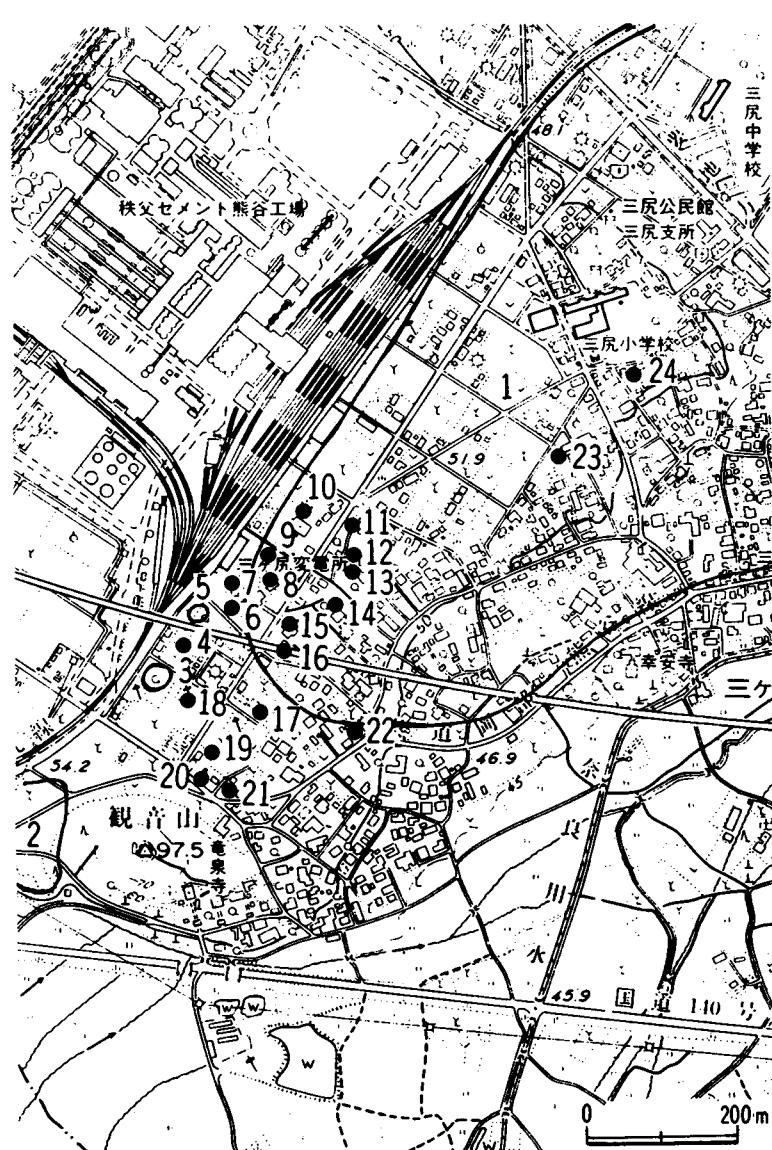
ス小玉・土製丸玉・銅鉈等が出土している。前庭部付近からは、須恵器の提瓶・小型高坏・短頸壺が出土している。このやねや塚の石室は、現在、觀音山の南麓に復元して保存されている。

三ヶ尻林遺跡からは縄文時代前期（黒浜・諸磣期）の住居跡・土塁も検出され、三尻小学校の校庭からは縄文中期の土器が出土している。弥生時代中期の須和田式土器は、三ヶ尻上古遺跡から出土している。

本遺跡の西側には、三尻中学校遺跡（第1図-4）があり、北東には樋ノ上遺跡（第1図-3）、南東には黒沢館跡（第1図-10）がある。

三尻中学校遺跡からは、鬼高一期・真間期・国分期の竪穴住居跡が16軒検出された。樋ノ上遺跡からは、竪穴住居跡・掘立建物跡・溝跡・火葬墓・土葬墓等が多数検出された。竪穴住居跡は、鬼高一期～国分期のもので、火葬墓・土葬墓は、中世～近世のものである。

黒沢館跡は、堀が一周しており、平面形が台形を呈し、東辺約61m、西辺約33m、南辺約55m、北辺約56mを測る。虎口跡・柱穴跡・土塁・集石遺構・土塁跡等が検出され、貞和4年（1348年）の板碑・内耳土器・かわら



第2図 三ヶ尻古墳群分布図

番号	名 称	種 別	県コード
1.	集落跡	59-63	
2.	集落跡	59-64	
3.	二子山古墳	前方後円墳	59-65
4.	円墳	59-66	
5.	やねや塚古墳 (林遺跡4号墳)	円墳	59-67
6.	御経塚古墳 (林遺跡8号墳)	円墳	59-68
7.	円墳	59-69	
8.	稻荷塚古墳	円墳	59-70
9.	円墳	59-71	
10.	天王遺跡6号墳	円墳	59-72
11.	円墳	59-73	
12.	円墳	59-74	
13.	円墳	59-75	
14.	円墳	59-76	
15.	林遺跡6号墳	円墳	59-77
16.	浅間様古墳 (林遺跡7号墳)	円墳	59-78
17.	円墳	59-79	
18.	三尻No80古墳	円墳	59-80
19.	円墳	59-81	
20.	円墳	59-82	
21.	円墳	59-83	
22.	円墳	59-84	
23.	円墳	59-85	
24.	円墳	59-86	

け・漆器片等が出土した。

本遺跡の南東部には、広瀬古墳群（第1図-11）、坪井古墳群（第1図-13）、石原古墳群（第1図-14）が分布している。広瀬古墳群は、上円下方墳である宮塚古墳（第1図-12）を含み、3基の古墳が残っている。石原古墳群は、四八塚として多くの古墳が存在していた。石室の壁は川原石を利用し、天井は秩父青石の平石を用いて構築されていた。出土遺物は、埴輪・須恵器・土師器・直刀・金環・管玉などが知られている。

本遺跡の北東部には、原島古墳群（第1図-15）、玉井古墳群（第1図-16）、別府古墳群（第1図-17）、寺東遺跡（第1図-18）、天神遺跡（第1図-19）、新ヶ谷戸遺跡（第1図-21）が分布している。

寺東遺跡と天神遺跡は、現地表から2～3m下の面で、遺構、遺物が確認された。寺東遺跡は、縄文時代中期～後期の埋甕・敷石住居跡が検出され、天神遺跡からは、五領期の包含層・鬼高窓の住居跡・国分期の溝跡が検出された。新ヶ谷戸遺跡からは、古墳1基、真間期の竪穴住居跡8軒、大溝等が検出された。

参考文献

昭和38年○「熊谷市史」前篇

昭和51年○高山清司「三ヶ尻上古遺跡」 埼玉県土器集成4

昭和53年○小川良祐・金子真土「県立熊谷西高校（樋ノ上遺跡）体育館予定地の発掘調査及び校舎・管理棟・体育館予定地出土遺物の整理」 資料館報No9 埼玉県立さきたま資料館

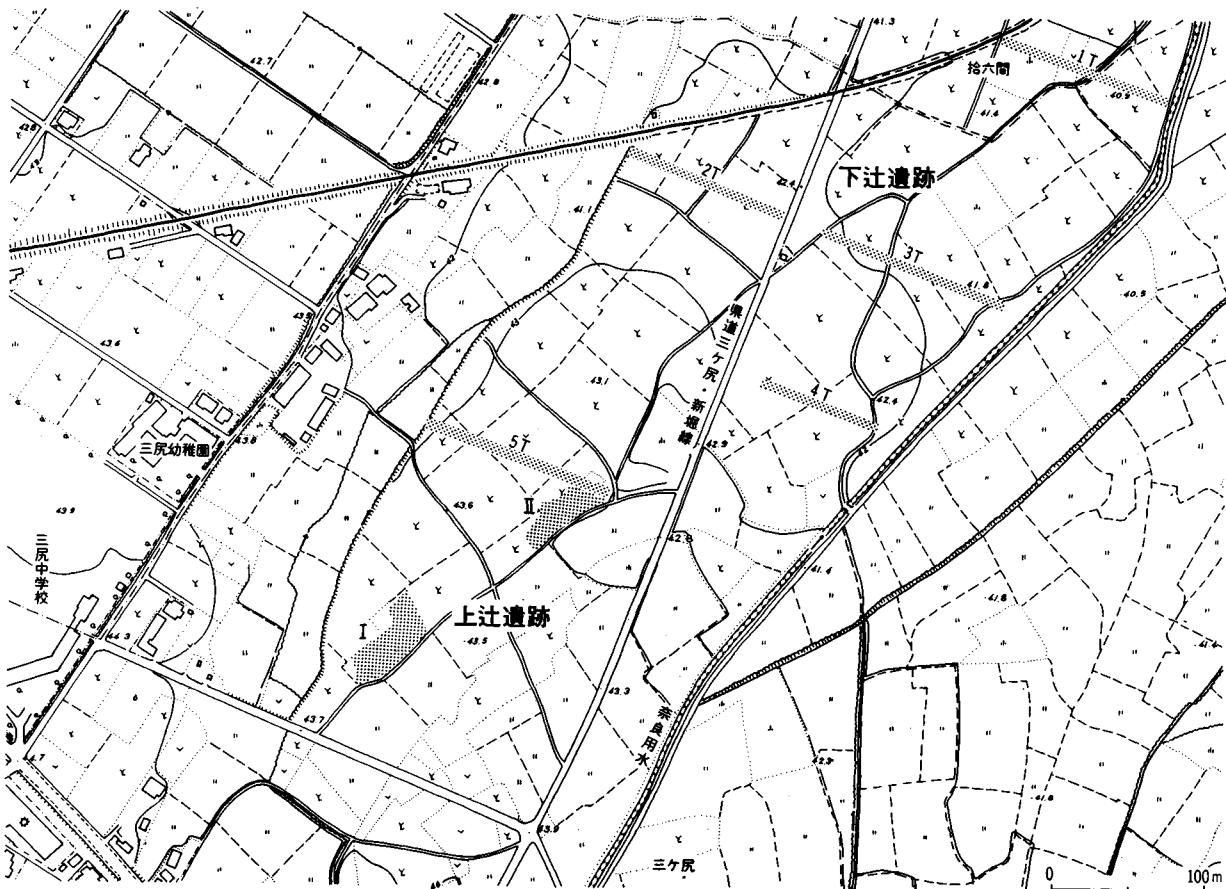
昭和57年○「三ヶ尻古墳群」 新編埼玉県史 資料編2

○寺社下博「三尻中学校遺跡」 埼玉県埋蔵文化財調査年報（昭和55年度）

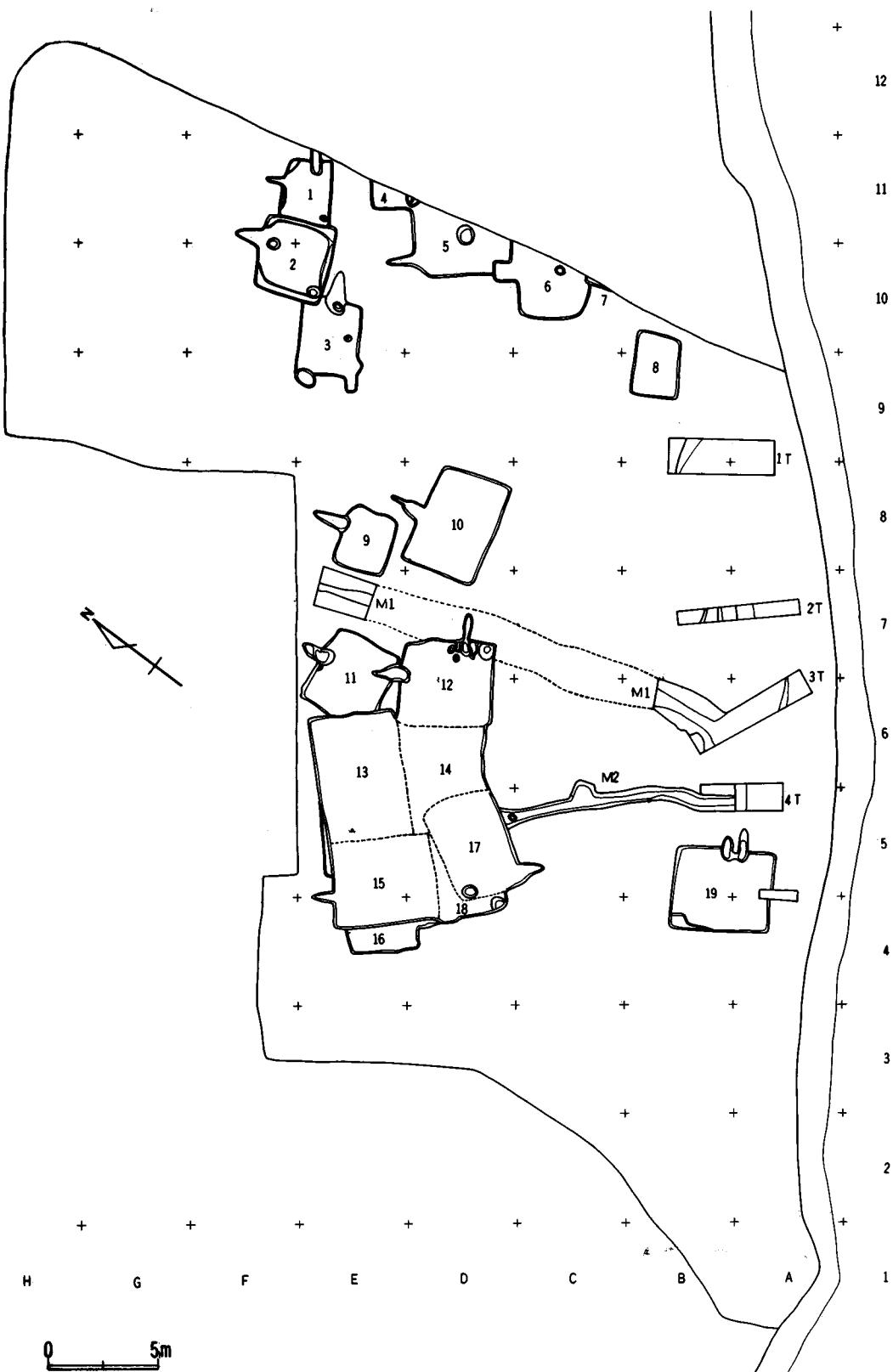
○利根川章彦「新ヶ谷戸」 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第9集

昭和58年○小久保徹他「三ヶ尻天王・三ヶ尻林（1）」 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第23集

昭和59年○金子正之「熊谷市黒沢館跡の調査」 第17回遺跡発掘調査報告会発表要旨 埼玉考古学会

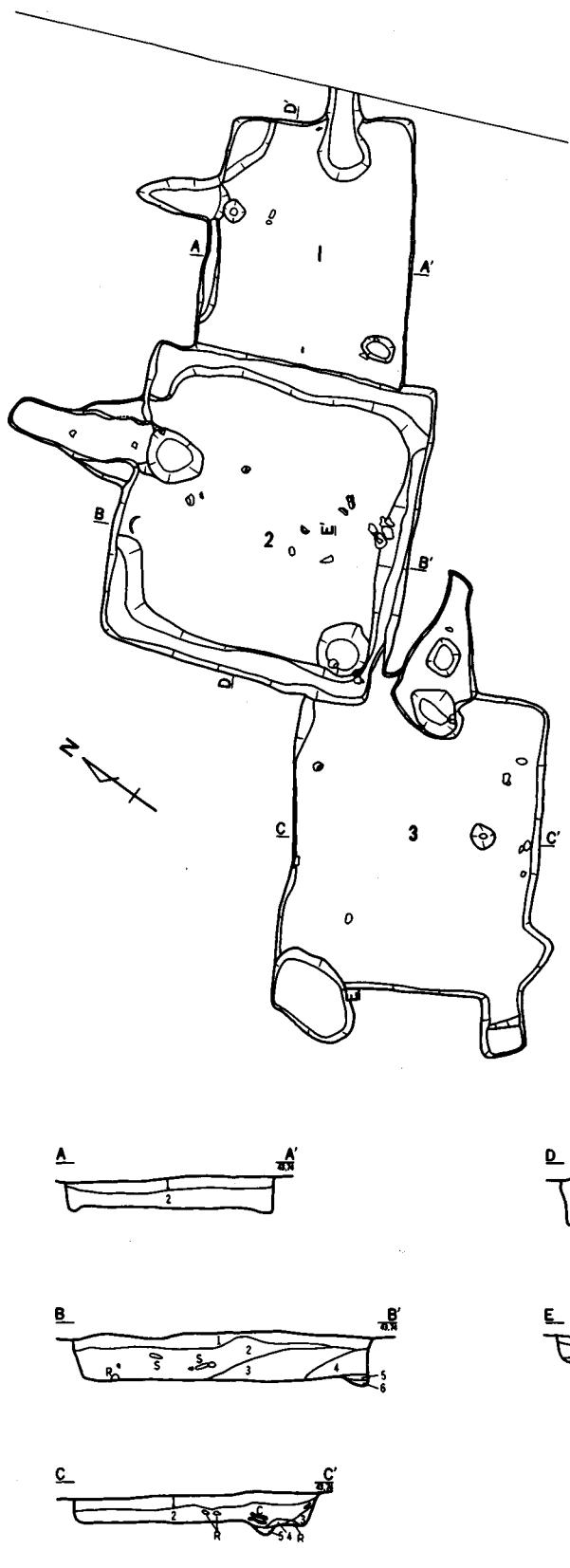


IV. 上辻遺跡



第4図 上辻遺跡I区全測図

1 遺跡の概観



上述遺跡は、荒川左岸にある自然堤防上に立地しており、今回の調査区は面的に削平される2地区であった。調査区は、南側をI区、北側をII区と呼称し、I区から調査を実施した。

I区は、奈良～平安時代の竪穴式住居跡19軒、溝跡2本が検出された。住居跡は掘り込みが深く、残存状態の良好なものが多かった。1号～3号住居跡や4号～7号住居跡・11号～18号住居跡のように、多数の住居跡の複合しているものが多く見られた。

II区は、古墳時代中期末・奈良～平安時代の竪穴式住居跡10軒、溝跡1本が検出された。II区の調査から、本遺跡が、古墳時代から営まれていたことが確認された。溝跡覆土からは、縄文式土器片が出土し、縄文時代の遺構もあることが想定される。

- A-A'
 - 1. 暗褐色土（ローム粒子を含む）
 - 2. 暗褐色土（ローム粒子を多く含む）
- B-B'
 - 1. 暗褐色土（ローム粒子を含む）
 - 2. 暗褐色土（ローム粒子を多く含み、ロームブロックも少し含む）
 - 3. 暗褐色土（ローム粒子、ロームブロックを含み、炭化物も含む）
 - 4. 暗褐色土（ローム粒子を含む）
 - 5. 黄褐色土（ローム質）
 - 6. 暗褐色土（ロームブロックを含む）
- C-C'
 - 1. 暗褐色土（ローム粒子を少し含む）
 - 2. 暗褐色土（ローム粒子及びロームブロックを含み、1部炭化物も含む）
 - 3. 暗褐色土（ローム粒子を含む）
 - 4. 暗褐色土（ローム粒子を多く含む）
 - 5. 暗褐色土（ロームを多く含む）
- D-D'
 - 1. 暗褐色土（ローム粒子を含む）
 - 2. 暗褐色土（ローム粒子を多く含み、ロームブロックも少し含む）
 - 3. 黒褐色土（ロームブロックを含む）
 - 4. 黑褐色土
- E-E'
 - 1. 暗褐色土（ローム粒子を含む）
 - 2. 暗褐色土（ローム粒子及びロームブロックを含む）
 - 3. 黑褐色土（ローム粒子を少し含む）
 - 4. 暗褐色土（ロームブロックを多く含む）
 - 5. 暗褐色土（ロームを多く含む）

第5図 I区1～3号住居跡

2 遺構

(1) 上述遺跡 I 区

1号住居跡（第5図、図版3）

位置 本住居跡は、I区の北端に位置し、2号概要 住居跡と複合して検出された。平面形は、長方形を呈し、長軸の方位は、N-63°-Eを示している。ピットは、南西隅で検出され、径2.8×3.6cmを測る。

周溝は、北壁に沿って認められ、幅14~20cm、深さ6cmを測る。貯蔵穴は、北カマドの東側にあり、長径90cm、短径50cmを測る。

土層は、ローム粒子を多く含み、ロームブロックも少し含む暗褐色土が堆積したのち、ローム粒子を含む暗褐色土が堆積していた。

壁は、ほぼ垂直に立ち上がり、壁高は、25~40cmを測る。床面は、固く踏みしめられていた。

カマドは、北壁と東壁の二ヵ所に認められた。

規模 短軸2.29m

遺物 遺物は、北東側に多く出土し、104点検出され、土器片が95点、川原石が8点、土錘が1点である。大きさから考えて編物石と思われる川原石は、3点である。

2号住居跡（第5図、図版4）

位置 本住居跡は、1号住居跡と3号住居跡の間にあり、両住居跡によって切られていた。平面形は、正方形に近く、主軸の方位は、N-21°-Wを示す。柱穴は検出されなかった。

周溝は、カマドの部分を除いて一周しており、幅20~36cm、床面からの深さは約10cmである。貯蔵穴は、南西隅に検出され、径58×60cm、床面からの深さは20cmである。

土層は、南側から堆積していき、ローム

粒子を含む暗褐色土、ローム粒子、ブロックを含み、炭化物も含む暗褐色土、ローム粒子を多く含む暗褐色土、ローム粒子を含む暗褐色土の順に堆積していた。

壁は、ほぼ垂直に立ち上がり、壁高は、35~50cmである。床面は、固く踏みしめられていた。

カマドは、北壁の東側に認められた。

規模 長軸3.55m、短軸3.30m

遺物 遺物は、南壁よりに集中がみられ、268点検出された。土器片221点、川原石47点である。土師器は、甕・長甕・壺・塊、須恵器は、壺が出土した。

3号住居跡（第5図、図版5）

位置 本住居跡は、2号住居跡の南西に位置し、概要 2号住居跡と複合していた。平面形は、長方形を呈し、主軸方位は、N-60°-Eを示す。ピットは、南壁寄りと、北西隅にみられた。前者は径23×26cm、後者は径0.74×1.14mの大きさである。南西隅には、49×68cmの長方形の張出しが検出された。

北西隅のピットは、貯蔵穴と考えられ、周溝は検出されなかった。

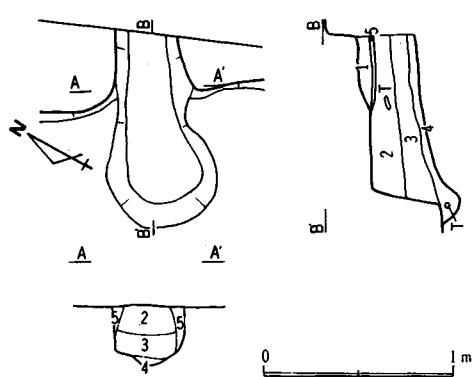
土層は、南壁寄りにローム粒子を多く含む暗褐色土が堆積した後、ローム粒子・ブロック・炭化物を含む暗褐色土、ローム粒子を少し含む暗褐色土の順に堆積していた。

壁は、ほぼ垂直に立ち上がり、壁高は、25~35cmである。床面は、固く踏みしめられていた。

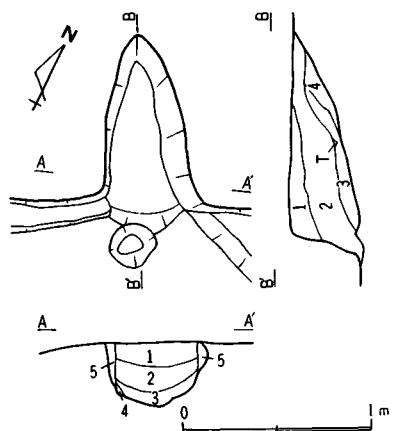
カマドは、東壁の中央に認められ、北側の袖には、川原石が立てられていた。

規模 長軸3.40m、短軸2.75m

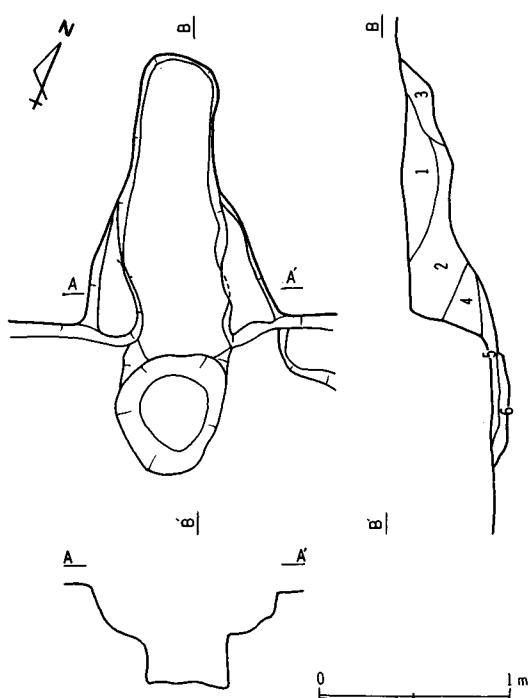
遺物 遺物は、カマドの中と、周辺に多く出土し、82点検出された。土器片が76点、川原石が6点である。土師器は甕、須恵器は壺が出土し、川原石は、カマドの燃焼部に3点、袖石として1点検出された。



第6図 I区1号住居跡東カマド



第7図 I区1号住居跡北カマド



第8図 I区2号住居跡カマド

1号住居跡カマド（第6・7図）

位 置 1号住居跡の北壁の東側と、東壁の南側概要の2ヵ所に設置されていた。

北カマドは、主軸がN-30°-Wを示し、焚口部に径24cmのピットがあり、燃焼部が壁外にある。土層は、暗褐色土が堆積しており、1層は火山灰、2層は多くのローム粒子、3層は多くの焼土、4層はロームブロックをそれぞれ含んでいた。

東カマドは、主軸がN-58°-Eを示し、焚口部は床面から10cm掘りくぼめられていた。土層は、暗褐色土が堆積しており、2層は少しのローム・焼土粒子、3層は炭化物・焼土粒子、4層はローム・焼土ブロックをそれぞれ含んでいた。5層は、北・東カマドとも焼土層であった。

規 模 北カマド—焚口幅50cm、全長120cm

東カマド—焚口幅58cm、確認長102cm

遺 物 北カマドから、土器片8点、10×25cmの大きさの川原石1点、東カマドから、土器片8点、川原石2点が検出された。

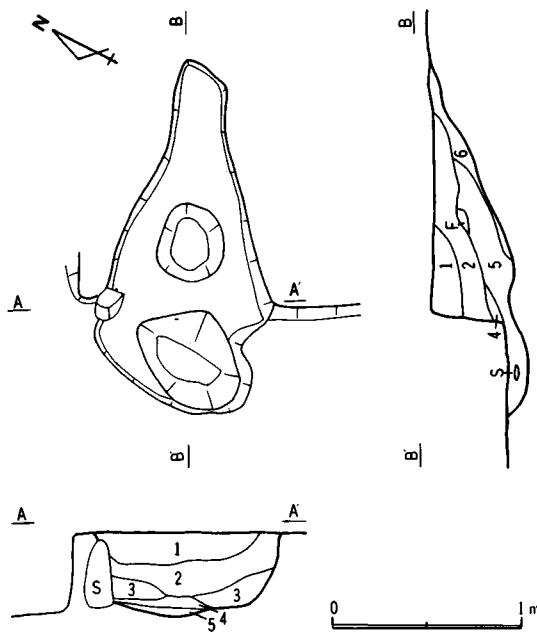
2号住居跡カマド（第8図、図版4）

位 置 2号住居跡の北壁の東側に設置されており、主軸はN-24°-Wを示している。焚口部は、不整円形に掘られていて、燃焼部はゆるやかに上がり、34°の角度で立ち上がり煙道部に続いていた。

土層は、1～5層が暗褐色土で、6層は黒褐色土であった。1層はロームブロック・焼土ブロック、2層はローム粒子、4層は焼土粒子・多くのローム粒子、5層は炭化物・多くの焼土、6層は炭化物・焼土粒子をそれぞれ含んでいた。

規 模 焚口部一大きさ54×62cm、床面からの深さ8cm、燃焼部一幅50cm、奥行70cm、煙道部一幅36cm、奥行80cm

遺 物 遺物は、焚口部で7点、燃焼部で2点検出された。



第9図 I区 3号住居跡カマド

3号住居跡カマド (第9図、図版5)

位 置 3号住居跡の東壁のほぼ中央に設置され

概 要 ており、主軸はN-68°-Eを示し、焚口部と燃焼部は、不整円形の掘り込みがあった。

北袖には川原石が立てられ、燃焼部は、20°で立ち上がっていた。土層は、1～4層が

暗褐色土、5・6層が黒褐色土であった。

2層はローム粒子、3層はロームブロック、

4層は焼土をそれぞれ多く含み、5層は焼

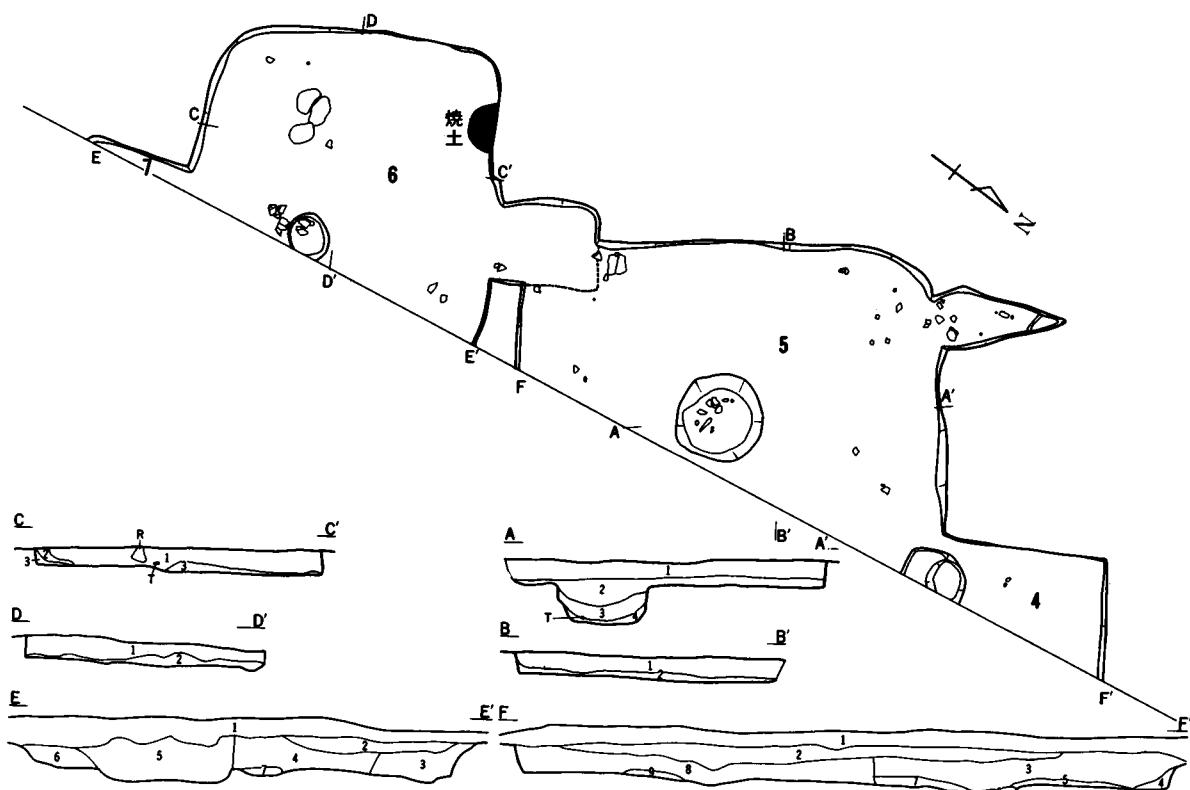
土粒子・炭化物、6層は焼土を含んでいた。

規 模 焚口部一幅87cm、奥行66cm、深さ10cm、

燃焼部一幅85cm、奥行98cm、煙道部一幅28

cm、残存長32cm

遺 物 焚口部15点、燃焼部19点、煙道部2点



C-C' D-D'

1. 暗褐色土 (ローム粒子を含む)
2. 黒褐色土 (焼土を含み、ローム粒子を少し含む)
3. 暗褐色土 (ローム粒子を多く含み、ロームブロックを含む)

A-A' B-B'

1. 暗褐色土 (ローム粒子を多く含む)
2. 暗褐色土 (ロームブロック及びローム粒子を含む)
3. 暗褐色土 (ロームブロックを含む、2より黒い)
4. 灰白色土 (酸化鉄を含む)

E-E' F-F'

1. 暗褐色土 (砂質・火山灰を多く含む)
2. 黒褐色土 (ローム粒子を少し含む)
3. 暗褐色土 (ローム粒子を多く含み、ロームブロックも含む)
4. 暗褐色土 (ローム粒子: ブロックを少し含む)
5. 暗褐色土 (ローム粒子を多く含む)
6. 暗褐色土 (ローム粒子・ブロックを含む)
7. 暗褐色土 (ロームブロックを含む)

F-F'

1. 暗褐色土 (砂質・火山灰を多く含む)
2. 黒褐色土 (ローム粒子を少し含む)
3. 暗褐色土 (ローム粒子を含み、ロームブロックを少々含む)
4. 黑褐色土 (ローム粒子を少し含む)
5. 暗褐色土 (ローム粒子を含む)
6. 黑褐色土
7. 暗褐色土 (ロームブロックを少し含む)
8. 暗褐色土 (ローム粒子・ブロックを含み、炭化物を少し含む)
9. 暗褐色土 (焼土粒子、炭化物を含む)

第10図 I区 4~7号住居跡

0 2m

4号住居跡（第10図、図版6—1）

位置 本住居跡は、I区の北東部にあり、方形概要を呈し、主軸はN—54°—Eを示すと考えられる。ピットは南西隅にあり、長径70cm、深さ19cmであり、壁高は30cmを測る。

規模 西辺3.02m

遺物 土器片2点

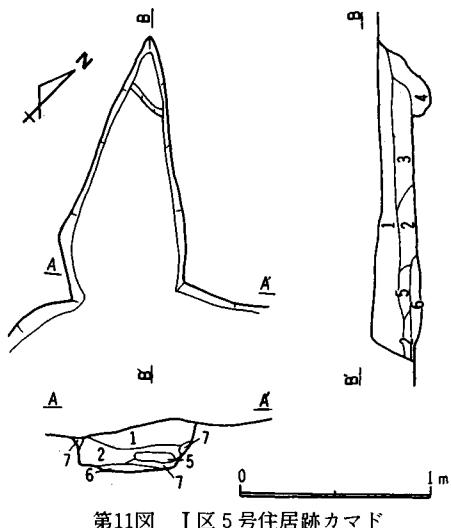
5号住居跡（第10図、図版6）

位置 本住居跡は、4号住居跡の南にあり、長方形を呈すると考えられる。主軸はN—37°—Wを示す。ピットはほぼ中央にあり、径92cm、深さ42cmを測る。周溝は検出されなかった。壁高は29cmを測る。

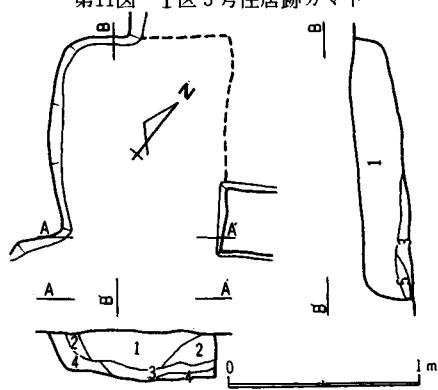
カマドは、北壁の北西隅に設置されていた。本住居跡は4号住居跡に切られていた。

規模 長軸4.60m

遺物 カマド及びその周辺に多く検出され、土器片12点、埴輪片17点、鉄滓1点、川原石10点



第11図 I区5号住居跡カマド



第12図 I区6号住居跡カマド

6号住居跡（第10図、図版7）

位置 本住居跡は、5号住居跡の南に位置し、隅丸方形を呈す。主軸はN—34°—Wを示す。ピットは南東部に検出され、径42×50cm、深さ6cmを測る。周溝は検出されなかった。壁高は36cmを測る。カマドは、北壁に設置されており、焼土は、カマドの南側で北壁に接して検出された。

規模 長軸3.10m

遺物 土器片13点、川原石3点検出され、ピットの周辺から甕の破片が出土した。川原石は、3点が固まって出土した。

7号住居跡（第10図、図版7—1）

位置 本住居跡は、6号住居跡の南に位置し、**概要** 西側だけが検出された。壁高は48cmを測る。ピット・周溝・カマドは検出されなかった。本住居跡は、6号住居跡を切っていた。

規模 西辺1.5m

遺物 なし

5号住居跡カマド（第11図、図版6—2）

位置 5号住居跡の北壁の北西隅に設置されており、主軸はN—36°—Wを示す。焚口部と燃焼部の区別がつかず、竪穴外に張出していた。土層は、1～4層が暗褐色土、5層が黄褐色土、6層が黒褐色土であった。2・6層は焼土ブロックを多く含んでいた。

規模 幅58cm、奥行1.65m

遺物 土器片3点、埴輪片8点、川原石1点

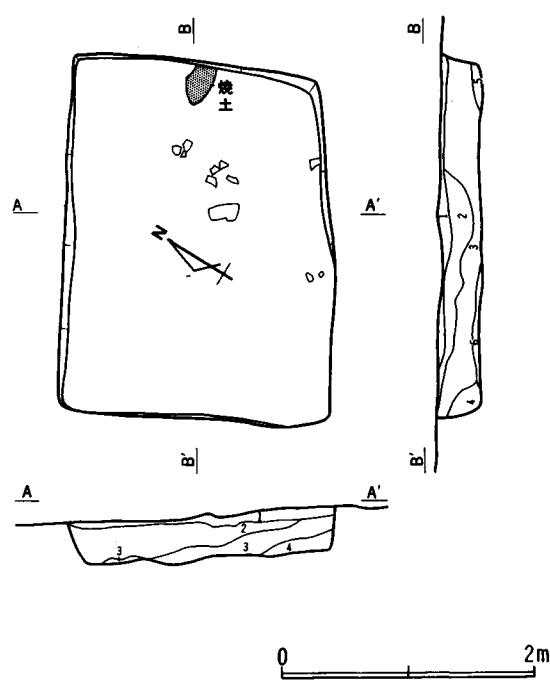
6号住居跡カマド（第12図）

位置 6号住居跡の北壁に設置されており、主軸はN—40°—Wを示す。焚口部と燃焼部の区別がつかず、竪穴外に張出していた。掘りこみの平面形は、長方形であった。土層は、1・2層が暗褐色土、3・4層が黒褐色土、5層が焼土であった。2・4層はロームブロック、3層は焼土を含んでいた。

規模 幅82cm、奥行1.35m

遺物 土器片3点

8号住居跡（第13図、図版8）



第13図 I区8号住居跡

位置 本住居跡は、I区の南東部にあり、6号
概要 住居跡から南へ約3mの所に位置していた。平面形は、長方形を呈し、長軸は、N—62°—Eを示す。

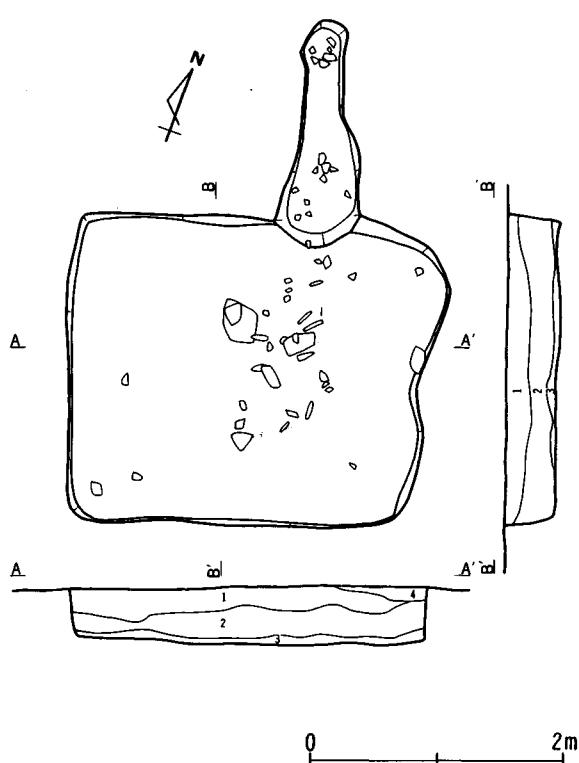
ピット・周溝・カマドは、検出されなかった。壁高は35cmを測り、床面は北西へ若干傾斜していた。東壁中央には、焼土が検出された。

土層は、1～5層が暗褐色土、6層が黄褐色土であり、南側から堆積していた。2層は焼土粒子、3層はロームブロック、4層は多くのローム粒子、5層は炭化物・焼土をそれぞれ含んでいた。

規模 長軸2.80m、短軸2.10m

遺物 遺物は、22点検出され、土器片20点、川原石2点が出土した。土師器の甕と川原石が接して、東側から検出された。

9号住居跡（第14図、図版9）



第14図 I区9号住居跡

位置 本住居跡は、I区の中央部の北側に位置
概要 し、平面形は長方形を呈す。長軸の方位はN—14°—Wを示す。ピット・周溝は、検出されなかった。

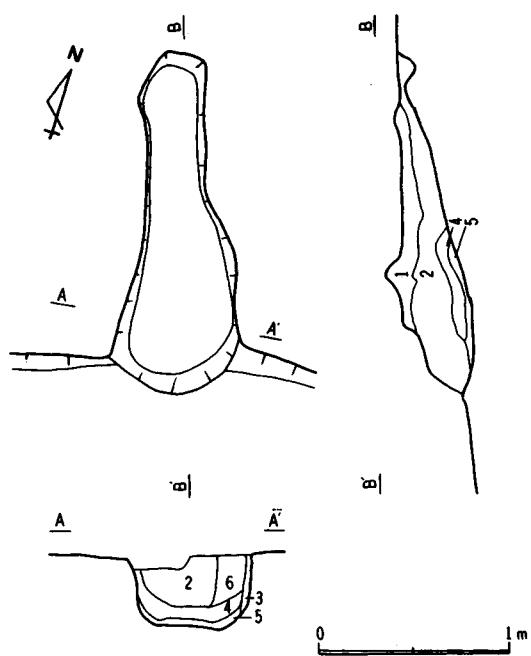
土層は、1～3層が暗褐色土、4層が褐色土であった。1層は火山灰、2層は炭化物、3層は多くのローム粒子、4層は多くの火山灰をそれぞれ含んでいた。

壁は、ほぼ垂直に立ち上がり、壁高は40cmを測る。床面は、北東側が若干低くなっていた。

カマドは、北壁の東側に設置されていた。

規模 長軸2.80m、短軸2.40m

遺物 遺物は、128点検出され、土器片96点、土錐1点、川原石31点が出土した。カマド及びその周辺と、竪穴の中央に遺物が集中していた。川原石は、竪穴の中央に多く出土し、長径40cmの大きなものも検出された。



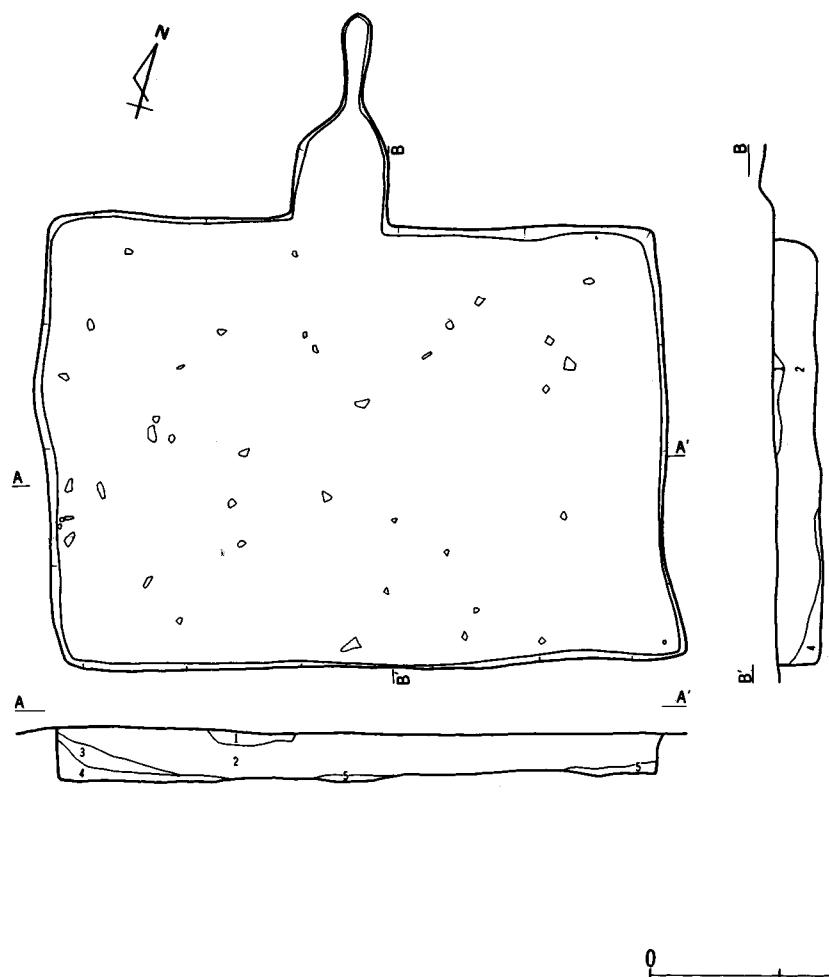
第15図 I区 9号住居跡カマド

9号住居跡カマド (第15図、図版10—1)

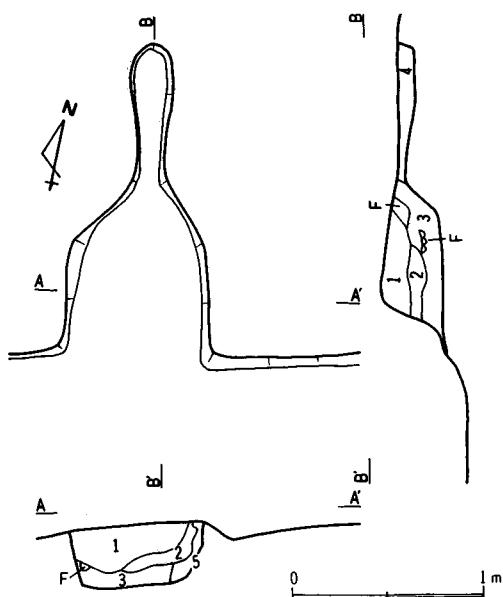
位 置 9号住居跡の北壁の東側に設置されており、主軸はN—19°—Wを示す。掘り込みは竪穴の外に張り出し、燃焼部は17°の角度で上がり、煙道部も17°で立ち上がっていた。
概 要 土層は、1・2・4～6層が暗褐色土、3層が焼土であった。2層は少しの炭化物・焼土粒子、4層は多くの焼土ブロック、5層は焼土粒子・炭化物、6層は多くのローム粒子をそれぞれ含んでいた。

規 模 幅60cm、奥行1.80m

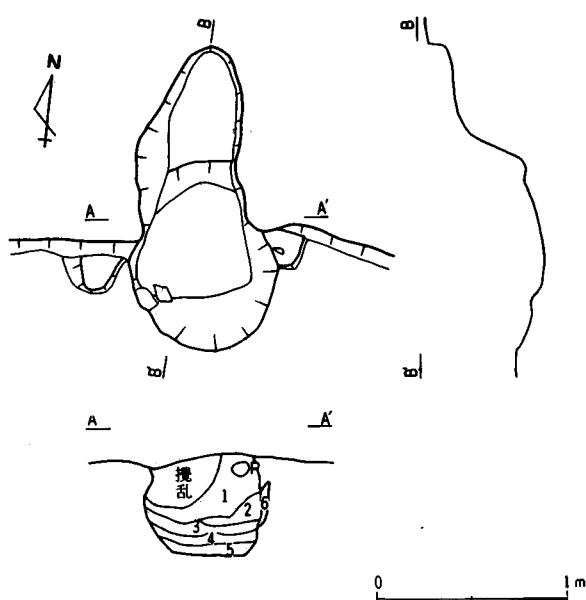
遺 物 遺物は、焚口部・燃焼部に多く検出され、煙道部の先端には完形の土師器の壊が出土した。焚口・燃焼部で、土器片22点、川原石1点、煙道部で土器片3点、完形土器1点が出土した。



第16図 I区 10号住居跡実測図



第17図 I区10号住居跡カマド



第18図 I区11号住居跡カマド

10号住居跡（第16図、図版9-1）

位 置 本住居跡は、9号住居跡の南東50cmの所
概 要 に位置し、平面形は長方形を呈す。主軸の
方位は、N-12°-Wを示す。ピット・周溝
は、検出されなかった。

土層は、1層が褐色土、2・3・5層が

暗褐色土、4層が黒褐色土であった。1層
は火山灰、2層はローム粒子・ブロック、
3層は焼土粒子・炭化物、6層は多くのロ
ーム粒子をそれぞれ含んでいた。

壁高は40cmを測り、カマドは北壁のほぼ
中央に設置されていた。

規 模 長軸4.90m、短軸3.45m

遺 物 遺物は、土器片154点、鉄滓1点、軽石
1点、川原石110点が出土した。

10号住居跡カマド（第17図、図版10-2）

位 置 10号住居跡の北壁に設置されており、主
概 要 軸はN-8°-Wを示す。燃焼部は竪穴外に
張出していた。土層は、1・2・4層が暗
褐色土、3・5層が焼土を含む黒褐色土で
あった。

規 模 燃焼部一幅80cm、奥行90cm、煙道部一幅
12~24cm、奥行76cm

遺 物 焚口部で土器片が10点検出された。

11号住居跡（第19・20図、図版12・13）

位 置 本住居跡は、I区の中央の北側に位置し、
概 要 12・13号住居跡と複合していた。平面形は
正方形に近く、主軸の方位はN-8°-Wを
示す。ピット・周溝は検出されず、土層は
ローム粒子・ブロック・炭化物を含む暗褐
色土が堆積し、壁高は45~55cmであった。

規 模 長軸3.90m、短軸3.85m

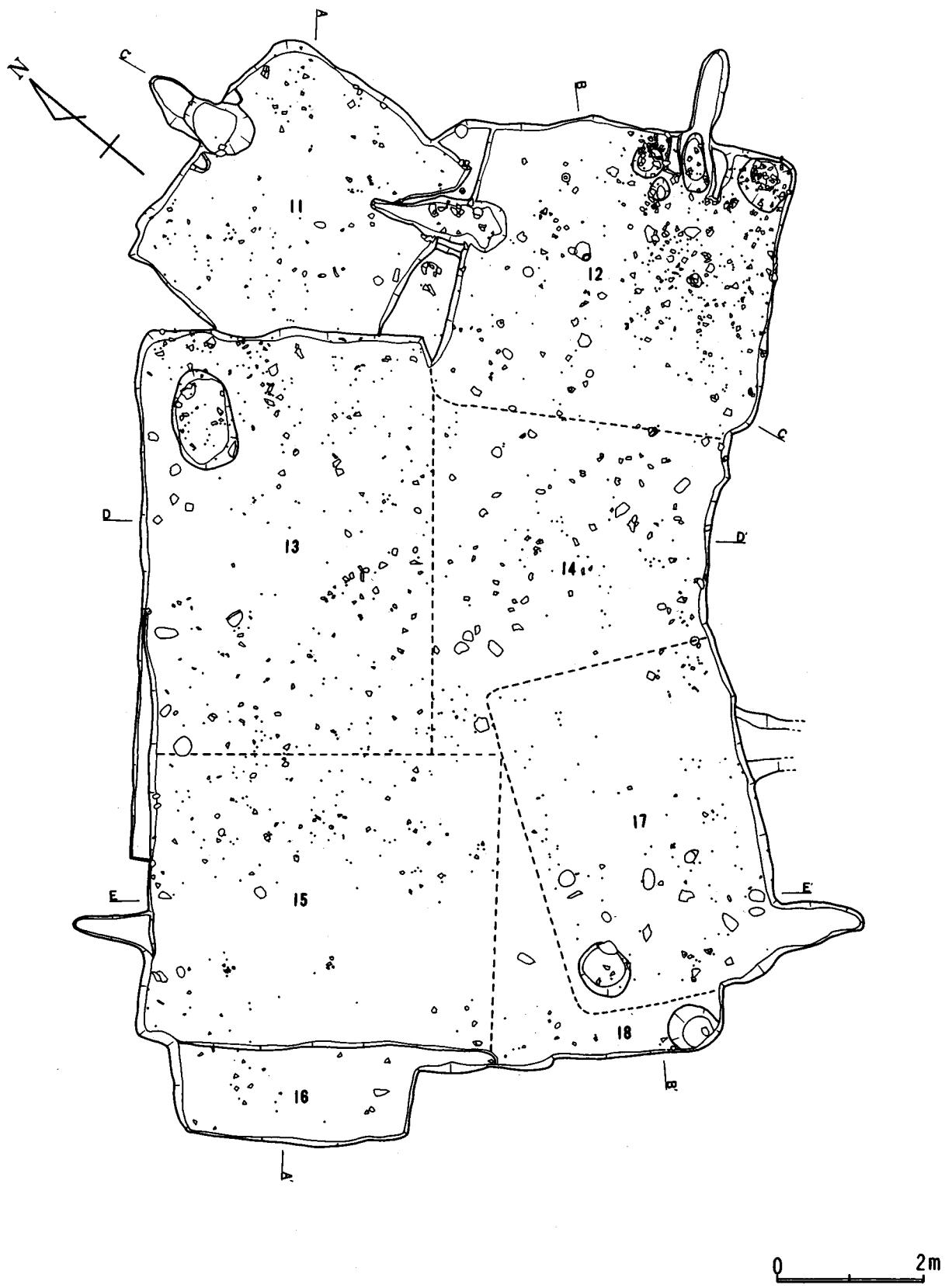
遺 物 土器片127点、鉄滓1点、川原石5点

11号住居跡カマド（第18図、図版13-2）

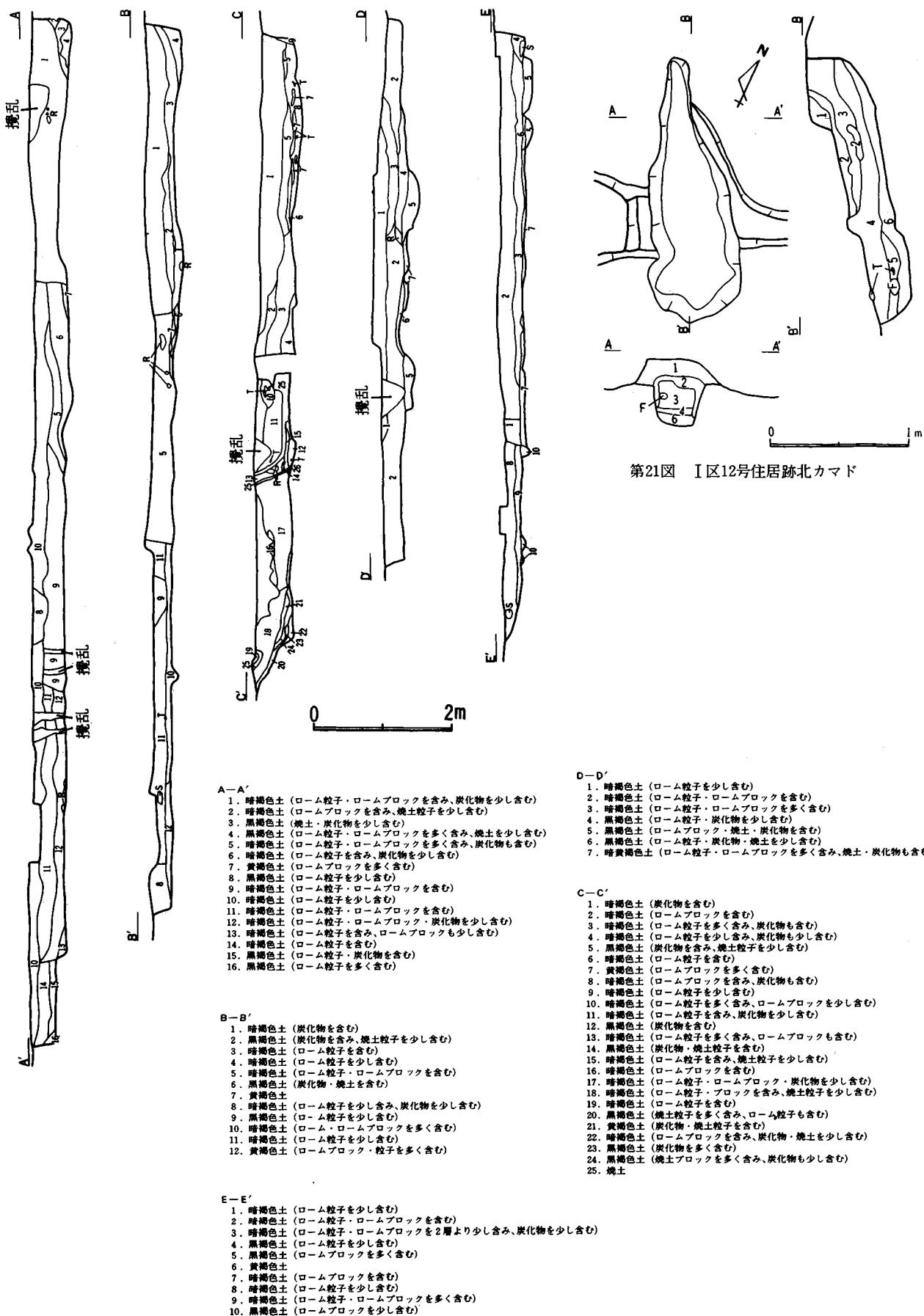
位 置 11号住居跡の北壁の東側に設置されてお
概 要 り、主軸はN-11°-Wを示す。燃焼部は床
面から14cm掘りくぼまれ、煙道部は28°の角
度で立ち上っていた。土層は、1・5層
は暗褐色土、2層が黄褐色土、3・4層が
黒褐色土であった。

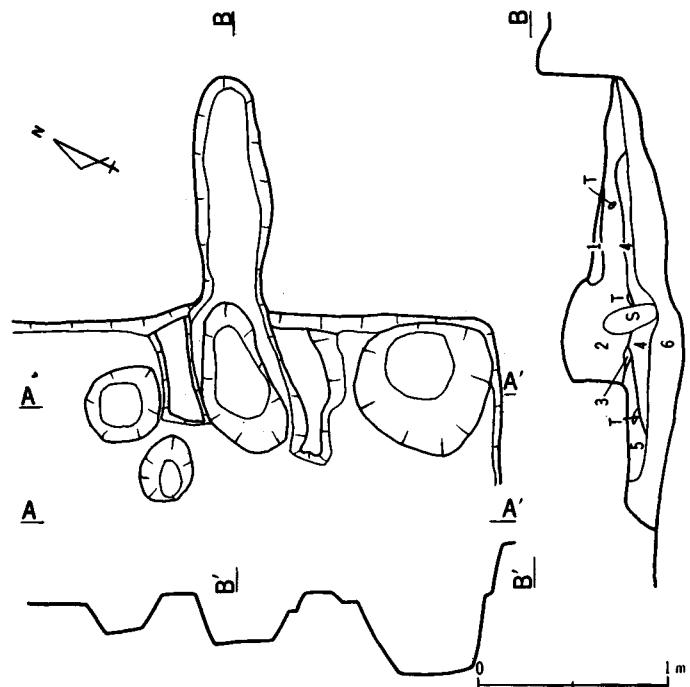
規 模 焚口部一奥行37cm、燃焼部一幅77cm、奥
行48cm、煙道部一幅40cm、奥行75cm

遺 物 土器片5点



第19図 11~18号住居跡(1)





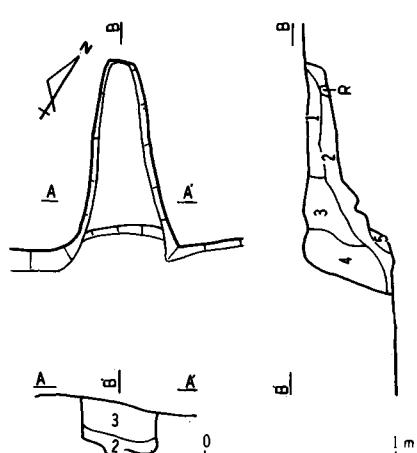
第22図 I区12号住居跡東カマド

15号住居跡 (第19・20図)

位 置 本住居跡は、13・16・18号住居跡と複合
概 要 していた。平面形は長方形を呈し、主軸は
 $N-42^{\circ}-W$ を示す。ピット、周溝は検出さ
れなかった。壁高は47cmを測り、カマドは
北壁の西側に設置され、燃焼部は36°、煙道
部は10°の角度で上がり、土層は1・4層が
暗褐色土、2・3層が焼土を含む黒褐色土、
5層がローム粒子を多く含む褐色土。カマ
ドの主軸は $N-34^{\circ}-W$ を示す。

規 模 長軸 (4.85m) 、短軸 (3.9m)

遺 物 土器片130点、土錐1点、川原石9点



第23図 I区15号住居跡カマド

12号住居跡 (第19・20図、図版12)

位 置 本住居跡は、11号住居跡の南東に
概 要 位置し、11・13・14号住居跡と複合
していった。平面形は正方形に近く、
長軸は $N-35^{\circ}-W$ を示す。ピットは、
東カマドの北側に2個検出された。
貯蔵穴は、東カマドの南側にあり、
径70×72cm、深さ30cmであった。
壁高は58cmを測り、カマドは北壁
と東壁の2カ所に設置されていた。
規 模 長軸4.30m、短軸4.10m
遺 物 遺物は、東カマド周辺に多く検出
された。土器片570点、土製紡錘車
1点、砥石2点、鉄滓1点、川原石
29点が出土した。

12号住居跡カマド (第21・22図、図版14)

位 置 12号住居跡の北壁の東側と東壁の南側の
概 要 2カ所に設置されていた。北カマドは、主
軸が $N-30^{\circ}-W$ を示し、焚口部は床面から
22cm掘り込まれ、煙道部は12°の角度で上が
り、62°の角度で立上がっていった。東カマド
は、主軸が $N-57^{\circ}-E$ を示す。土層は、北
カマドの2層と東カマドの1層が焼土で、
黒褐色土・暗褐色土の順に堆積していた。
規 模 北カマド一幅66cm、全長195cm、東カマ
ド一焚口幅50cm、煙道幅30cm、全長198cm
遺 物 北カマド一土器片22点、川原石2点、東
カマド一土器片17点

13号住居跡 (第19・20図、図版18-2)

位 置 本住居跡は、長方形を呈し、長軸は $N-$
概 要 $44^{\circ}-E$ を示す。東辺の長さ3.75m、壁高46
cm、北東部のピット 1.39×0.83 mであった。

遺 物 土器片272点、鉄滓3点、川原石15点

14号住居跡 (第19・20図、図版19)

位 置 本住居跡は、12・13・17号住居跡と複合
概 要 しており、平面形・規模が不明である。壁
高は25cmであった。

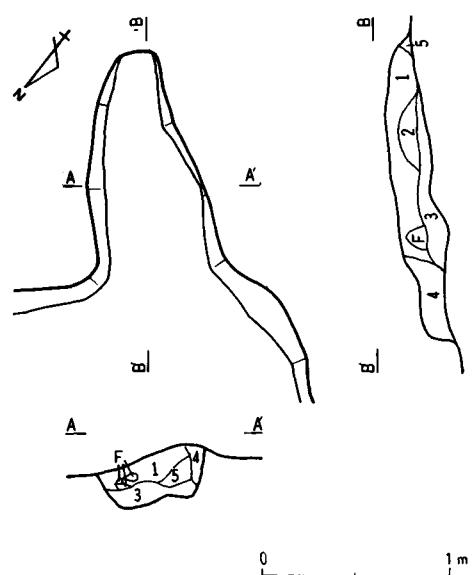
遺 物 土器片94点、川原石11点

16号住居跡（第19・20図）

位 置 本住居跡は、15号住居跡と複合しており、
概 要 主軸はN—42°—Wを示す。壁高は33cmを測
る。15号住居跡に切られている。

規 模 西辺長3.03m

遺 物 土器片23点、川原石2点



第24図 I区16号住居跡

18号住居跡（第19・20図）

位 置 本住居跡は、15・17号住居跡と複合して
概 要 おり、主軸はN—48°—Wを示す。南隅に径
56×70cmのピットがある。壁高27cmを測る。

規 模 西辺長(3.15m)

遺 物 土器片10点、川原石2点

17号住居跡（第19・20図、図版20—1）

位 置 本住居跡は、14・15・18号住居跡と複合
概 要 しており、長方形を呈し、長軸はN—52°—
Eを示す。ピットは西隅に検出され、径70
cm、深さ46cmを測る。壁高は24cmを測り、
カマドは南隅に設置されていた。

規 模 長軸(4.30m)、短軸(3.20m)

遺 物 土器片98点、炭化物1点、川原石21点

17号住居跡カマド（第24図）

位 置 主軸はS—31°—Eを示し、焚口部と燃焼
概 要 部の区別がなく、竪穴外に張出していた。
幅70cm、全長1.43mを測り、土層は1・3
が暗褐色土、残りの層が黒褐色土であった。

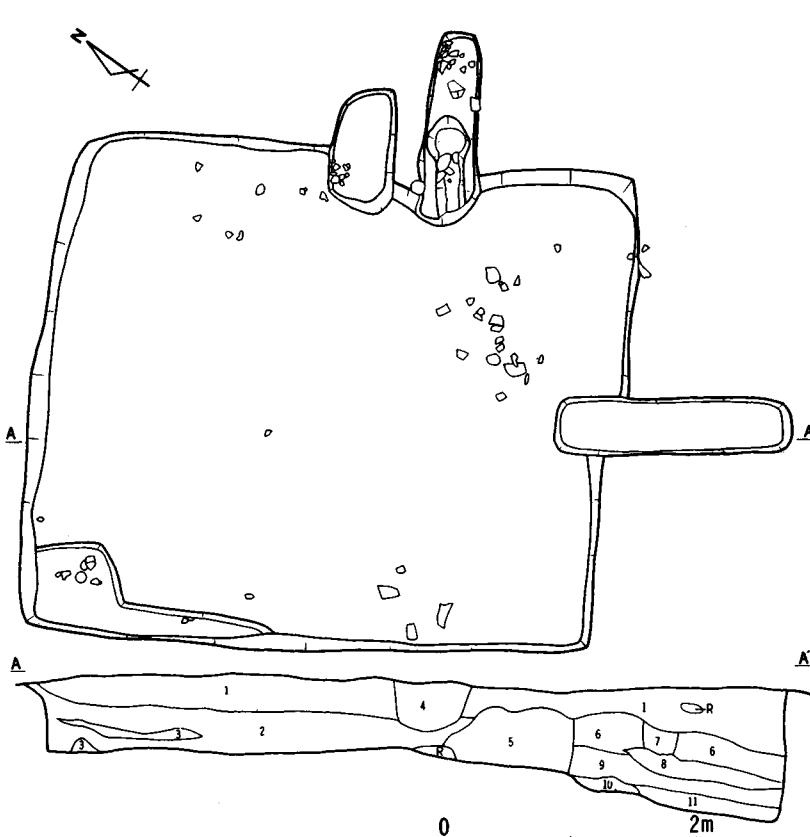
遺 物 焚口部一川原石1点

19号住居跡（第25図、図版20）

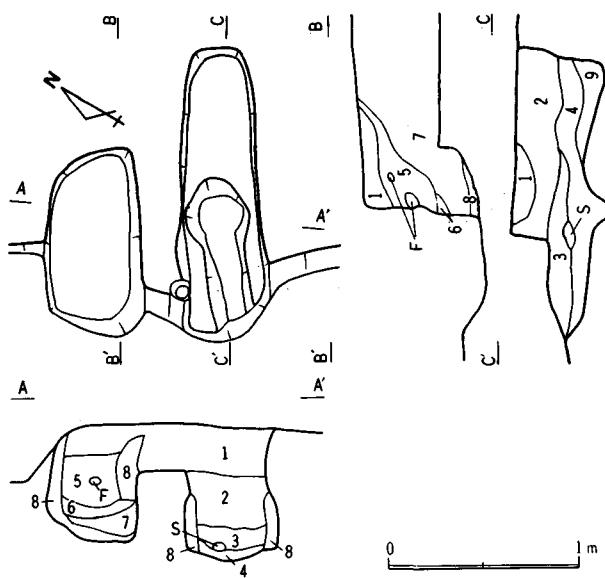
位 置 本住居跡は、I区の
概 要 南側に位置し、長方形
を呈する。主軸は、N—
61°—Eを示す。壁高は
60cmを測り、東壁に2
つのカマドが設置され
ていた。土層は、1～
3層が暗褐色土、4～
6・9層が黒褐色土、
7層が黄褐色土、8・
10層が灰黄褐色土、11
層が灰褐色土であった。

規 模 長軸4.55m、短軸4
m

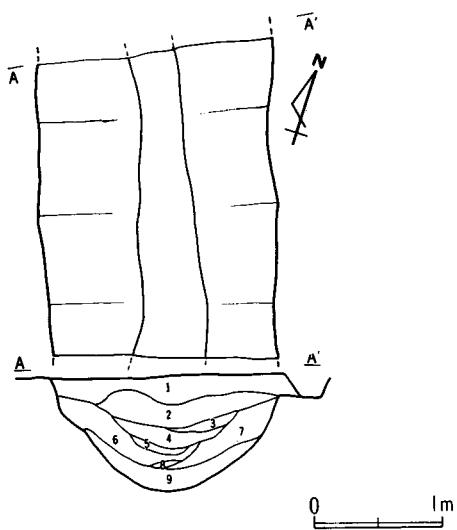
遺 物 土器片165点、川原
石4点、鉄滓2点



第25図 I区19号住居跡



第26図 I区19号住居跡カマド



第27図 I区1号溝跡

1号溝跡（第27図、図版22—2）

位 置 本溝跡は、I区の中央を北から南へ走っており、12号住居跡によって切られていた。

概 要 断面は、U字形を呈していた。1・4・8層は黒褐色土、2・5・9層は褐色土、3・6・7層はローム粒子を多く含む暗褐色土であった。3Tにより、台地自体がB-1区で南東へ落ちることが確認でき、1号溝もB-6区で南東へ落ちていた。

規 模 上幅1.75m、下幅40cm、深さ90cm

遺 物 なし

19号住居跡カマド（第26図、図版21）

位 置 19号住居跡の東壁に2個設置されており、
概 要 東側を第1カマド、西側を第2カマドと称する。主軸は、両カマドともN-57°-Eを示す。第1カマドには、焚口～燃焼部に掘込みがあった。土層は、8層が焼土、1・2・4・9層が暗褐色土、3・5～7層が黒褐色土であった。

規 模 第1カマドー幅50cm、全長1.53m

第2カマドー幅50cm、全長99cm

遺 物 第1カマドー土器片23点、川原石4点
第2カマドー土器片7点

2号溝跡（第28図、図版22）

位 置 本溝跡は、1号溝

概 要 跡の西側にあり、北西から南東へ走っていた。13・14・17号住居跡を切っており、17号住居跡の南側に23×46cmのピットがあり、更に南東3.5mの位置には、台形を呈し75cm×1.2mの大きさの張出しが検出された。断面は逆台形を呈していた。

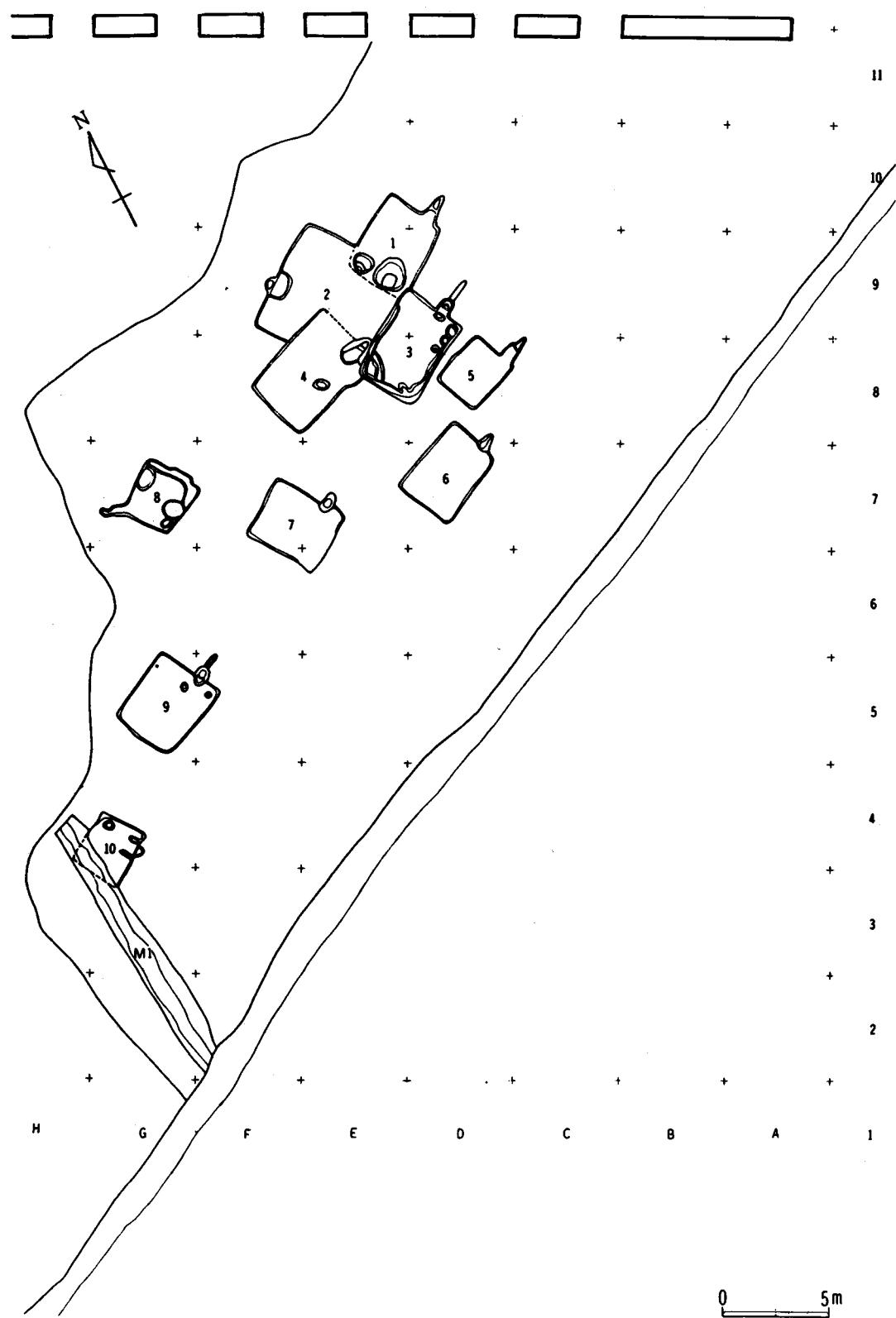
4TによりB-5区でも台地自体が南東へ落ちていることが確認でき、2号溝も、B-5区で南東へ落ちていた。覆土は、黒褐色土が堆積していた。

規 模 上幅75~90cm、下幅25~40cm、深さ18~20cm

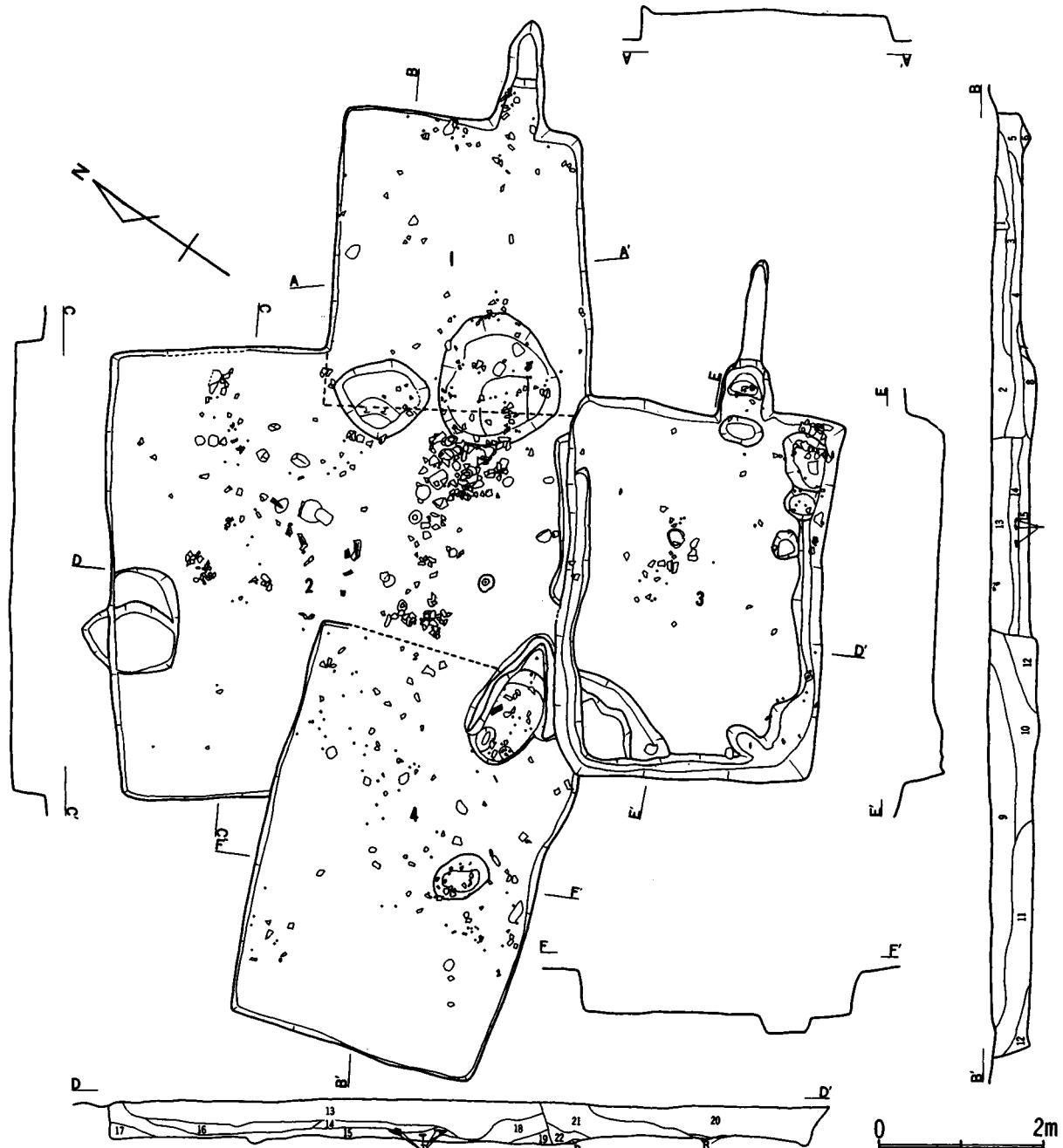
遺 物 土器片2、石斧1

第28図 I区2号溝跡

(2) 上辻遺跡II区



第29図 上辻遺跡II区全測図



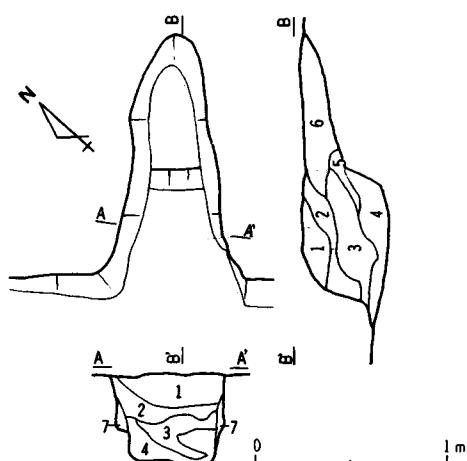
第30図 II区1~4号住居跡

1号住居跡（第30図、図版24）

位 置 本住居跡は、I区の東側にあり、2・3号住居跡と複合していた。長方形を呈し、主軸はN-57°-Eを示す。西壁よりに、径1.48×1.57m、深さ92cmと径1×1.14m、深さ38cmのピットが検出され、壁高は40cmを測る。覆土は、1層が褐色土、2~6層が暗褐色土であった。カマドは、東壁の南側に設置されていた。

規 模 長軸3.95m、短軸3.10m

遺 物 土器片151点、川原石6点



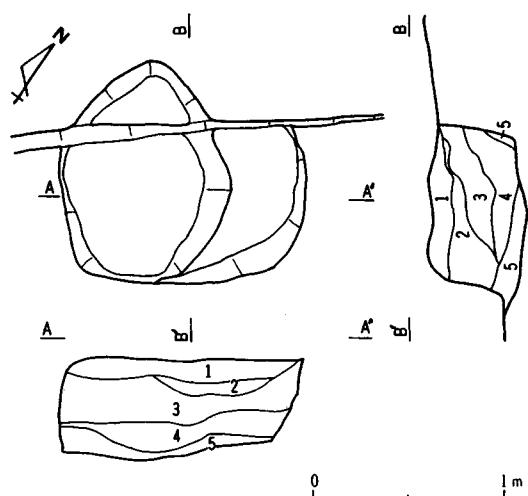
第31図 II区1号住居跡カマド

1号住居跡カマド（第31図、図版24—2）

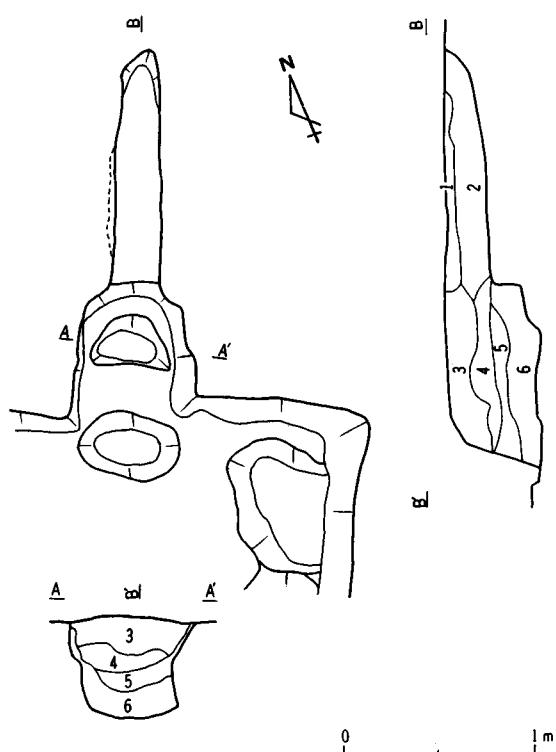
位置 東壁に設置され、主軸はN—63°—Eを示す。燃焼部は床面から10cm掘られ、煙道部は15°の角度で上がっていた。覆土は、7層が焼土、1・2・6層が暗褐色土、3層が黄褐色土、4層が黒褐色土、5層が赤褐色土であった。

規模 焚口幅74cm、燃焼部長82cm、煙道長72cm

遺物 土器片21点



第32図 II区2号住居跡カマド



第33図 II区3号住居跡カマド

2号住居跡（第30図、図版24・25）

位置 本住居跡は、1・3・4号住居跡と複合概要し、その3軒の住居跡に切られていた。方形を呈し、主軸はN—37°—Wを示す。壁高は40cmを測り、カマドは北壁に設置されていた。覆土は、13層が暗褐色土、14・15層が暗黄褐色土、16・17・19層が黒褐色土、18層が黄褐色土であった。

規模 北辺5.35m

遺物 土器片416点、川原石18点、炭火物

2号住居跡カマド（第32図）

位置 北壁に設置され、主軸はN—34°—Wを示す。燃焼部は床面から12cm掘られ、長方形を呈していた。覆土は3層が黄褐色土、1・2・4・5層が暗褐色土であり、1・4層に焼土粒子・炭化物が含まれていた。

規模 燃焼部一幅1.28m、奥行1m、煙道部一幅75cm、奥行34cm

遺物 なし

3号住居跡（第30図、図版24・26）

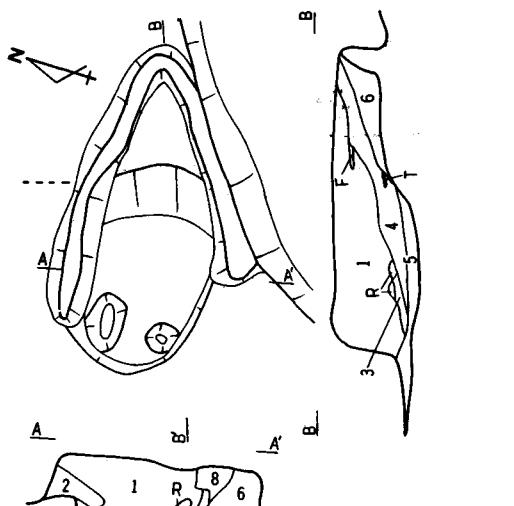
位置 本住居跡は、1・2・4号住居跡と複合概要し、その3軒の住居跡を切っていた。長方形を呈し、主軸はN—60°—Eを示す。ピットは南壁と、東隅にあり、周溝は西壁を除いて検出された。貯蔵穴は西隅にあり、径55×78cm、深さ17cmであった。覆土は暗褐色土が堆積していた。壁高は52cmを測り、カマドは東壁の南側に設置されていた。

3号住居跡カマド（第33図、図版26）

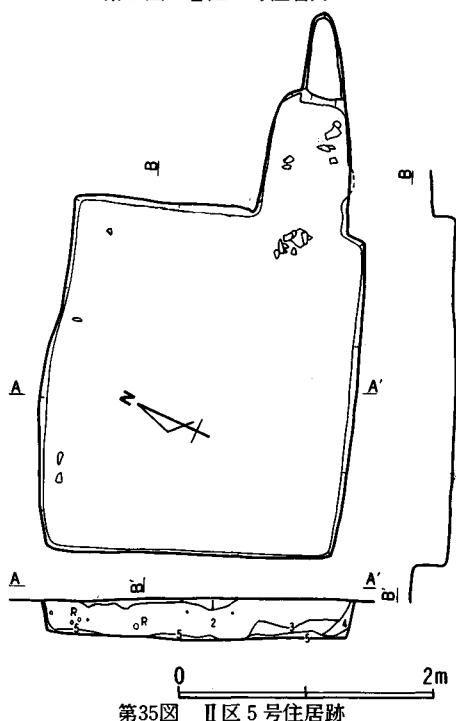
位置 東壁に設置され、主軸はN—60°—Eを示す。焚口部は径35×53cm、燃焼部は径36×40cmのピットがそれぞれあり、煙道部は3°・10°・38°の角度の順に上がっていた。覆土は、1層が焼土、2～6層が暗褐色土で、2・6層に焼土・炭化物が含まれていた。

規模 焚口奥行48cm、燃焼部一幅65cm、奥行57cm、煙道一幅25cm、奥行1.27m

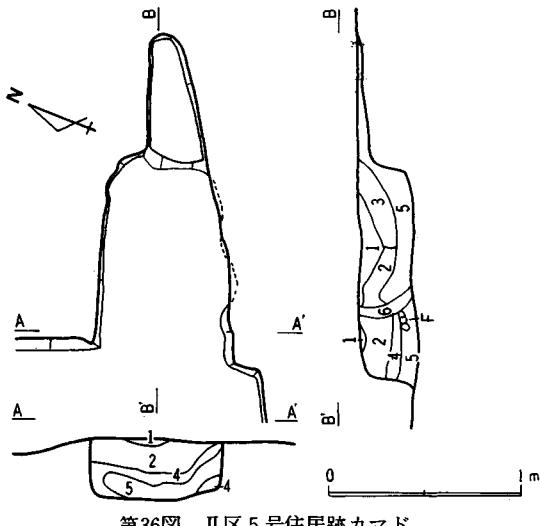
遺物 土器片13点



第34図 II区 4号住居跡カマド



第35図 II区 5号住居跡



第36図 II区 5号住居跡カマド

4号住居跡 (第30図、図版24・27・28)

位置 本住居跡は、2・3号住居跡と複合し、
概要 2号住居を切り、3号住に切られていた。長方形を呈し、主軸はN-71°-Eを示す。ピットは南壁よりに検出され、径48×72cmを測る。覆土は暗褐色土が堆積し、11層にはロームブロック・粒子が多く含まれていた。壁高は56cmを測り、カマドは北壁に設置されていた。

規模 長軸5.20m、短軸3.40m

遺物 土器片162点、川原石29点、炭化物

4号住居跡カマド (第34図、図版27-1)

位置 東壁に設置され、主軸はN-83°-Eを示す。
概要 焚口部は、ピットが2個あり、燃焼部は床から8cm掘られ、煙道部は15°の角度で上がり、62°の角度で立上がっていた。

規模 燃焼部一幅78cm、奥行1.25m、煙道部一幅36cm、奥行67cm

遺物 土器片24点

5号住居跡 (第35図、図版29)

位置 本住居跡は、3号住居跡の南東に隣接し、
概要 長方形を呈する。主軸はN-69°-Eを示す。壁高は30cmを測り、カマドは西壁の南側に設置されていた。覆土は、1層が褐色土、2~4層が暗褐色土、5層が黄褐色土であった。

規模 長軸2.75m、短軸2.45m

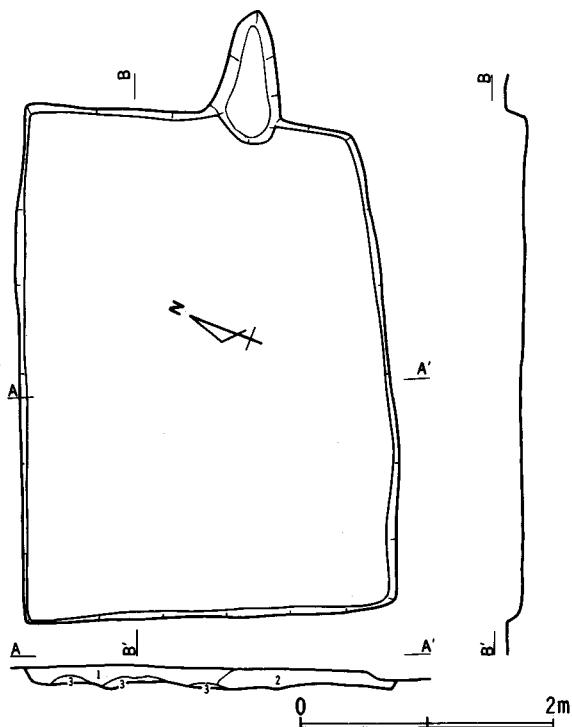
遺物 土器片21点、川原石3点

5号住居跡カマド (第36図、図版29-2)

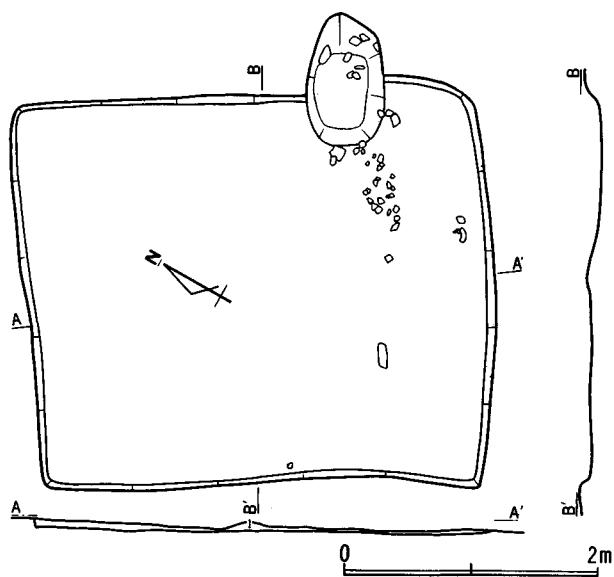
位置 東壁の南側に設置され、主軸はN-70°-Eを示す。焚口は床から4cm掘りくぼめられ、煙道は5°の角度で上がりっていた。覆土は、1層が褐色土、2・3層が暗褐色土、4層が黄褐色土、5層が焼土を多く含む黒褐色土、6層は攪乱であった。

規模 焚口一幅73cm、奥行60cm、燃焼部一幅68cm、奥行70cm、煙道一幅30cm、奥行70cm

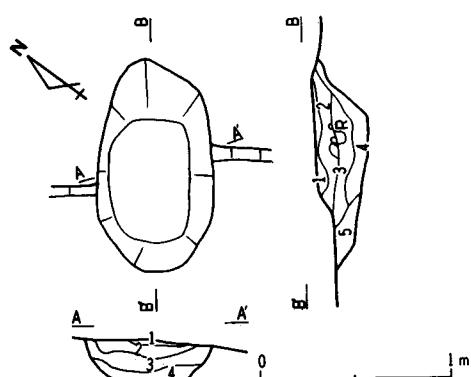
遺物 土器片17点



第37図 II区 6号住居跡



第38図 II区 7号住居跡



第39図 II区 7号住居跡カマド

6号住居跡 (第37図、図版30・31)

位 置 本住居跡は、5号住居跡の南西に位置し、
概 要 長方形を呈する。主軸はN—69°—Eを示す。
 壁高は15cmを測り、カマドは東壁の南側に設置されていた。覆土は、褐色土が堆積しており、3層にはロームブロックが多く含まれていた。

規 模 長軸3.90m、短軸2.90m

遺 物 土器片7点

6号住居跡カマド (図版30・31)

位 置 東壁の南側に設置され、主軸はN—70°—Eを示す。焚口は床面から7cm掘られ、燃焼部は11cm掘りくぼめられて、煙道は53°の角度で立ち上がっていた。覆土は、1層が焼土を含む黒褐色土、2・3層が暗褐色土であった。

規 模 焚口—奥行50cm、燃焼部—幅58cm、奥行—42cm、煙道—幅35cm、奥行30cm

遺 物 土器片5点

7号住居跡 (第38図、図版32)

位 置 本住居跡は、II区のほぼ中央にあり、6号住居跡の北西に位置していた。長方形を呈し、主軸はN—54°—Eを示す。壁高は7cmを測り、カマドは東壁の南側に設置されていた。ローム面からの掘込みが浅く、覆土は褐色土の1層のみ堆積していた。

規 模 長軸3.65m、短軸3.05m

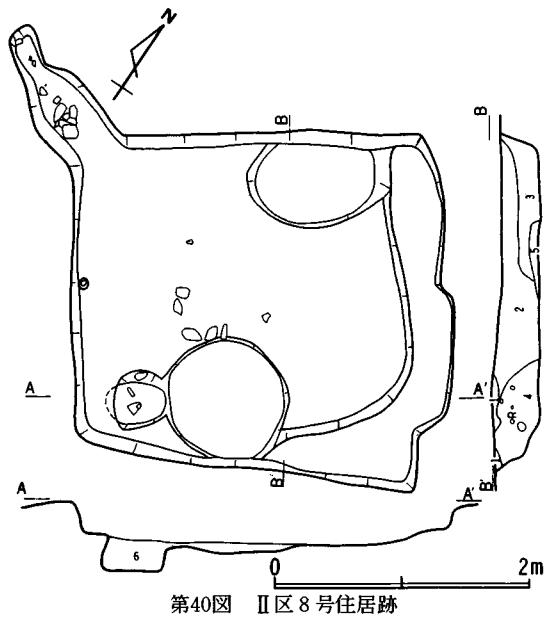
遺 物 土器片208点、川原石1点

7号住居跡カマド (第39図、図版32—2)

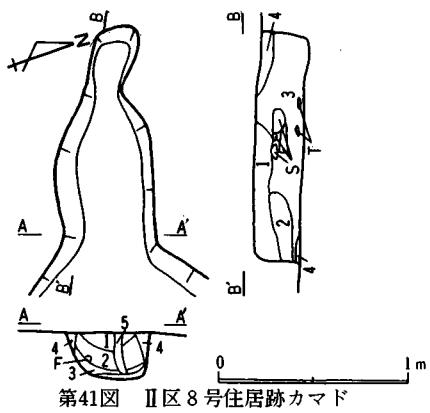
位 置 東壁の南側に設置され、主軸はN—60°—Eを示す。焚口は床から10cm掘られ、燃焼部は18cm掘りくぼめられて、51°の角度で立ち上がっていた。覆土は、1層が褐色土、2・3層が焼土を含む暗褐色土、4層が黒褐色土、5層が黄褐色土であった。

規 模 焚口—奥行45cm、燃焼部—幅60cm、奥行60cm

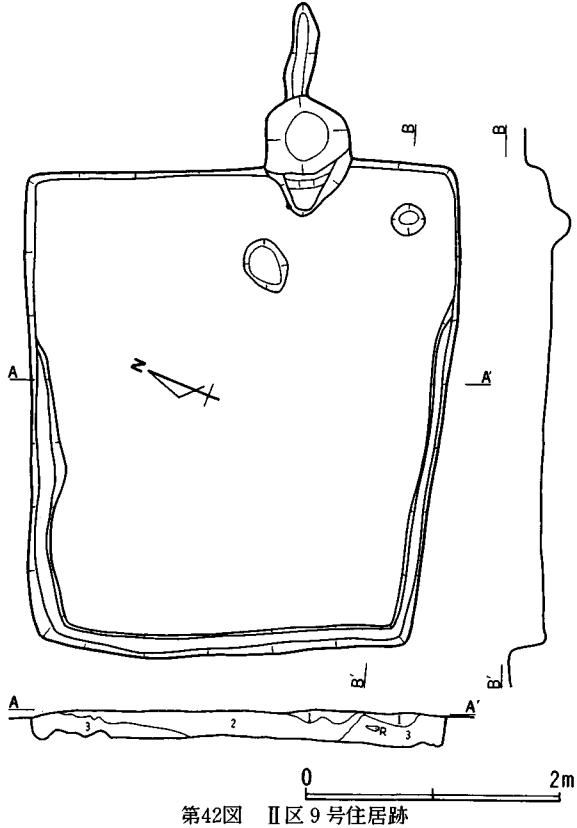
遺 物 土器片28点、川原石1点



第40図 II区8号住居跡



第41図 II区8号住居跡カマド



第42図 II区9号住居跡

8号住居跡 (第40図、図版33)

位 置 本住居跡は、7号住居跡の北西の位置に
概 要 あり、方形を呈し、長軸はN—36°—Wを示す。ピットは、北壁際と南壁際に検出され、北壁際のは径63×108cm、深さ8cmで、南壁際のは径95cm、深さ8cmのものと、径45cm、深さ24cmのものであった。東壁～南壁に幅35～65cm、床から12cmの高さのベッド状遺構があり、東壁中央には20×120cmの張出しがあった。壁高は25cmを測り、カマドは北西隅に設置されていた。土層は、1層が褐色土、2～4・6層が暗褐色土、5層がロームであった。

規 模 東辺2.80m、南辺2.73m

遺 物 土器片10点、埴輪片3点、鉄滓1点、川原石10点

8号住居跡カマド (第41図、図版33—2)

位 置 北西隅に設置され、主軸はN—74°—Wを示す。焚口も燃焼部も竪穴外に張出していた。土層は、1・2層が暗褐色土、3層が黒褐色土、4層が焼土、5層が攪乱であった。2・3層には焼土が含まれていた。

規 模 焚口一幅47cm、奥行55cm、燃焼部一幅52cm、奥行40cm、煙道一幅22cm、奥行40cm

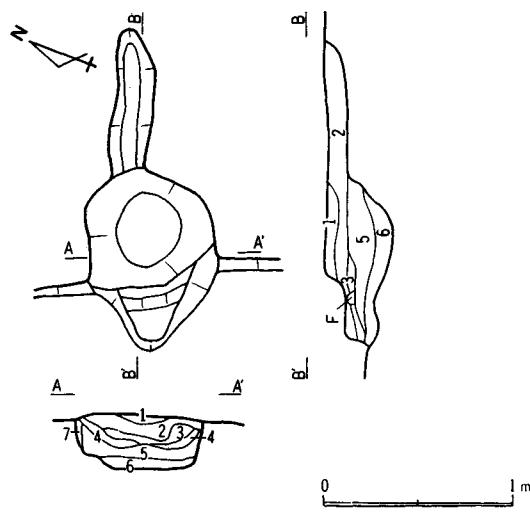
遺 物 土器片3点、埴輪片3点、鉄滓1点、川原石3点（支脚）

9号住居跡 (第42図、図版34・35)

位 置 本住居跡は、7号住居跡の南東7mに位置し、長方形を呈する。主軸はN—66°—Eを示す。ピットは東壁寄りに2個検出され、北側のは径33×44cm、深さ8cm、南東隅のは径26×28cm、深さ14cmであった。周溝は東壁を除き検出された。壁高は28cmを測り、カマドは東壁に設置されていた。土層は、1層が褐色土、2・3層が暗褐色土であった。

規 模 長軸3.80m、短軸3.25m

遺 物 土器片40点、鉄滓1点、川原石1点



第43図 II区9号住居跡カマド

9号住居跡カマド（第43図、図版34—2）

位 置 東壁の南側に設置され、主軸はN—63°—Eを示す。焚口は床から8cm、燃焼部は16cm掘りくぼめられ、燃焼部は50°の角度で立上がり、煙道は7°の角度で若干上がっていった。土層は、1層が褐色土、2層が暗褐色土、3層は暗黄褐色土、4層が暗赤褐色土、5・6層が黒褐色土、7層が焼土であった。2・4・5層は、焼土を含んでいた。

規 模 焚口—奥行34cm、燃焼部一幅65cm、奥行66cm、煙道一幅20cm、奥行70cm

遺 物 土器片40点、鉄滓1点、川原石4点

10号住居跡（第44図、図版36）

位 置 本住居跡は、II区の南西部にあり、
概 要 1号溝跡と複合していた。長方形を呈し、主軸はS—35°—Eを示す。ピットは北隅にあり、径45×52cm、深さ20cmを測る。壁高は36cmを測り、カマドは南壁に設置されていた。

覆土は、暗褐色土が堆積しており、1層はローム粒子・ブロック、3層はローム粒子・焼土・炭化物、4層はロームブロックを含んでいた。

規 模 長軸2.83m、短軸（東辺）2.25m

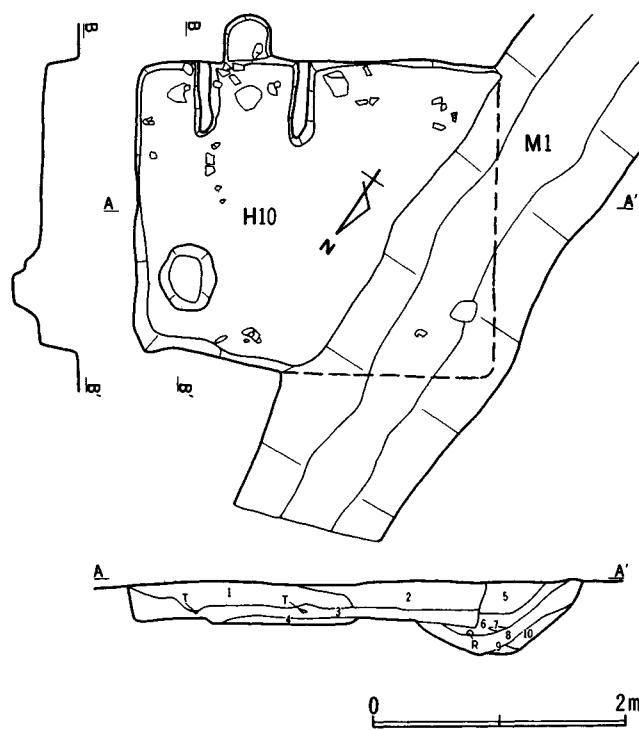
遺 物 土器片78点、川原石5点

10号住居跡カマド（第45図）

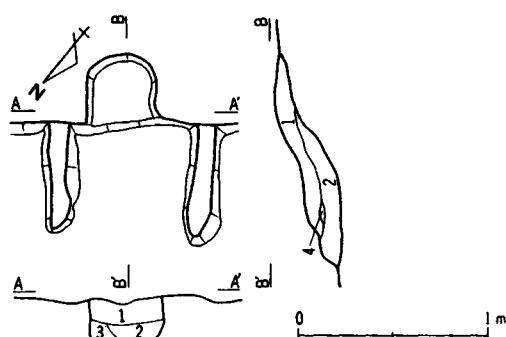
位 置 南壁に設置され、主軸はS—37°—Eを示す。
概 要 ロームを掘り残して袖がつくられ、燃焼部は35°の角度で立上がり、煙道は44°の角度で上がっていった。カマドの竪穴内の中央に川原石があり、支脚と考えられる。土層は、1層が褐色土、2・3層が暗褐色土、4層が焼土であった。2層は、焼土粒子・ブロックを多く含み、3層は、炭化物・焼土粒子を含んでいた。

規 模 焚口一幅70cm、奥行28cm、燃焼部一幅68cm、奥行29cm、煙道一幅37cm、奥行35cm

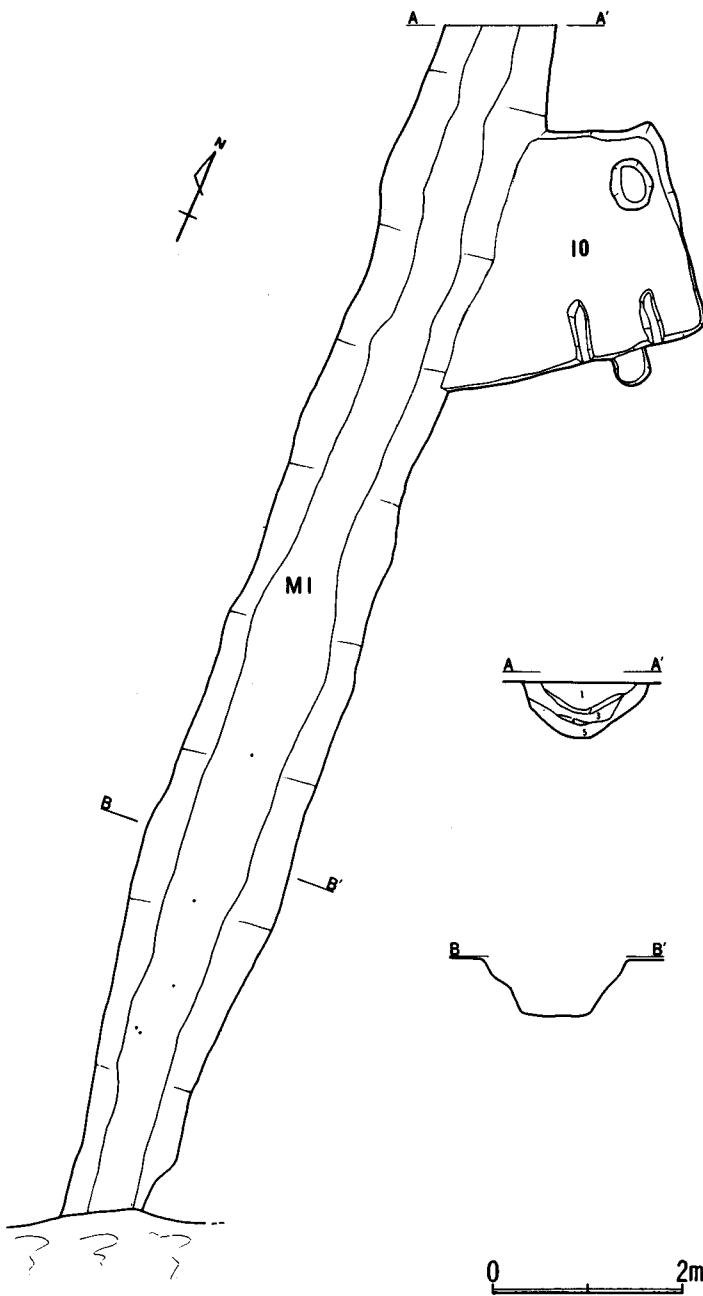
遺 物 土器片18点、川原石2点



第44図 II区10号住居跡、1号溝跡



第45図 II区10号住居跡カマド



第46図 II区1号溝跡

1号溝跡（第46図、図版36）

位 置 本溝跡は、II区の南端に位置し、10号住居跡により切られていた。北から南へ走っており、断面は逆台形を呈していた。壁は段をもつところもあった。

南側部分の方が、北側より深く、北から南へ傾斜しており、南側の谷部へ水が流れ込んでいたことが考えられる。

土層は、1層が黒褐色土、2層が黒色土、3層が暗褐色土、4層が黒色土、5層が暗黄褐色土であった。

規 模 上幅85～156cm、下幅30～85cm、深さ—北側58cm、南側64cm

遺 物 繩文土器片9点、川原石1点

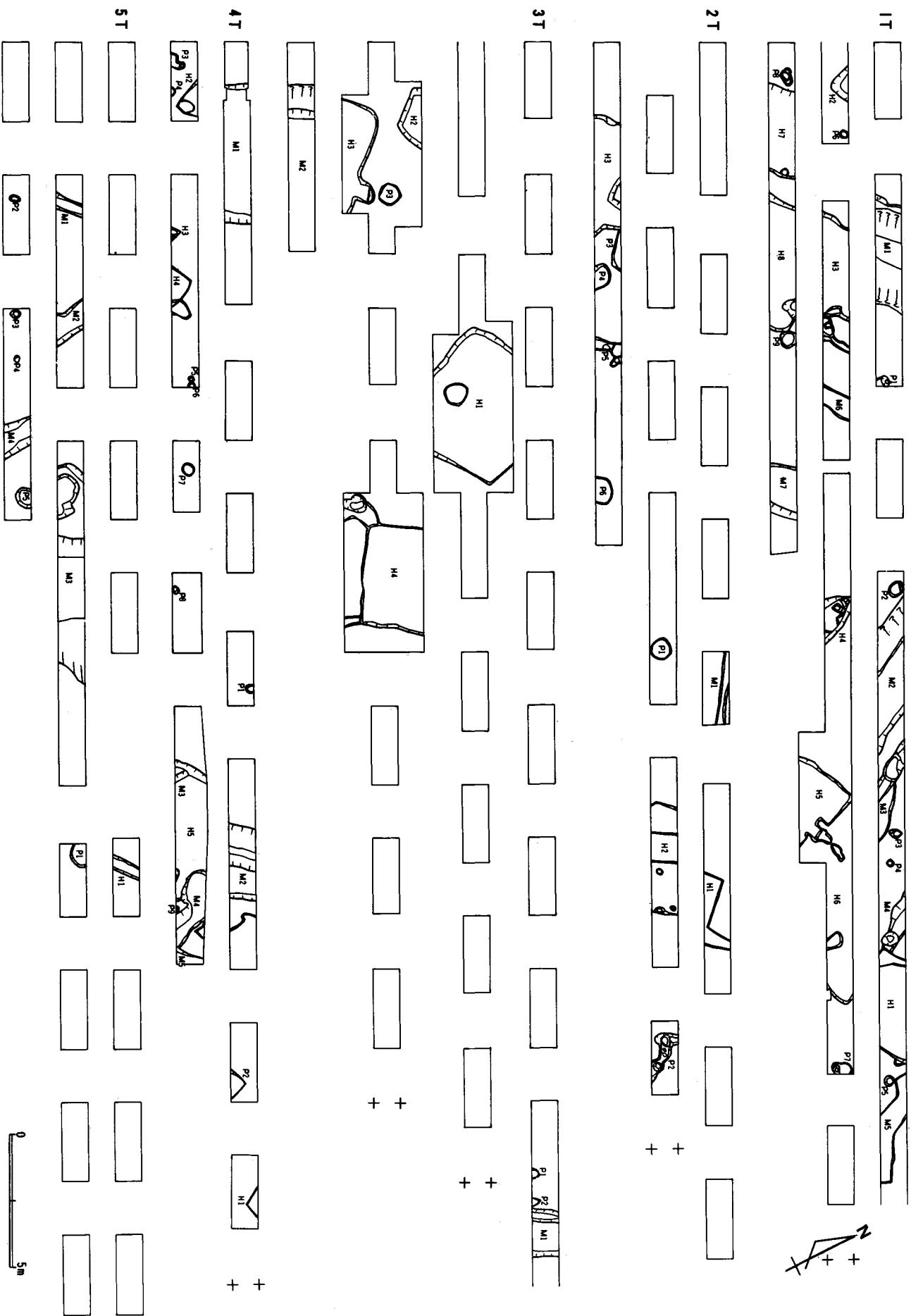
V. 下辻遺跡

1. 遺跡の概観

下辻遺跡は、上辻遺跡と同じ荒川左岸の自然堤防上に立地しており、上辻遺跡の北東に位置する。

今回の調査は、道路及び排水路が作られる部分のトレンチ発掘を行った。トレンチは5本設定し、長さは道水路の長さに応じて100m前後とした。トレンチの幅は1mだが、地点によって出土状態の良好な住居跡が検出された時は、幅を2m又は3mにした。トレンチは、北から1T・2T……と呼称した。

1Tからは住居跡8軒、溝跡7本、ピット9個、2Tからは住居跡3軒、溝跡1本、ピット6個、3Tからは住居跡4軒、溝跡2本、ピット3個、4Tからは住居跡5軒、溝跡5本、ピット9個、5Tからは住居跡1軒、溝跡3本、ピット5個がそれぞれ検出された。合計すると住居跡21軒、溝跡18本、ピット32個となる。住居跡はすべて竪穴式住居跡であった。

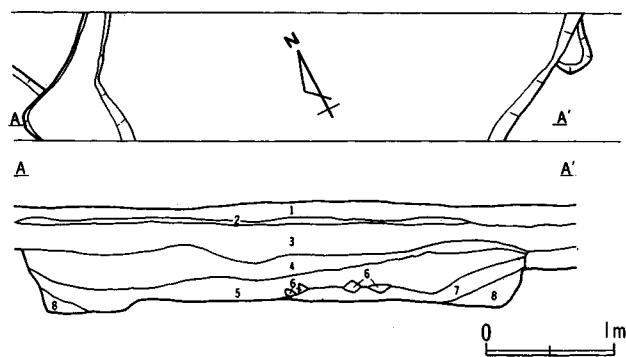


第47図 1T～5T全測図

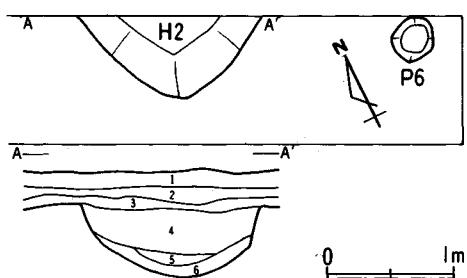
++ + +

2 遺構

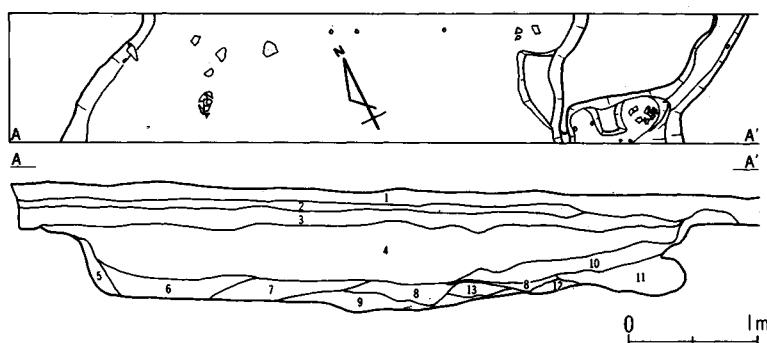
(1) 下辻遺跡第1トレンチ



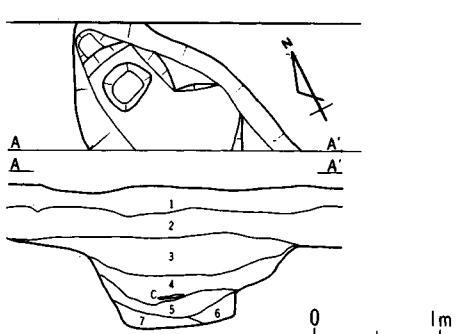
第48図 1 T - 1号住居跡



第49図 1 T - 2号住居跡・6号ピット



第50図 1 T - 3号住居跡



第51図 1 T - 4号住居跡

1号住居跡 (第48図、図版38-1)

位置 本住居跡は、4・5号溝跡の間に位置し、
概要 西壁には周溝があり、東壁にはピットがあった。壁高は44cmを測る。土層は、1・2層が灰褐色土、3~8層が黒褐色土であった。1~4層は火山灰、5・7・8層は焼土・炭化物をそれぞれ含んでいた。

遺物 土器片6点

2号住居跡 (第49図)

位置 本住居跡は、5号溝跡と6号ピットの間に位置し、南西隅だけが検出された。壁高は68cmを測る。土層は、1・2層が灰褐色土、3~6層が黒褐色土で、1~3層に火山灰、4層に炭化物・焼土・ローム粒子、6層に炭化物がそれぞれ含まれていた。

遺物 なし

6号ピット (第49図)

位置 2号住居跡の東側に位置していた。
規模 径31×33cm

遺物 なし

3号住居跡 (第50図、図版38・39)

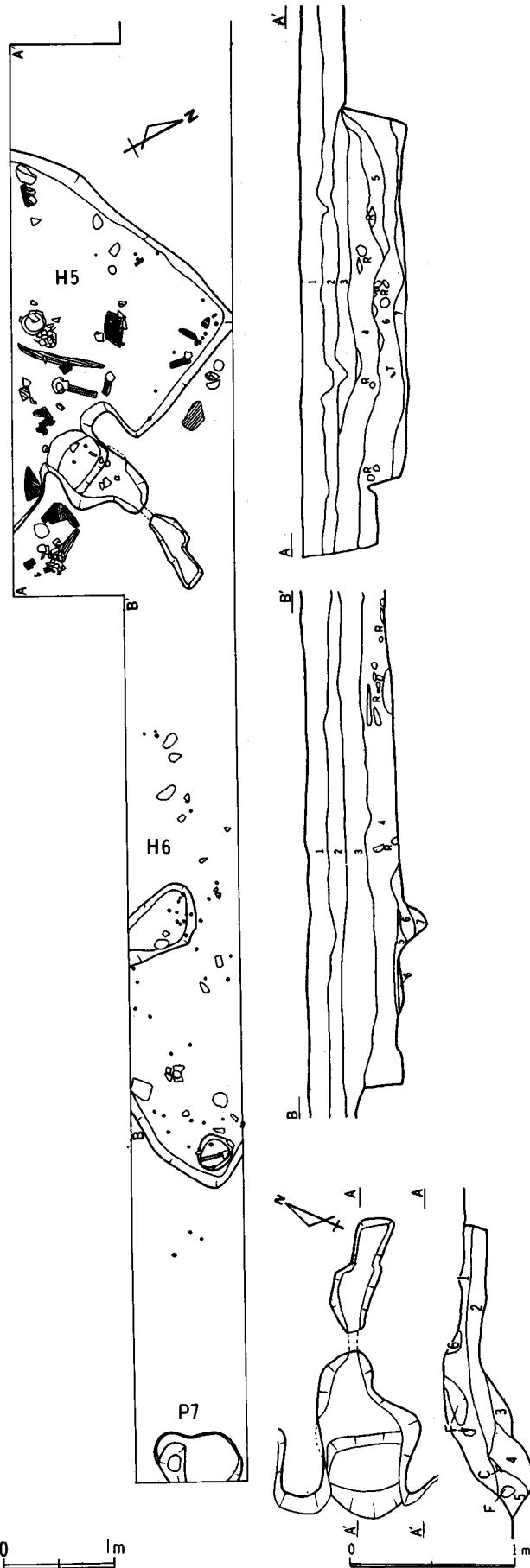
位置 本住居跡は、6号ピットと
概要 6号溝跡の間にあり、壁高は50cmを測る。カマドは南壁に設置され、ロームを掘り残した袖も検出された。煙道幅は23cmを測る。土層は、1・2層が灰褐色土、3~13層が黒褐色土で、6・10・12・13層にローム粒子、8・11層に焼土がそれぞれ多く含まれていた。

遺物 土器片22点、砥石1点、川原石1点、カマド内一土器片11点

4号住居跡 (第51図、図版39-2)

位置 本住居跡は、6号溝跡と5号住居跡の間にあり、カマドのみ出土し、幅1.24m、深さ66cm、主軸N-27°-Wで、土層は1層が灰褐色土、2~7層が黒褐色土であった。

遺物 土器片3点



第52図 1T-5・6号住居跡 第53図 1T-5号住居跡カマド
7号ピット

5号住居跡 (第52図、図版40・41)

位置 本住居跡は、4号住居跡の東側にあり、
概要 6号住居跡と複合していた。主軸はN—66°—Eを示す。壁高は55cmを測り、カマドは東壁の南側に設置されていた。土層は、1層が灰褐色土、2～7層が黒褐色土であり、1・2層に火山灰、4層にローム粒子、6層にローム粒子・ブロック、7層に炭化物がそれぞれ含まれていた。

規模 東辺3.74m

遺物 土器片48点、砥石1点、軽石1点、川原石4点、炭化物

5号住居跡カマド (第53図)

位置 東壁に設置され、主軸はN—65°—Eを示す。
概要 焚口は床から10cm掘りくぼめられ、48°の角度で上がり、燃焼部は32°の角度で立上がっていった。土層は、1・2・4・5層が暗褐色土、3層が黒褐色土、6層がローム層であった。2層は炭化物・焼土、4層は多くの焼土・炭化物、5層は焼土ブロック・炭化物をそれぞれ含んでいた。

規模 焚口一幅45cm、奥行50cm、燃焼部一幅61cm、奥行54cm、煙道一幅15～24cm、奥行75cm

遺物 土器片10点、川原石1点

6号住居跡 (第52図、図版41—2)

位置 本住居跡は、5号住居跡の東側に位置し、
概要 壁は南東隅のみ検出された。壁高は34cmを測る。ピットはトレンチの南側にあり、短径53cm、深さ22cmを測る。土層は1層が灰褐色土、2～7層が黒褐色土で、1・2層は火山灰、4層はローム粒子、5層は焼土、6層は焼土・ローム粒子を多く含んでいた。

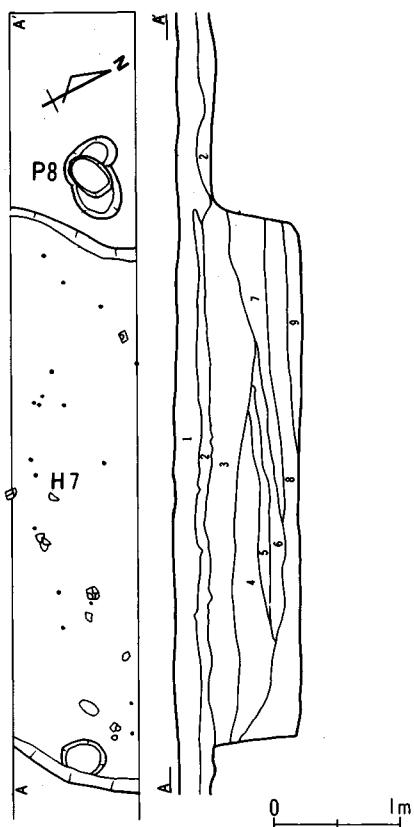
遺物 土器片60点、川原石3点

7号ピット (第52図)

位置 6号住居跡の東側に位置していた。

規模 長径80cm

遺物 なし



第54図 1T—7号住居跡・8号ピット

7号住居跡（第54図）

位 置 本住居跡は、8号ピットと8号住居跡の間に位置していた。ピットは、東壁際にあり、径 $25 \times 36\text{cm}$ であった。壁は掘り込みが深く、高さは70cmを測る。

土層は、1層が灰褐色土、2～6・8・9層が黒褐色土、7層がローム層であった。1層は火山灰、3層はローム粒子・炭化物・焼土、4層はローム粒子・ブロック・炭化物・焼土、5層は焼土・炭化物、6層はローム粒子・炭化物、8層はローム粒子・ブロック・炭化物・焼土、9層はローム粒子・焼土をそれぞれ含んでいた。7層は固くしまっていた。

遺 物 土器片25点、川原石2点

8号ピット（第54図）

位 置 7号住居跡の西側に位置していた。

規 模 径 $38 \times 60\text{cm}$

遺 物 なし

8号住居跡（第55図、図版42-1）

位 置 本住居跡は、7号住居跡と9号ピットの間に位置していた。ピットは、南東隅に検出され、径60cmを測る。壁は、7号住居跡と同様に掘り込みが深く、高さは62cmを測る。

土層は、1層が灰褐色土、2～9層が黒褐色土であった。1・2層は火山灰、3層はローム粒子・焼土・炭化物、4層はローム粒子・ブロック、5層はローム粒子・ブロック・焼土・炭化物、6層はローム粒子、7層はローム粒子・ブロック・焼土、8層はローム粒子・炭化物・焼土、9層は焼土・炭化物をそれぞれ含んでいた。

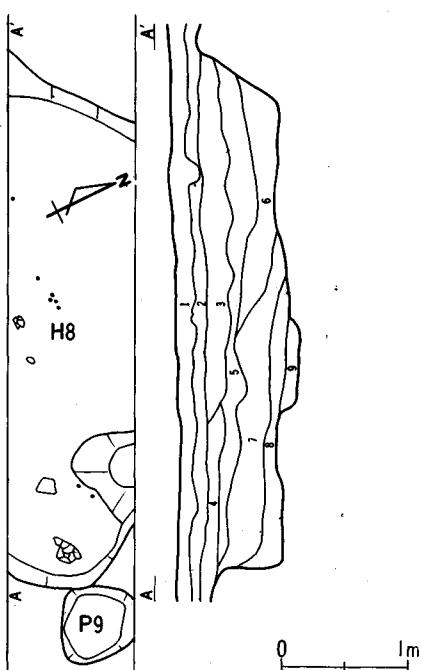
遺 物 土器片12点、川原石3点、炭化物

9号ピット（第55図、図版42-1）

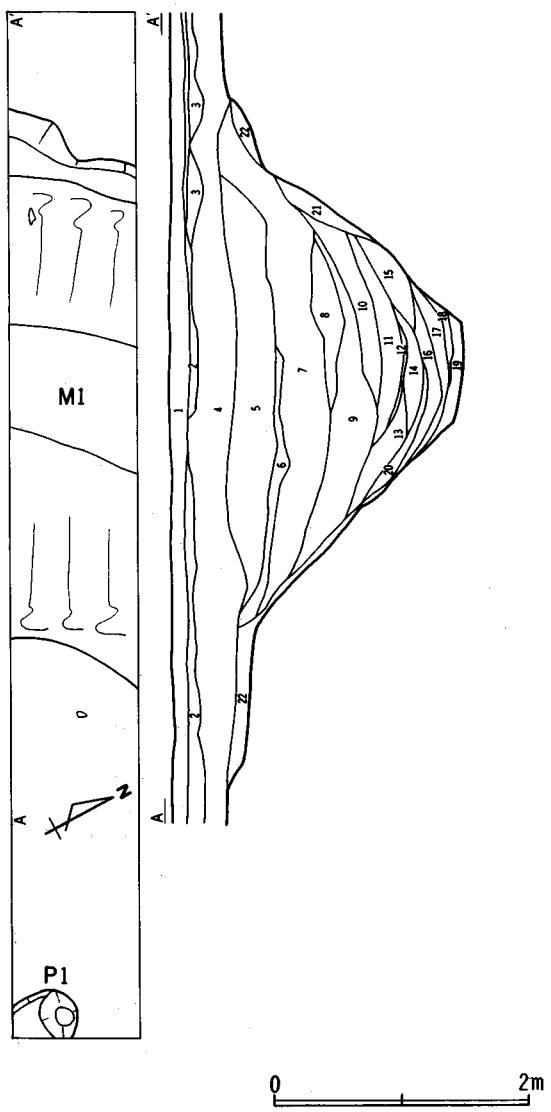
位 置 8号住居跡の東側に隣接していた。

規 模 径 $63 \times 69\text{cm}$

遺 物 なし



第55図 1T—8号住居跡・9号ピット



第56図 1T-1号溝跡・1号ピット

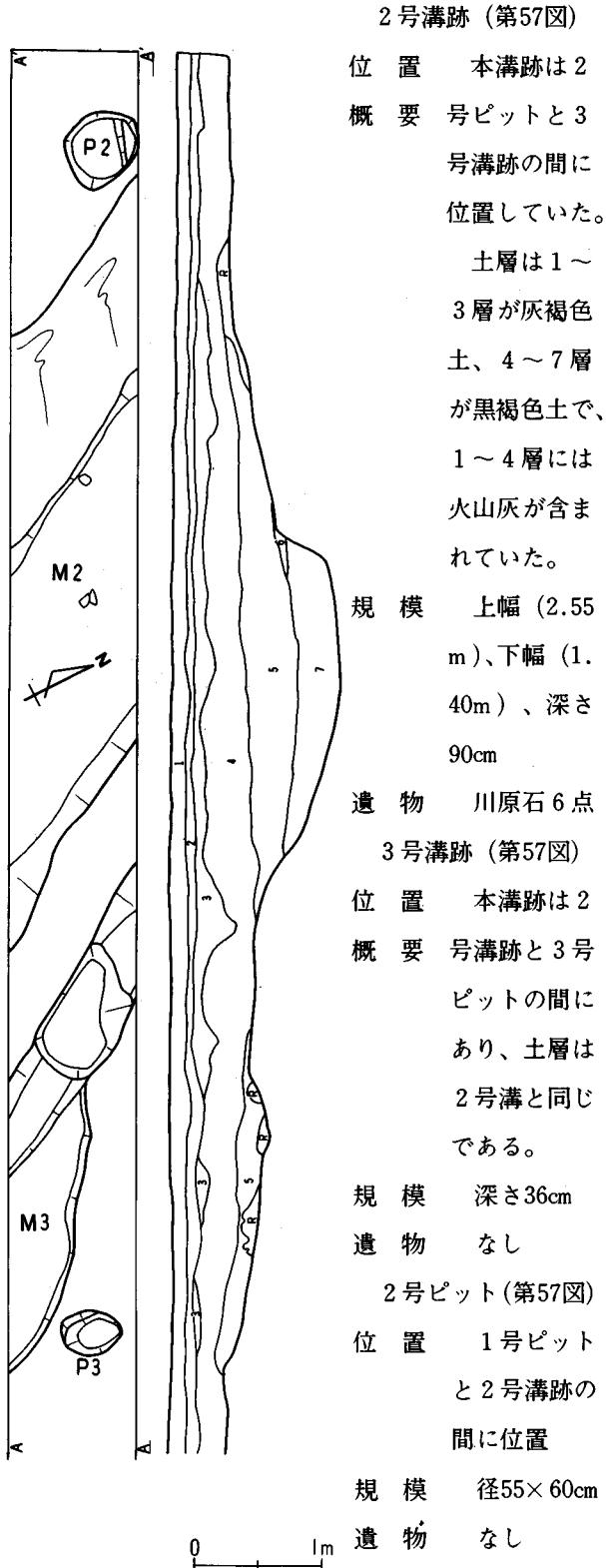
1号溝跡 (第56図)

位 置 本溝跡は、1Tの西端に位置し、主軸は
概 要 N-51°-Eを示す。断面は逆台形を呈して
 いた。土層は、1～3・6が灰褐色土、4・
 5・7・8・10・22が黒褐色土、9が暗黄
 褐色土、11が暗灰褐色粘質土、12・20が暗黃
 褐色粘質土、13が暗褐色粘質土、14・21が
 暗褐色土、15・17が暗茶褐色粘質土、16が
 黑褐色粘質土、18が砂層、19が礫層であつ
 た。1～5には火山灰が含まれていた。

規 模 上幅 (3.8m)、下幅 75～90cm、深さ 1.83

m

遺 物 土器片 1点



第57図 1T-2・3号溝跡・2・3号ピット

2号溝跡 (第57図)
位 置 本溝跡は2号溝跡と3号溝跡の間に位置していた。
概 要 土層は1～3層が灰褐色土、4～7層が黒褐色土で、1～4層には火山灰が含まれていた。
規 模 上幅 (2.55m)、下幅 (1.40m)、深さ 90cm
遺 物 川原石 6点

3号溝跡 (第57図)
位 置 本溝跡は2号溝跡と3号溝跡の間にあり、土層は2号溝と同じである。

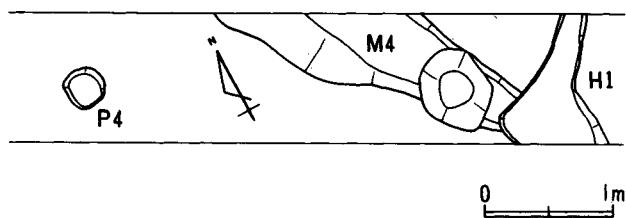
規 模 深さ 36cm
遺 物 なし

2号ピット (第57図)
位 置 1号ピットと2号溝跡の間に位置

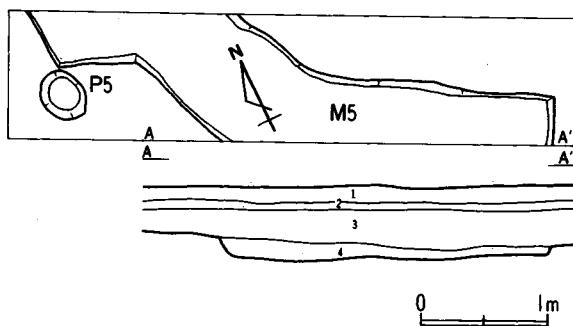
規 模 径 55×60cm
遺 物 なし

3号ピット (第57図)
位 置 3号溝跡と4号ピットの間に位置

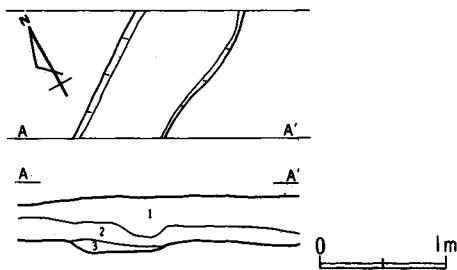
規 模 径 35×49cm
遺 物 なし



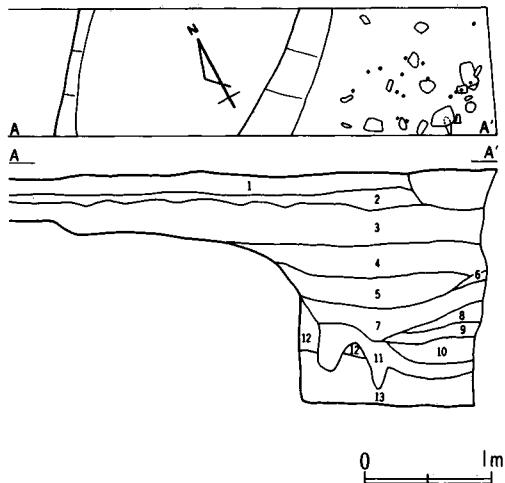
第58図 1 T—4号溝跡・4号ピット



第59図 1 T—5号溝跡・5号ピット



第60図 1 T—6号溝跡



第61図 1 T—7号溝跡

4号溝跡（第58図）

位置 本溝跡は、4号ピットの東にあり、1号住居跡に切られ、主軸はN—34°—Wを示す。東側に径54×58cmのピットが検出された。

規模 上幅一東端37cm、下幅一東端25cm

遺物 土器片1点、鉄滓1点、川原石3点

4号ピット（第58図）

位置 3号ピットと4号溝跡の間に検出された。

規模 径29×30cm

遺物 なし

5号溝跡（第59図）

位置 本溝跡は、1号住居跡と2号住居跡の間にあり、土層は1・2層が灰褐色土、3・4層が黒褐色土であった。

規模 上幅87cm、下幅82cm、深さ20cm

遺物 なし

5号ピット（第59図）

位置 5号溝跡の西側に検出された。

規模 径33×40cm

遺物 なし

6号溝跡（第60図）

位置 本溝跡は、3号住居跡と4号住居跡の間にあり、主軸はN—88°—Eを示す。土層は1層が灰褐色土、2・3層が黒褐色土で、1・2層に火山灰が含まれていた。

規模 上幅65～79cm、下幅56～68cm、深さ9cm

遺物 なし

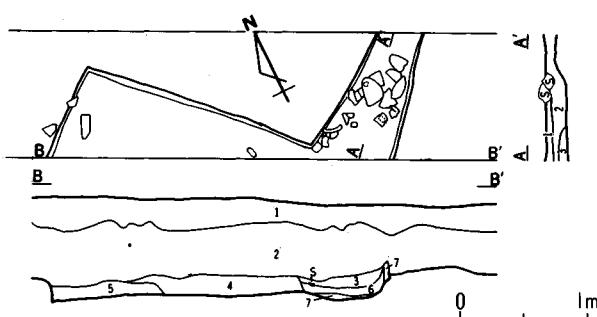
7号溝跡（第61図）

位置 本溝跡は、1Tの東端に位置し、西側部分のみ検出された。浅い掘込みがあり、更に深く箱形に掘られていた。土層は、1・2層が灰褐色土、3～10層が黒褐色土、11・13層が暗褐色土、12層が茶褐色土であった。1・2層に火山灰、5・8・9に炭化物が含まれており、13層は砂質を帶びていた。

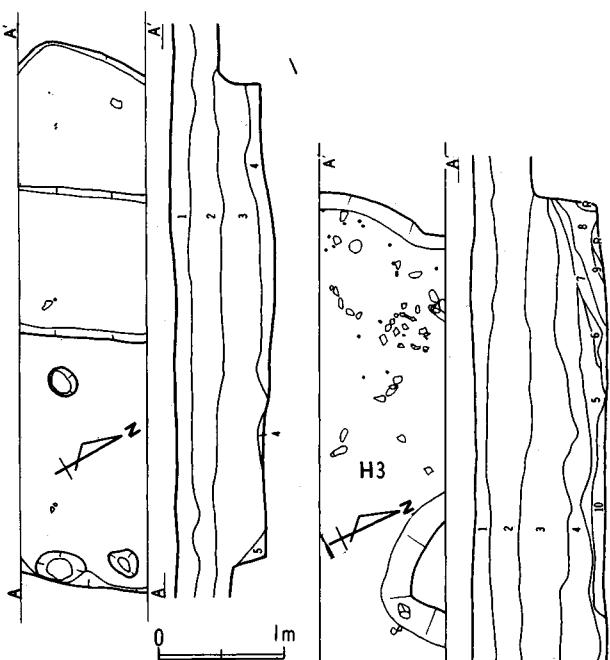
規模 深さ1.48m

遺物 土器片10点、川原石27点

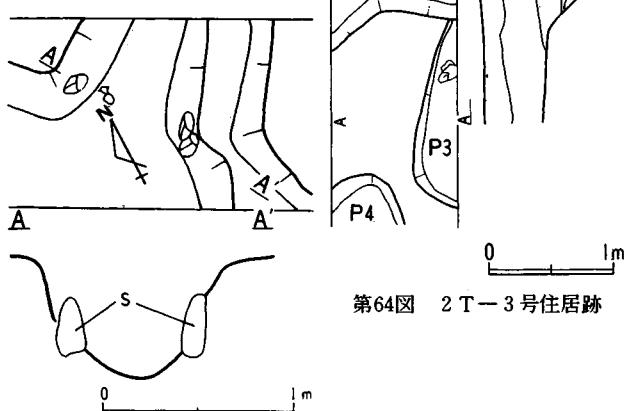
(2) 下辻遺跡第2トレンチ



第62図 2 T-1号住居跡



第63図 2 T-2号住居跡



第64図 2 T-3号住居跡

第65図 2 T-3号住居跡カマド



第66図 2 T-1号溝跡

1号住居跡 (第62図、図版43-1)

位置 本住居跡は、1号溝跡の東へ5mの所に
概要 あり、主軸はN-47°-Eを示す。壁高は20cmを測り、カマドは東壁に設置され、主軸はN-46°-Eを示す。焚口は床から8cm掘られ、燃焼部は38°の角度で立上がっていった。土層は、1層が灰褐色土、2・5層が暗褐色土、3層が褐色土、4・6層が黒褐色土、7層が焼土で、1・2層に火山灰、3・6層に焼土・炭化物が含まれていた。

規模 カマド一煙道部幅40cm、高さ29cm

遺物 カマド内一土器片12点、川原石6点
カマド外一土器片4点

2号住居跡 (第63図)

位置 本住居跡は、1号ピットと2号ピットの間にあった。ピットは、東側に2個、中央に1個検出された。壁高は34cmを測り、床面は西寄りに幅1.66mのくぼみが見られた。土層は1層が灰褐色土、2~5層が暗褐色土で、1・2層は火山灰を含んでいた。

遺物 土器片6点

3号住居跡 (第64・65図、図版43-2)

位置 本住居跡は、2号ピットと3号ピットの間にあり、壁高は53cmを測る。カマドは東壁に設置され、主軸はN-46°-Eを示し、袖には川原石が立てられていた。土層は1層が灰褐色土、2~5・7~10層が暗褐色土、6・11層が黒褐色土であった。

規模 カマド一焚口幅30cm、燃焼部深さ22cm

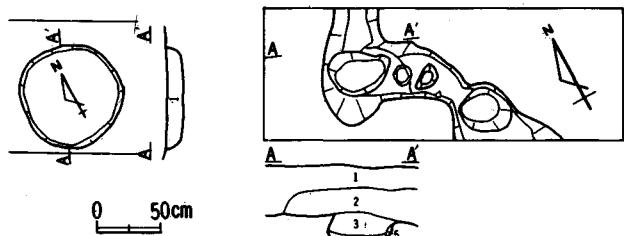
遺物 土器片181点、川原石3点、鉄製品1点、
カマド内一土器片52点、川原石3点(袖石)

1号溝跡 (第66図)

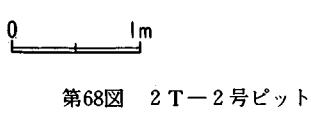
位置 本溝跡は、2Tの西側で検出され、主軸はN-55°-Wを示す。土層は1層が灰褐色土、2層は暗褐色土であった。

規模 上幅28~32cm、下幅15~25cm、深さ5cm

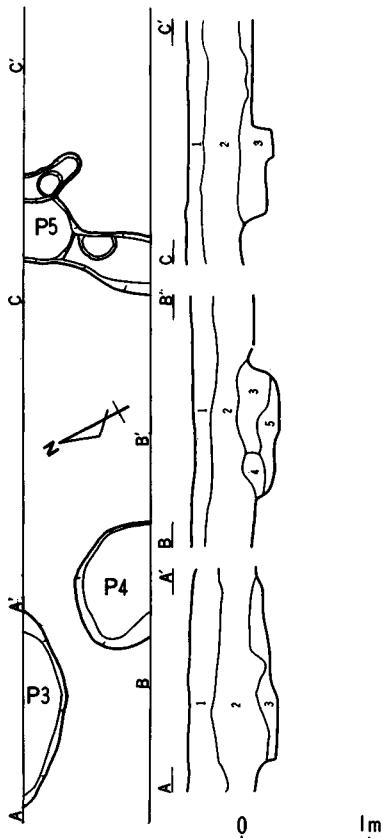
遺物 なし



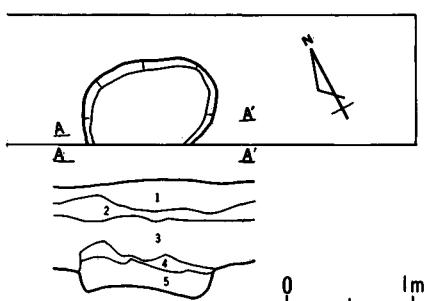
第67図 2T-1号ピット



第68図 2T-2号ピット



第69図 2T-3・4・5号ピット



第70図 2T-6号ピット

1号ピット（第67図、図版44-1）

位置 2号住居跡の東へ約5.5mの所に位置し
概要 ていた。円形を呈し、覆土は暗褐色土が堆積していた。

規模 径78×80cm、深さ16cm

遺物 なし

2号ピット（第68図）

位置 2号住居跡と3号住居跡の間に位置し、
概要 4個のピットが細い溝中に掘られていた。

前回の報告ではピット群とした。（注1）

土層は1層が灰褐色土、2～4が暗褐色土、
5層が焼土で、3・4層には焼土・炭化物
が含まれていた。

規模 西側のピットから、径37×47cm、径13×
15cm、径13×20cm、径33×40cmを測る。

遺物 土器片4点、土錐1点

3号ピット（第69図、図版44-2）

位置 3号住居跡と4号ピットの間に位置し、
概要 覆土（3層）は暗褐色土であった。

規模 長径1.50m、深さ17cm

遺物 なし

4号ピット（第69図、図版44-2）

位置 3号ピットと5号ピットの間にあり、覆
概要 土は3・5層が暗褐色土、4層が黄褐色土

規模 長径1.09m、深さ25cm

遺物 土器片3点

5号ピット（第69図）

位置 4号ピットと6号ピットの間にあり、ピ
概要 ットが重複し、前回の報告でピット群とし
た。（注1） 覆土は焼土を含む暗褐色土

遺物 土器片36点

6号ピット（第70図）

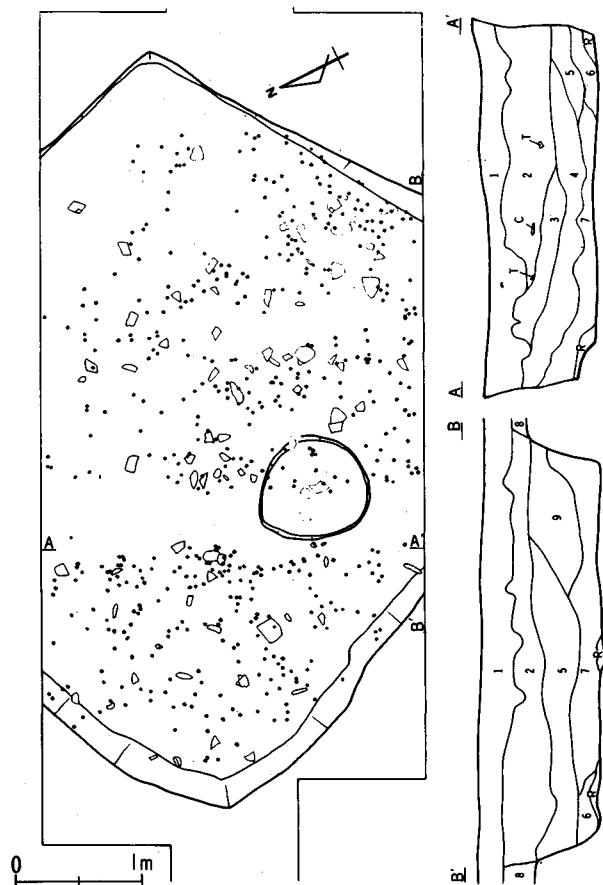
位置 2Tの東端にあり、楕円形を呈す。覆土
概要 （4・5層）は焼土を多く含む暗褐色土

規模 長径1.06m

遺物 土器片37点

注1、熊谷市教育委員会「三尻遺跡群・上辻遺跡 下
辻遺跡」 昭和57年

(3) 下辻遺跡第3トレンチ



第71図 3T-1号住居跡

1号住居跡 (第71図、図版45-1)

位置 本住居跡は、1号溝跡の東約12mに位置

概要 し、方形を呈する。長軸はN-27°-Wを示す。ピットは西壁より検出され、径80×90cm、深さ8cmを測る。土層は1層が灰褐色土、2~9層が黒褐色土で、1・2・8層に火山灰が含まれ、壁高は76cmを測る。

規模 長軸(4.9m)、短軸(4.5m)

遺物 土器片755点、土錘11点、砥石1点、川原石31点

2号住居跡 (第72図)

位置 本住居跡は、1号住居跡から東へ約30m

概要 の所にあり、南西隅が検出された。壁高は61cmを測る。土層は1層が灰褐色土、2~5層が黒褐色土で、1・2層に火山灰、3~5層にはローム粒子・焼土・炭化物が含まれていた。

遺物 土器片17点

3号住居跡 (第72図、図版45-2)

位置 本住居跡は、2号住居跡の南に

概要 位置し、主軸はN-49°-Eを示す。壁高は50cmを測り、東壁にカマドが設置されていた。カマドは主軸がN-46°-Eを示し、焚口から燃焼部にかけて13°の角度で上がり、燃焼部先端は地山から21cmくぼんでいた。土層は1層が灰褐色土、2~8層が黒褐色土で、1・2層に火山灰、3層にローム粒子、4~7層に焼土・炭化物、8層に焼土が含まれていた。

規模 カマド一幅93cm

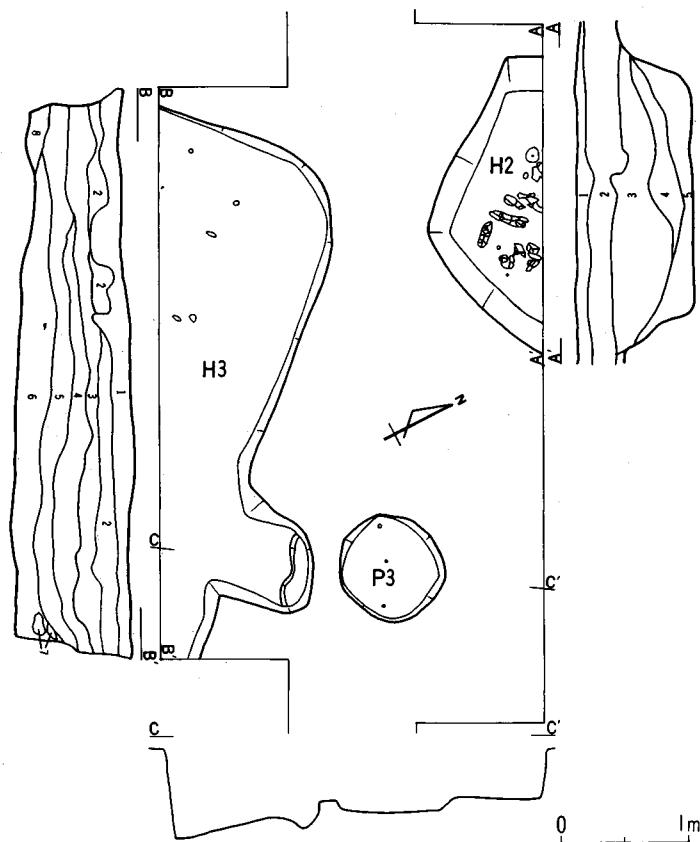
遺物 土器片6点

3号ピット (第72図)

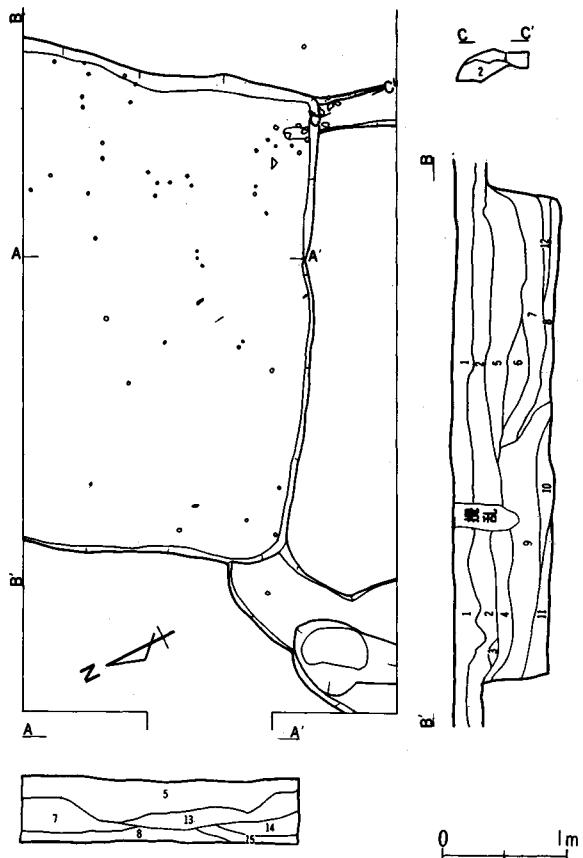
位置 3号住居跡の北東に隣接

規模 径93cm、深さ10cm

遺物 土器片3点



第72図 3T-2・3号住居跡・3号ピット



第73図 3 T - 4号住居跡

4号住居跡 (第73図、図版46-1)

位 置 本住居跡は、3号住居跡から東へ約13mの所にあり、長軸N-60°-Wを示す。壁高は59cmを測り、南隅にはカマド状遺構が検出され、燃焼部が30°の角度で立上がっていった。土層は1層が灰褐色土、2~15層が黒褐色土で、1・2層に火山灰、3・6層にロームブロック、8~11層にローム粒子・ロームブロック、12層に焼土・炭化物が含まれていた。カマドの覆土は黒褐色土であった。

規 模 南辺3.8m

遺 物 土器片61点、土錘1点、カマド内一土器片6点

1号溝跡 (第74図、図版46-2)

位 置 1号住居跡の西へ12mの所にあり、東側は浅く、西側は4.5~5mの幅で深く掘られていた。土層は1・2層が灰褐色土、3~7層が黒褐色土であった。1~4層は火山灰を含んでいた。

規 模 上幅1.95m、深さ一東側14cm、西側26cm

遺 物 なし

2号溝跡 (第75図)

位 置 3 Tの東端に検出され、西側が浅く、東側が深かった。土層は1層が灰褐色土、2・4層が暗褐色土、3層が黒褐色土で、1~3層が火山灰を含んでいた。深さ76cm測る。

遺 物 土器片12点、川原石5点

1号ピット (第74図)

位 置 1号溝跡の西1

mの所に位置

規 模 径30cm、深30cm

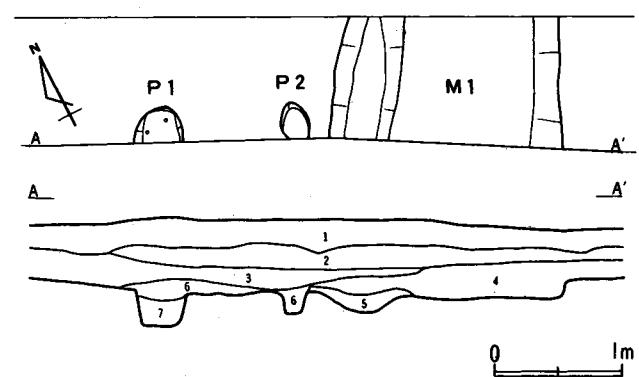
遺 物 土器片2点

2号ピット (第74図)

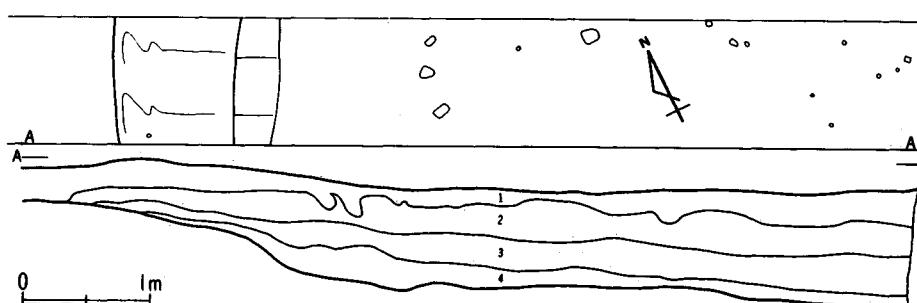
位 置 1号溝跡の西側に隣接

規 模 径23cm、深20cm

遺 物 なし

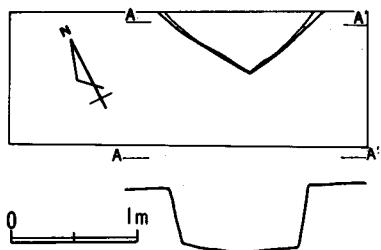


第74図 3 T - 1号溝跡・1・2号ピット

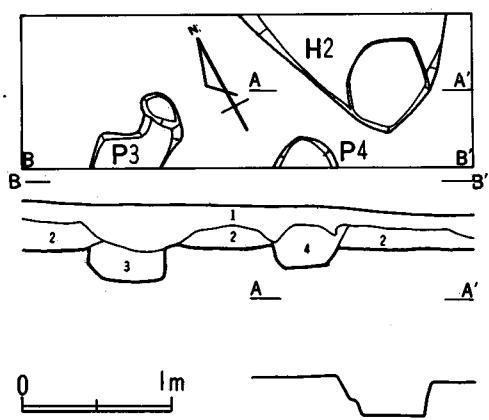


第75図 3 T - 2号溝跡

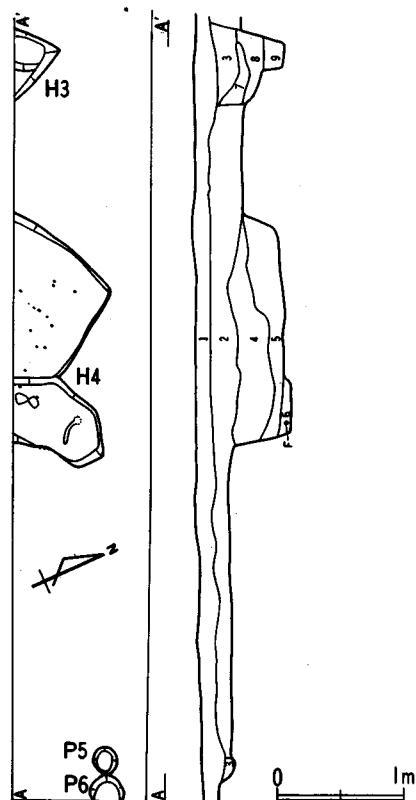
(4) 下辻遺跡第4トレンチ



第76図 4T-1号住居跡



第77図 4T-2号住居跡、3・4号ピット



第78図 4T-3・4住居跡、5・6号ピット

1号住居跡（第76図、図版47-1）

位置 2号ピットと3号ピットの間にあり、南
概要 西隅が検出され、主軸はN-30°-Wを示す。
規模 壁高50cm
遺物 なし

2号住居跡（第77図、図版47-2）

位置 1号住居跡の東へ約5mの所にあり、南
概要 西隅が検出され、主軸はN-23°-Wを示す。
規模 壁高14cm、ピット一径47×63cm、深11cm
遺物 土器片7点

3号住居跡（第78図）

位置 2号住居跡の東へ約9mの所にあり、北
概要 東隅が検出され、土層は1層が灰褐色土、
2・3・7・8層が黒褐色土、9層が暗褐色土で、1・2層に火山灰が含まれていた。
規模 壁高42cm、ピット一短径19cm、深さ16cm
遺物 なし

4号住居跡（第78図、図版48-1）

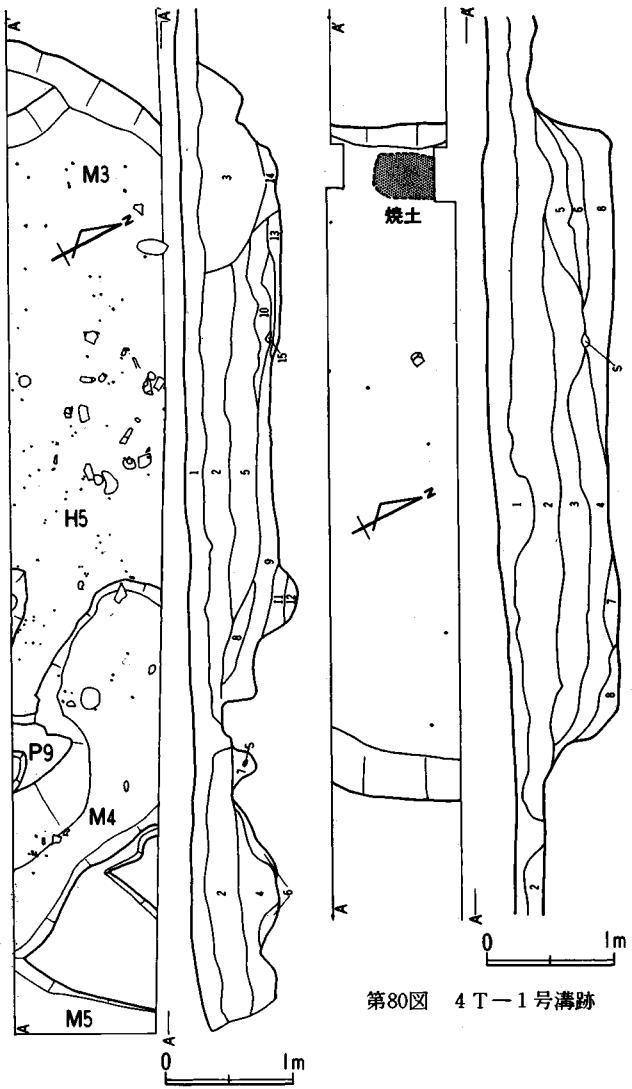
位置 3号住居跡の東に隣接し、主軸はN-61°
概要 一Eを示し、壁高は32cmを測る。カマドは
東壁に設置され、燃焼部は約3°の角度で上
がり、約76°の角度で立上がっていった。土層
は4~6層が黒褐色土であった。
規模 カマド一燃焼部幅60cm、奥行70cm
遺物 カマド内一土器片3点、鉄製鎌1点、川
原石1点、骨片、カマド外一土器片13点

3・4号ピット（第77図）

位置 2号住居跡の西にあり、1層は灰褐色、
概要 2・4層が黒褐色、3層が暗褐色であった。
規模 3号ピット一径50cm、深さ・北側24cm、
南側32cm、4号ピット一径52cm、深さ28cm
遺物 なし

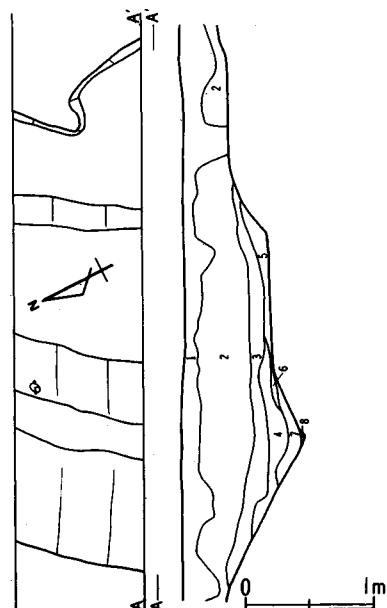
5・6号ピット（第78図）

位置 4号住居跡と7号ピットの間に位置
規模 5号ピット一径20cm、深さ19cm
6号ピット一径26cm、深さ26cm
遺物 なし



第80図 4 T - 1号溝跡

第79図 4 T - 5号住跡、
3~5号溝跡、9号
ピット



第81図 4 T - 2号溝跡

5号住跡（第79図）

位 置 4 T の東端に検出され、3・4号溝跡と複合していた。ピットは東側にあり、径56cm、深さ14cmを測る。壁高は28cmを測り、土層は1層が灰褐色土、2層が黒褐色土、5・8~13層が暗褐色土で、15層は砂層であった。1・2層は火山灰を含んでいた。

遺 物 土器片108点、土錐1点、鉄滓2点、川原石4点（3号溝と重複しているので、3号溝の遺物も含む。）

1号溝跡（第80図、図版49-1）

位 置 4 T の西端に検出された。西壁際には焼土が検出され、壁高は60cmを測る。土層は1層が灰褐色土、2~8層が黒褐色土で、1・2層に火山灰、5・6層に焼土・炭化物が含まれていた。住跡の可能性もある。

規 模 幅5.28m

遺 物 土器片7点

2号溝跡（第81図、図版49-2）

位 置 1号ピットと2号ピットの間にあり、東概要が浅く、西側が深くなっていた。土層は1層が灰褐色土、2層が黒褐色土、3層が黒色土、4・5・7・8層が暗褐色土、6層が砂層であった。7・8層には酸化鉄・砂が含まれていた。

規 模 上幅一北側3.35m、南側4.15m、深62cm

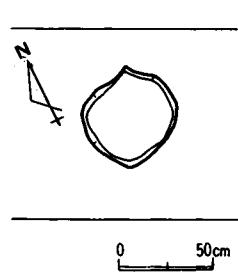
遺 物 土器片4点、鉄滓1点

3・4・5号溝跡（第79図）

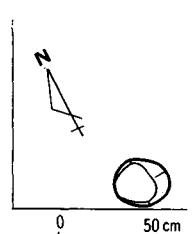
位 置 4 T の東端に検出され、3・4号溝は5号住と、5号溝は4号溝と複合していた。覆土—3号溝：3層（火山灰を含む灰褐色土）、14層（黒褐色土）、4号溝：4層（黒褐色土）、6層（ロームブロックを多く含む黒褐色土）、5号溝：4層（黒褐色土）

規 模 3号溝—上幅1.64m、下幅45cm、深さ62cm、4号溝—上幅1.18m、下幅27cm、深さ36cm、5号溝—深さ12cm

遺 物 4号溝—土器片29点、5号溝—なし



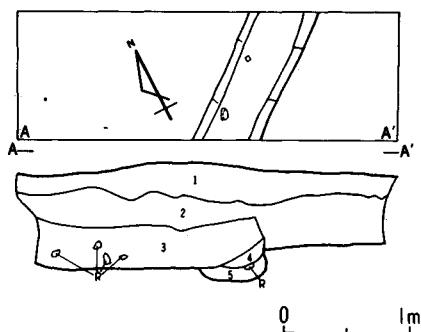
第82図 4 T - 7号
ピット



第83図 4 T - 8号
ピット

1号ピット

位 置 1号溝跡の東へ17mの所で検出された。
規 模 短径31cm、深さ29cm
遺 物 なし



第84図 5T-1号住居跡

2号ピット (図版50-1)

位 置 2号溝跡と1号住居跡の間に検出された。
概 要 深さ34cmを測り、暗褐色土が堆積していた。
遺 物 なし

7号ピット (第82図)

位 置 6号ピットと8号ピットの間に位置
規 模 径43×49cm、深さ14cm
遺 物 なし

8号ピット (第83図)

位 置 7号ピットの東へ約4mの所に位置
規 模 径25×28cm、深さ22cm
遺 物 なし

9号ピット (第79図)

位 置 5号住居跡と4号溝跡の間に位置
規 模 径33cm、深さ19cm
遺 物 なし

(5) 下辻遺跡第5トレンチ

1号住居跡 (第84図、図版50-2)

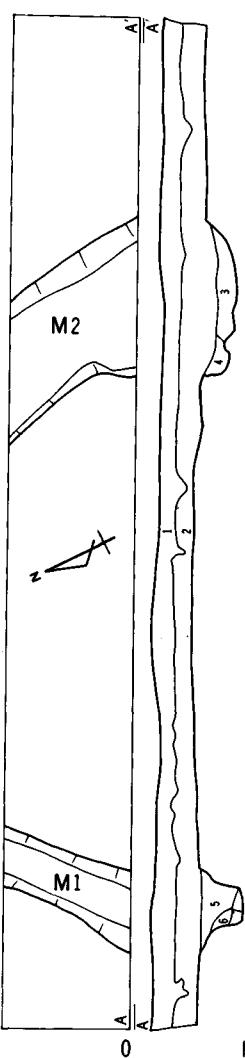
位 置 5Tの西側に位置し、南壁の一部が検出
概 要 された。主軸はN-52°-Eを示し、周溝は幅52cm、深さ10cm、壁高は40cmを測る。土層は1層が褐色土、2~5層が暗褐色土であり、3・5層に炭化物・焼土が含まれていた。

遺 物 土器片1点、川原石1点

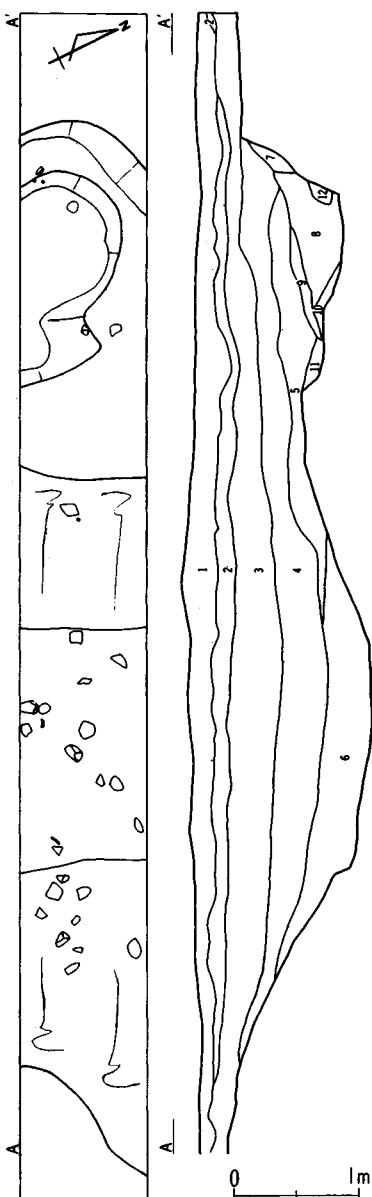
1・2号溝跡 (第85図)

位 置 1号溝跡は、1号住居跡の東へ約23mの所にあり、2号溝跡は1号溝の東へ約3mの所に位置していた。1号溝は主軸がN-49°-Eを示し、2号溝はN-5°-Wを示す。土層は1層が灰褐色土、2~4・6層が暗褐色土、5層が黒褐色土、7層が暗黄褐色土であった。1・2層には火山灰が含まれていた。

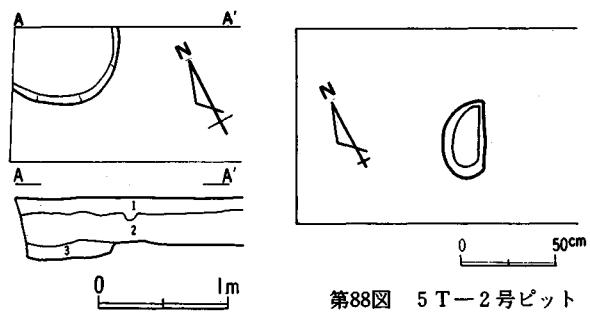
規 模 1号溝跡—上幅68cm、下幅29cm、深さ33cm、2号溝跡—上幅1.24m、下幅97cm、深さ26cm



第85図 5T-1・2号溝

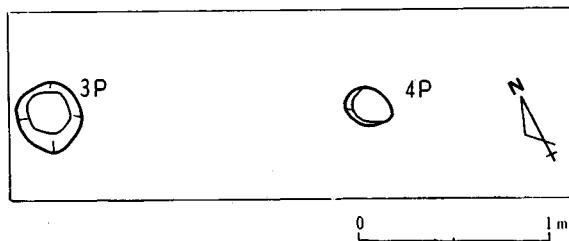


第86図 5T-3号溝跡

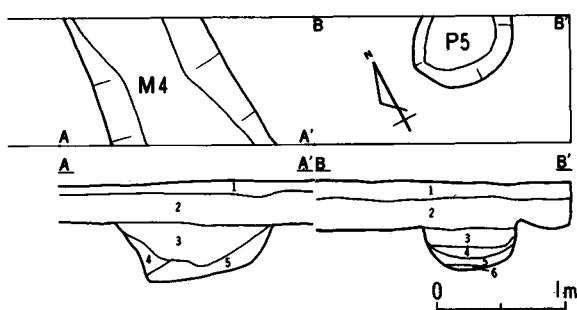


第87図 5T-1号ピット

第88図 5T-2号ピット



第88図 5T-2号ピット



第89図 5T-3・4号ピット

遺物 なし

3号溝跡（第86図）

位置 2号溝跡の東へ約5mの所にあり、西側の立上がり部分には長径1.74m、深さ54cmのピットが検出された。土層は1層が褐色土、2~4・8・9・11・12層が暗褐色土、5層が暗黄褐色土、6層が黄褐色土、7・10層がローム層であった。1~4層に火山灰、5・6層に多くのローム粒子、12層に多くのロームブロックが含まれていた。

規模 上幅7.36m、下幅1.83m、深さ1.06m

遺物 土器片12点、川原石19点

4号溝跡（第90図）

位置 5Tの東側で検出され、ほぼ南北の方向で走っていた。土層は1層が表土、2層が灰褐色土、3・4層が暗褐色土、5層が黒褐色土であった。2層には火山灰、4層には多くのローム粒子が含まれていた。

規模 上幅1.24m、下幅76cm、深さ46cm

遺物 なし

1号ピット（第87図）

位置 3号溝跡の東へ約6mの所にあり、南側部が検出された。土層は1層が灰褐色土、2・3層が暗褐色土で、1層には火山灰が含まれていた。

規模 深さ14cm

遺物 なし

2号ピット（第88図）

位置 4号溝跡の西へ8mの所に検出された。

規模 径22×39cm

遺物 なし

3号ピット（第89図）

位置 2号ピットの東へ4mの所に検出された。

規模 径34×39cm

遺物 なし

4号ピット（第89図）

位置 3号ピットの東へ1.4mの所に検出された。

規模 径21×26cm

遺物 なし

5号ピット（第90図）

位置 4号溝跡の東へ約7mの所に位置し、北

概要 側部分が検出された。土層は1層が表土、2層が灰褐色土、3~6層は暗褐色土で、2層に火山灰、4・6層に多くの炭化物がそれぞれ含まれていた。

規模 径74cm、深さ32cm

遺物 なし

VI. まとめ

今回の調査は、長さ 650 m、幅 250 m の範囲内に、5 本のトレンチと、2 つのグリッドの発掘を行ったような形であり、上辻遺跡から奈良・平安時代の竪穴式住居跡 28 軒、古墳時代の竪穴式住居跡 1 軒、溝跡 3 本が検出され、下辻遺跡からは竪穴式住居跡 21 軒、溝跡 19 本、ピット 32 個が検出された。

上辻・下辻の両遺跡は、字名が異なることによって名称を別にしたが、同一自然堤防上に、ほぼ同時期に形成された集落跡であり、ひとつのものとして考えたい。

奈良・平安時代の住居跡は、下辻遺跡では各トレンチにおいて東側に多く分布していた。1 T は 8 軒、2 T は 3 軒、3 T は 4 軒、4 T は 5 軒の住居跡がそれぞれ検出された。トレンチの位置を考えても、1 T・3 T・4 T は、自然堤防の東側にあり、検出された住居跡が多いが、2 T・5 T は、自然堤防の西側にあって、住居跡が少なかった。上辻遺跡でも、I 区・II 区とも自然堤防の東側に位置し、I 区は 19 軒、II 区は 9 軒の住居跡が検出され、複合する住居跡も多かった。I 区の西側にも、東西方向のトレンチを入れたが、住居跡は検出されず、I 区側に集落の中心があったと推定される。以上のように、本遺跡では、荒川の形成した自然堤防の東側に、多くの住居跡が占地していたと考えられる。

古墳時代の住居跡は、1 軒しか検出されなかつたが、周辺の遺跡では、樋ノ上遺跡・三尻中学校遺跡・三ヶ尻天王遺跡で、古墳時代後期の住居跡が検出されている。古墳時代前・中期の住居跡は、検出例が少なく、上辻遺跡 II 区の 2 号住居跡（和泉期）と、8 号住居跡の北側に和泉期の土器片が表採され、住居跡の存在が考えられ、この 2 軒が確認されているだけである。本遺跡の周辺に、古墳時代前・中期の住居跡が少ないのは、荒川の氾濫によって生活が困難であり、南西方向にある三ヶ尻台地に集落があったのだろうか。後期になって、技術が進み、本遺跡周辺にも、多くの人が住めるようになったのかもしれない。

上辻遺跡 I 区において、東端に落込みが検出されたので、トレンチを入れたが、自然堤防の落込みの肩部が、現在の肩部から北西へ約 6 m 入っていたことが確認された。この落込みは、19 号住居跡に切られており、平安時代以前において、自然堤防の落込みの肩部が、現在より北西約 6 m の所にあったと考えられ、平安時代になるまでに何度も荒川が氾濫し、氾濫土が堆積することによって、現在の位置ぐらいまでに変化したのだろう。

奈良・平安時代の住居跡のカマドは、検出状態の良好なものがあった。上辻遺跡 I 区 12 号住居跡の北カマド（第 19~21 図）であり、煙道部の残りが良く、径 30 cm で 12° の角度でゆるやかに上がり、更に 61° の角度で立上がっていった。煙道部の奥行 1.3 m、立上りの高さ 60 cm、カマド全長 2 m であった。本遺跡の奈良・平安期の住居跡のカマドは、全長 2 m 前後で、煙道部のゆるやかに上がる角度 10~15° のものが多かった。

カマドの設置される位置は、上辻遺跡 I 区では、東壁 5、北壁 9、南隅 1、II 区では、東壁 7、北壁 1、西隅 1、南壁 1、下辻遺跡では、1 T で東壁 1、南壁 1、2 T で東壁 2、3 T で東壁 1、南隅 1、4 T で東壁 1 であった。合計すると、東壁 17、北壁 10、南壁 2、南隅 2、西隅 1 であり、南壁・南隅・西隅に設置される例は珍しい。

上辻遺跡 I 区・II 区の 1 号溝跡は、両方ともほぼ南北方向に走り、南側へ流れ込むように検出された。I 区の 1 号溝跡は 12 号住居跡に切られており、II 区の 1 号溝跡は縄文土器片が検出され、両者とも住居跡よりも時期の古いものと考えられる。

今回は、本遺跡の南西にある三ヶ尻古墳群より新しい時代の住居跡が多く検出されたが、古墳群が形成されたころの住居跡も 1 軒検出され、古墳群と集落の関連を考えるのに一つの参考資料となろう。平安期の住居跡から埴輪が出土したことは、古墳から埴輪を抜いて、カマドの袖の補強に使用したものと思われる。

三尻遺跡群 上辻遺跡・下辻遺跡
写 真 図 版



上辻遺跡・下辻遺跡航空写真

図版2



1. 上辻遺跡Ⅰ区全景（南から）



2. 上辻遺跡Ⅰ区全景（西から）

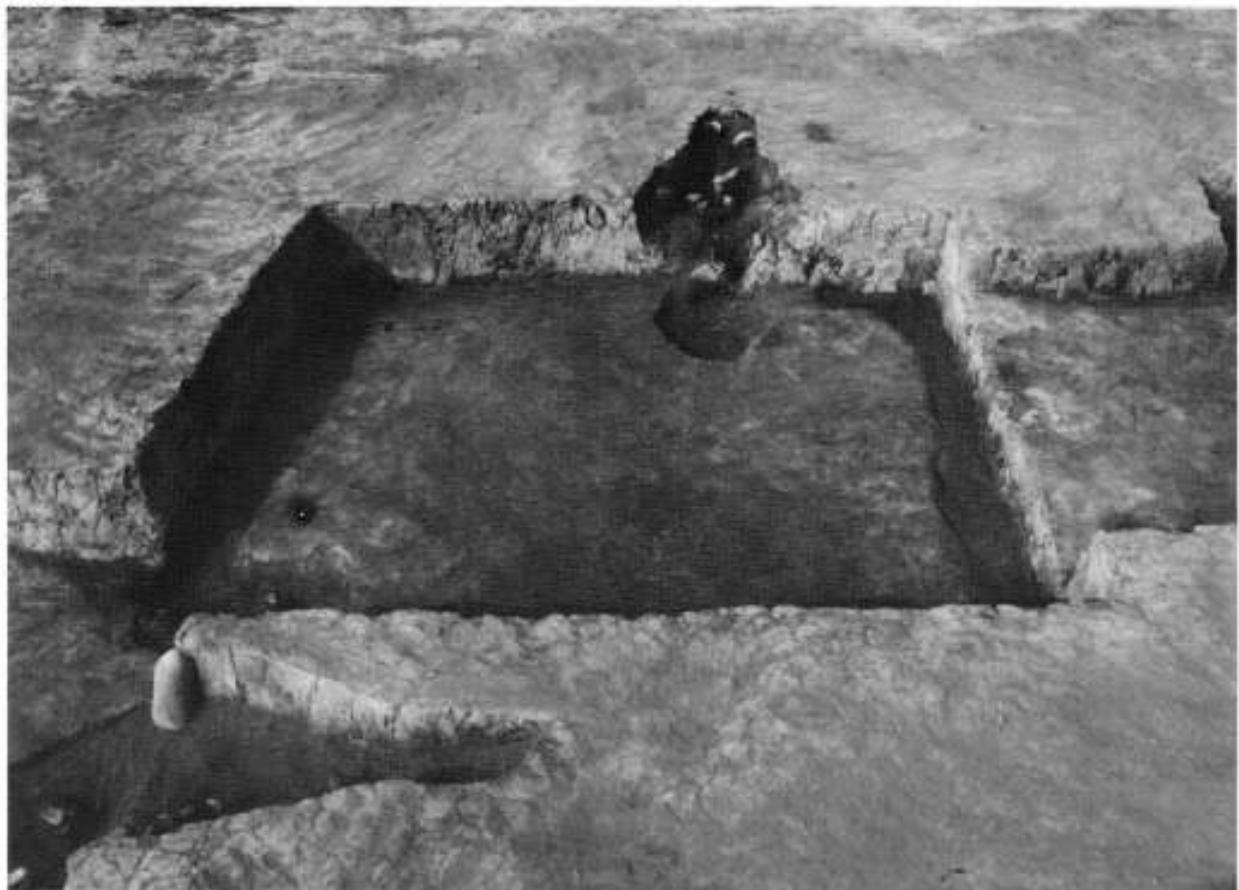


1. I区1・2号住居跡



2. I区1号住居跡

図版 4



1. I区2号住居跡



2. I区2号住居跡カマド



1. I区3号住居跡



2. I区3号住居跡カマド

図版 6



1. I区4・5号住居跡



2. I区5号住居跡カマド



1. I区6・7号住居跡



2. I区6号住居跡土器出土状態

図版 8



1. I区 8号住居跡



2. I区 8号住居跡遺物出土状態



1. I 区 9・10号住居跡

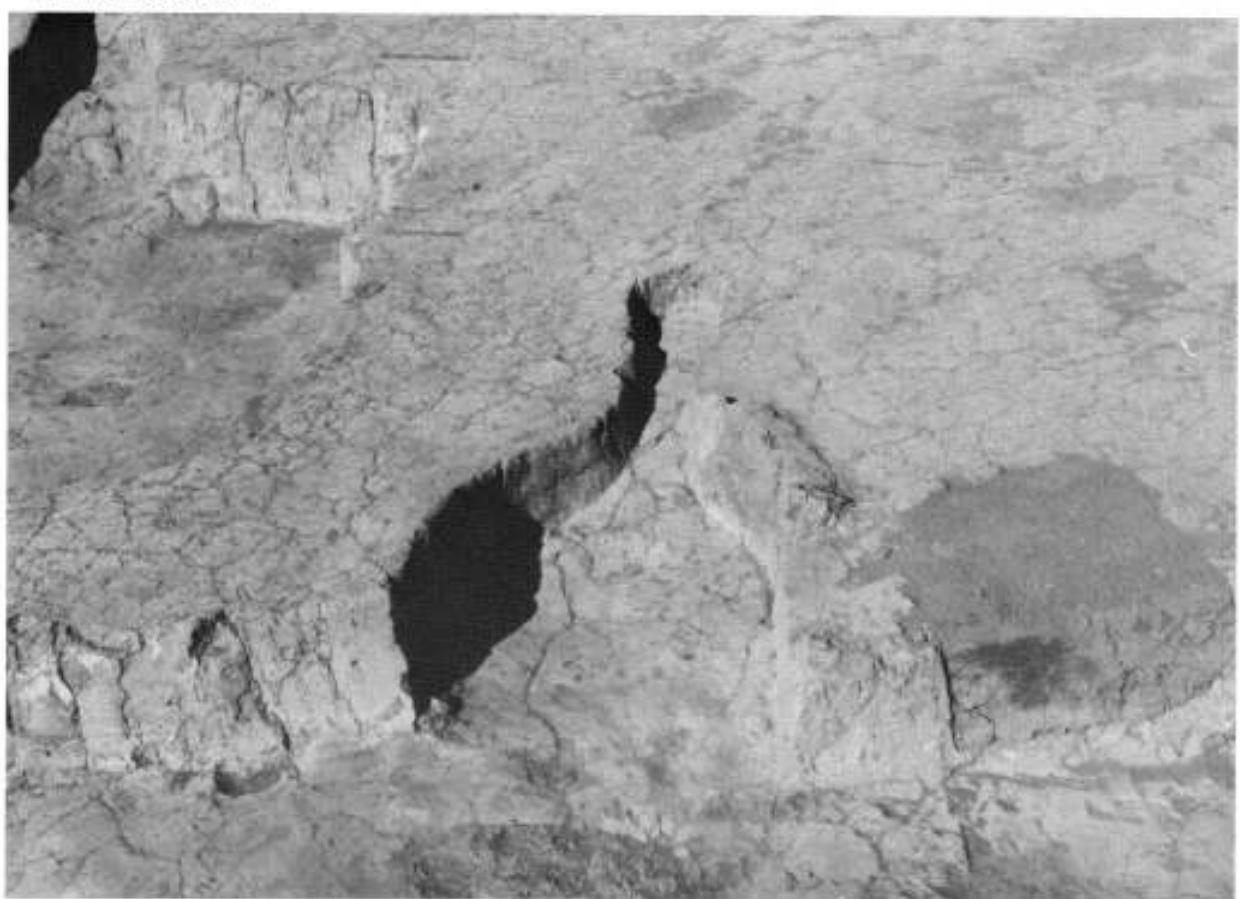


2. I 区 9号住居跡

図版10



1. I区9号住居跡カマド



2. I区10号住居跡カマド



1. I区9号住居跡遺物出土状態



2. I区9号住居跡遺物出土状態

図版12



1. I区11~18号住居跡



2. I区11・12号住居跡



1. I区11号住居跡

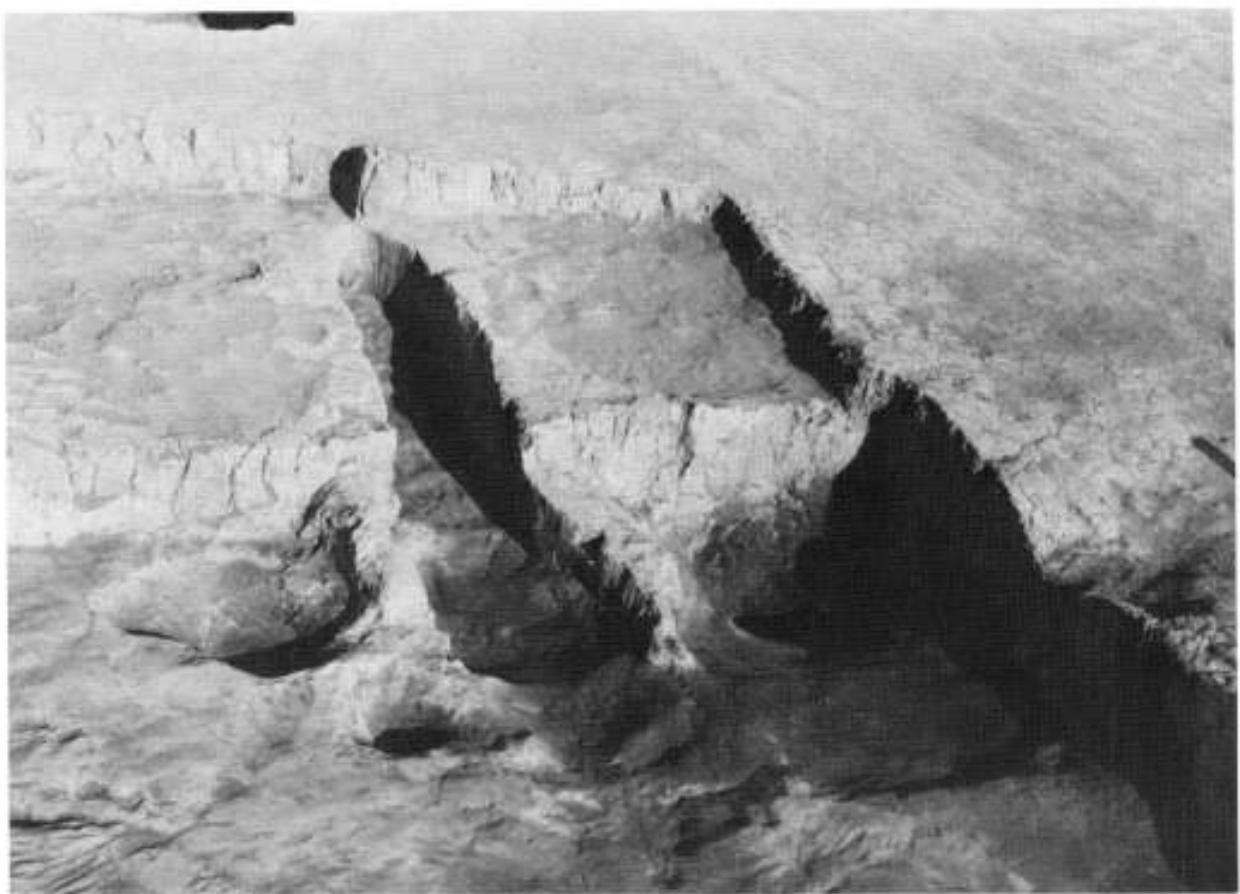


2. I区11号住居跡カマド

図版14



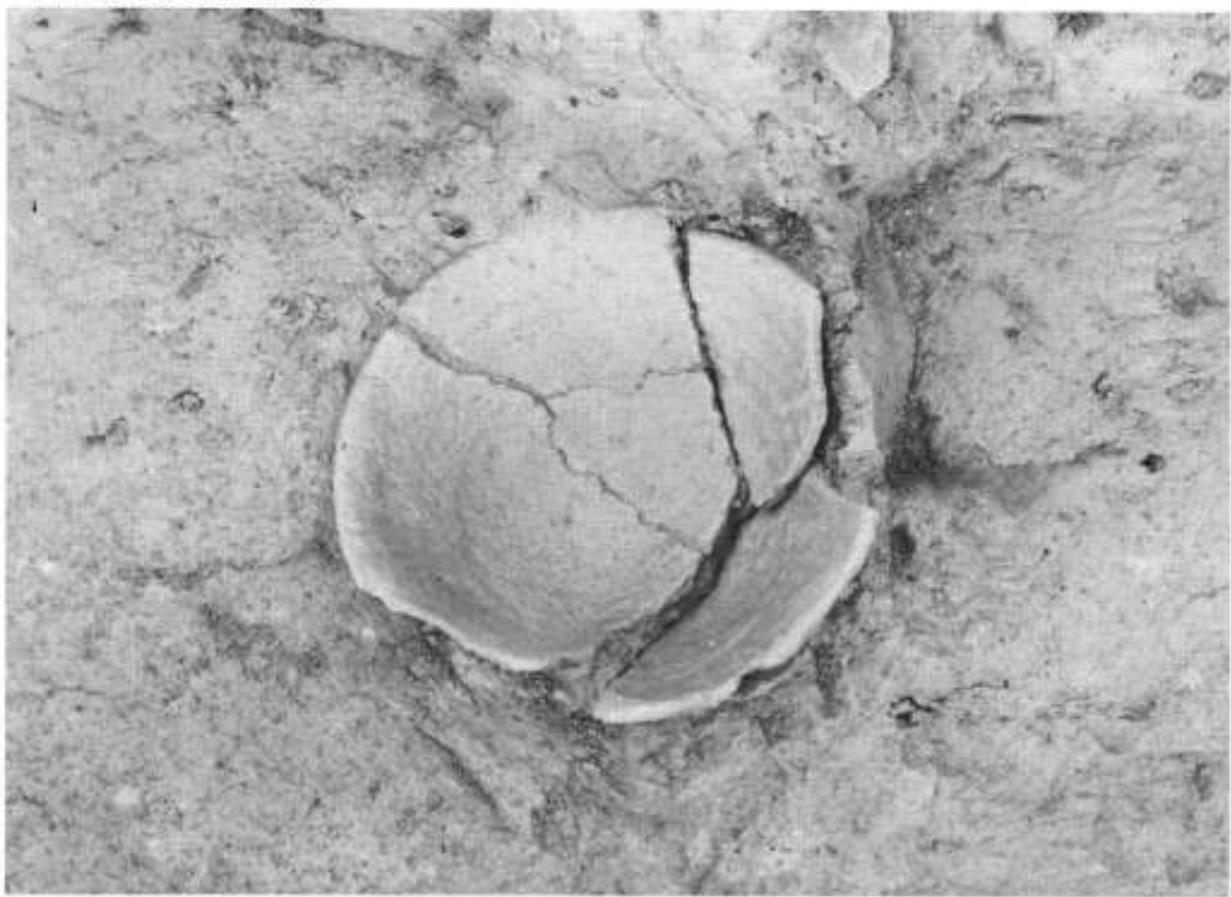
1. I区12号住居跡北カマド



2. I区12号住居跡東カマド



1. I区12号住居跡土器出土状態



2. I区12号住居跡土器出土状態

图版16



1. I区12号住居跡土器出土状態



2. I区12号住居跡土器出土状態

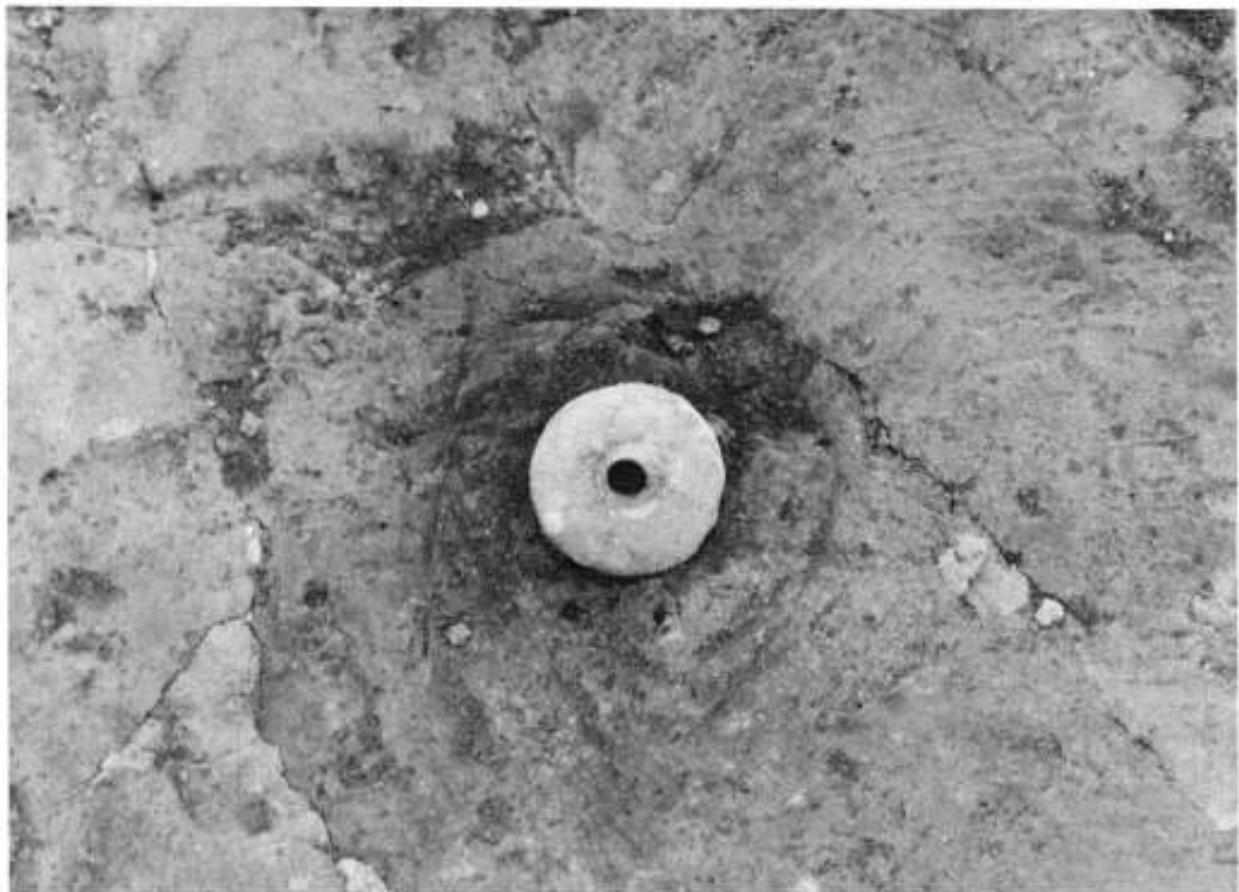


1. I区12号住居跡土器出土状態



2. I区12号住居跡砥石出土状態

図版18



1. I区12号住居跡紡錘車出土状態



2. I区13号住居跡土器出土状態



1. I区14号住居跡土器出土状態



2. I区14号住居跡土器出土状態

図版20



1. I区17号住居跡



2. I区19号住居跡



1. I区19号住居跡カマド

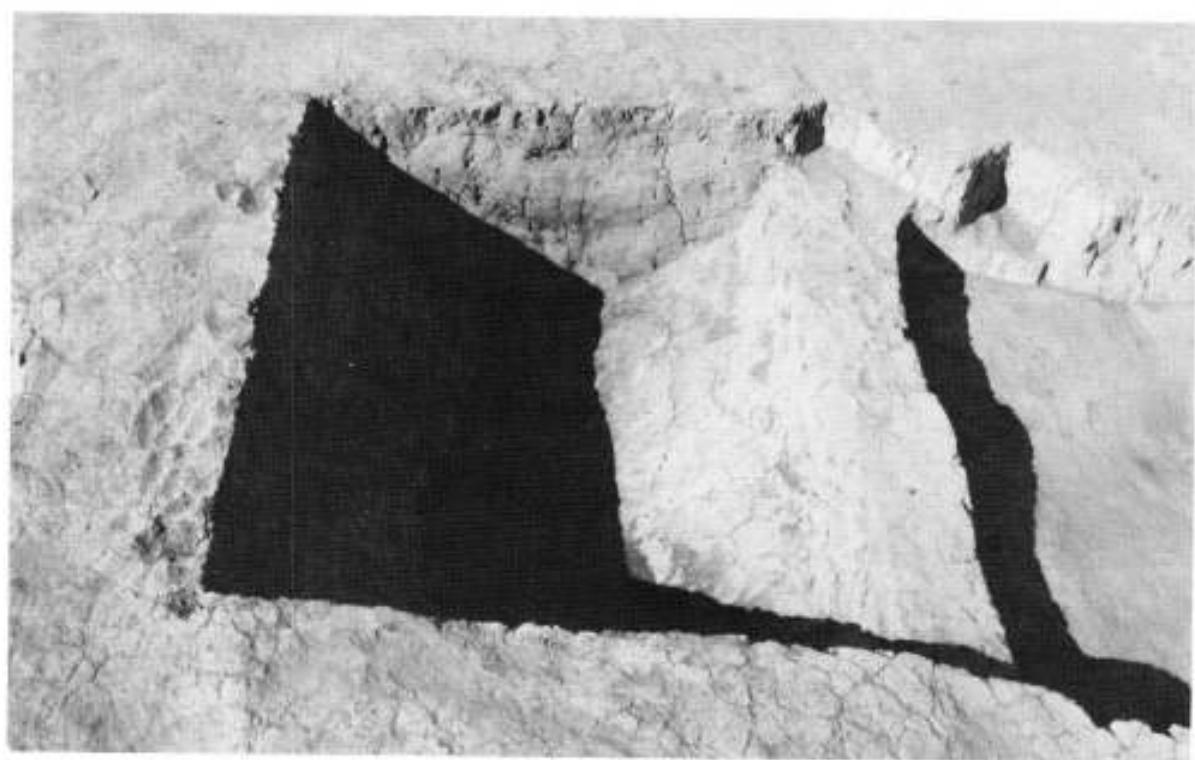


2. I区19号住居跡土器出土状態

図版22



1. I区2号溝跡



2. I区1号溝跡

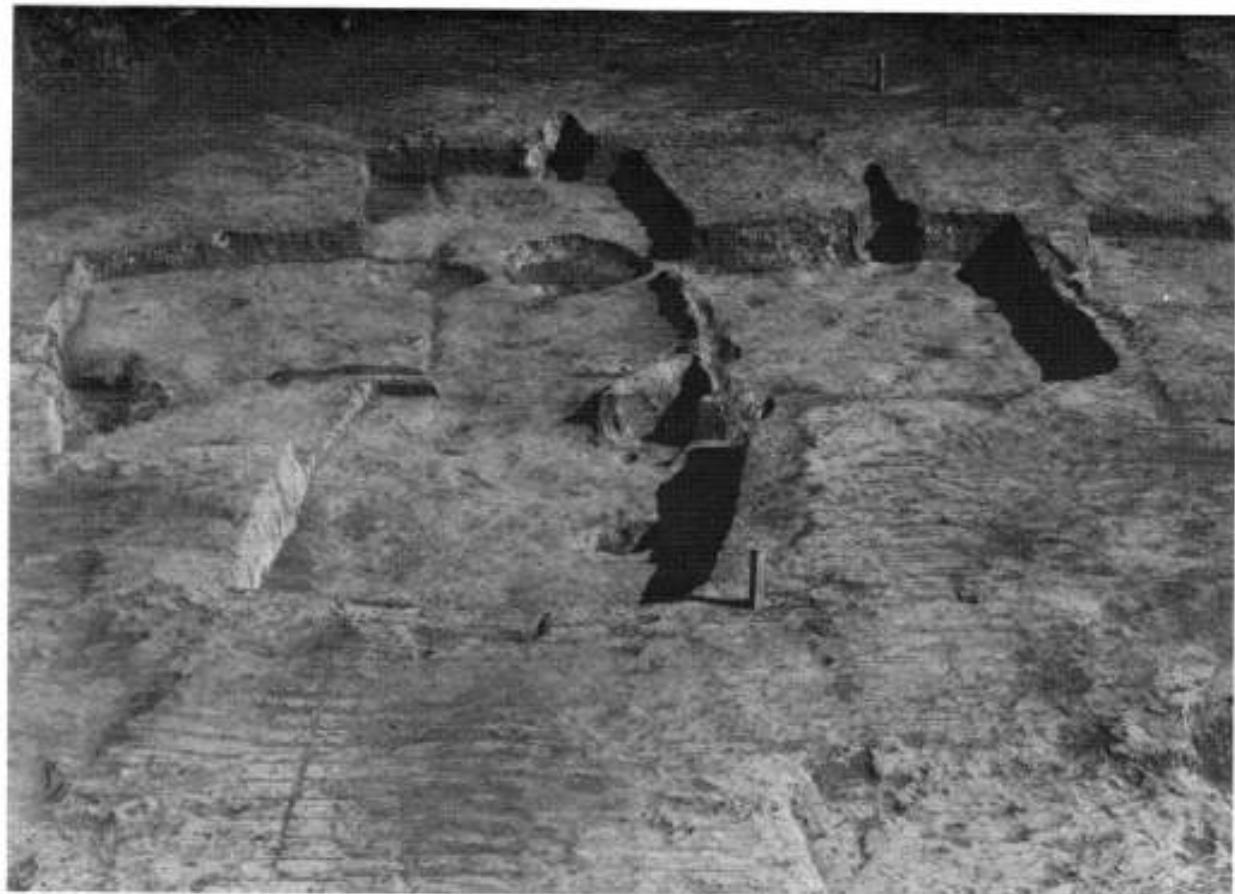


1. 上辻遺跡Ⅱ区全景（東から）

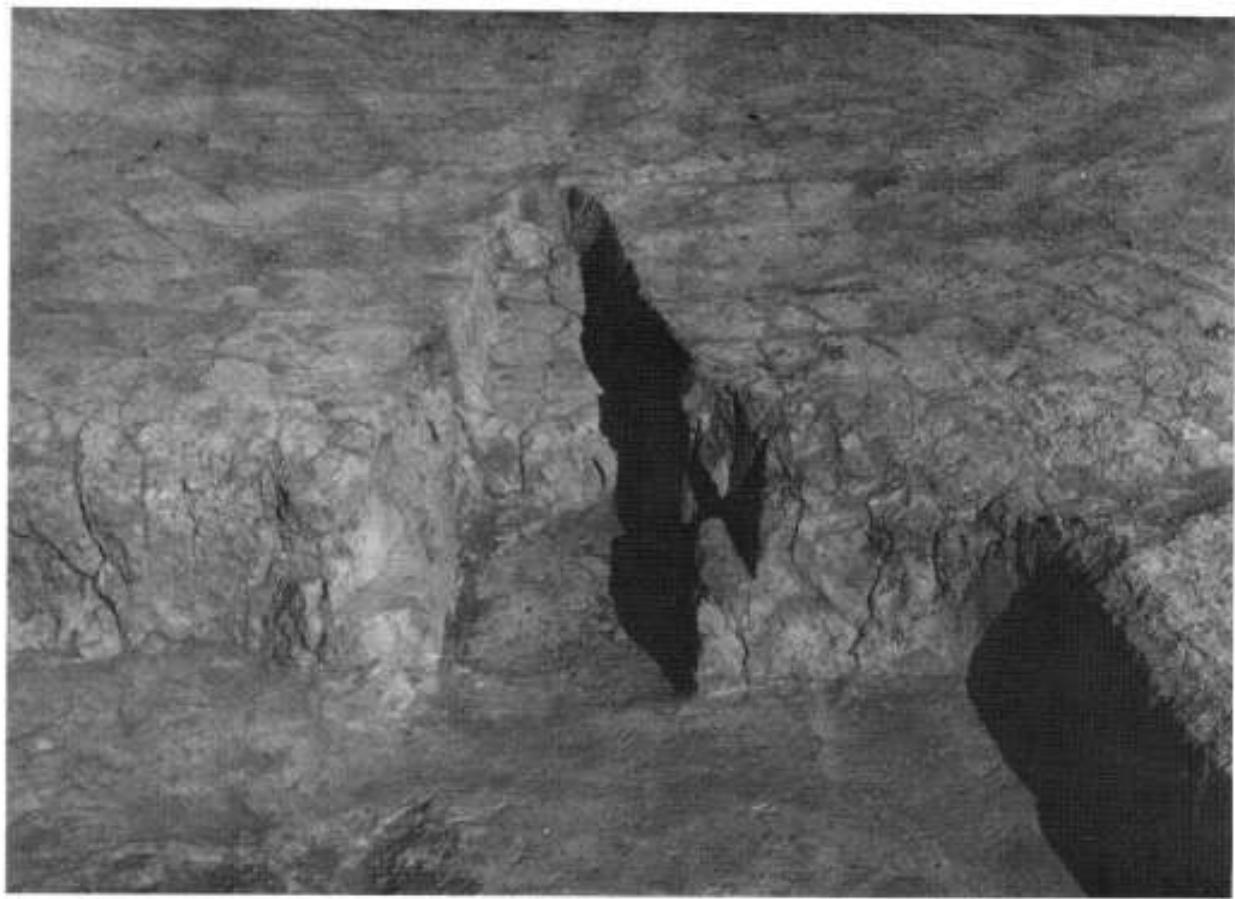


2. Ⅱ区1～8号住居跡（西から）

図版24



1. II区1~4号住居跡



2. II区1号住居跡カマド



1. II区 2号住居跡土器出土状態

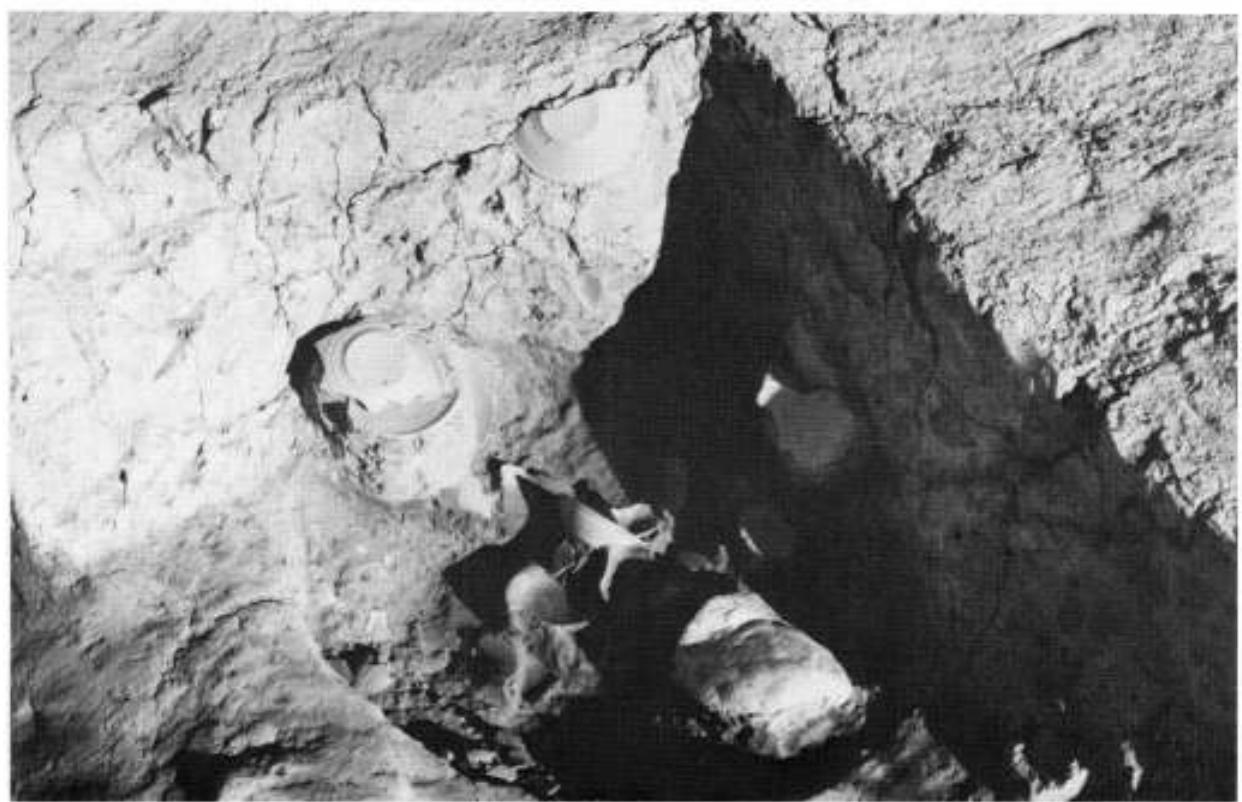


2. II区 2号住居跡土器出土状態

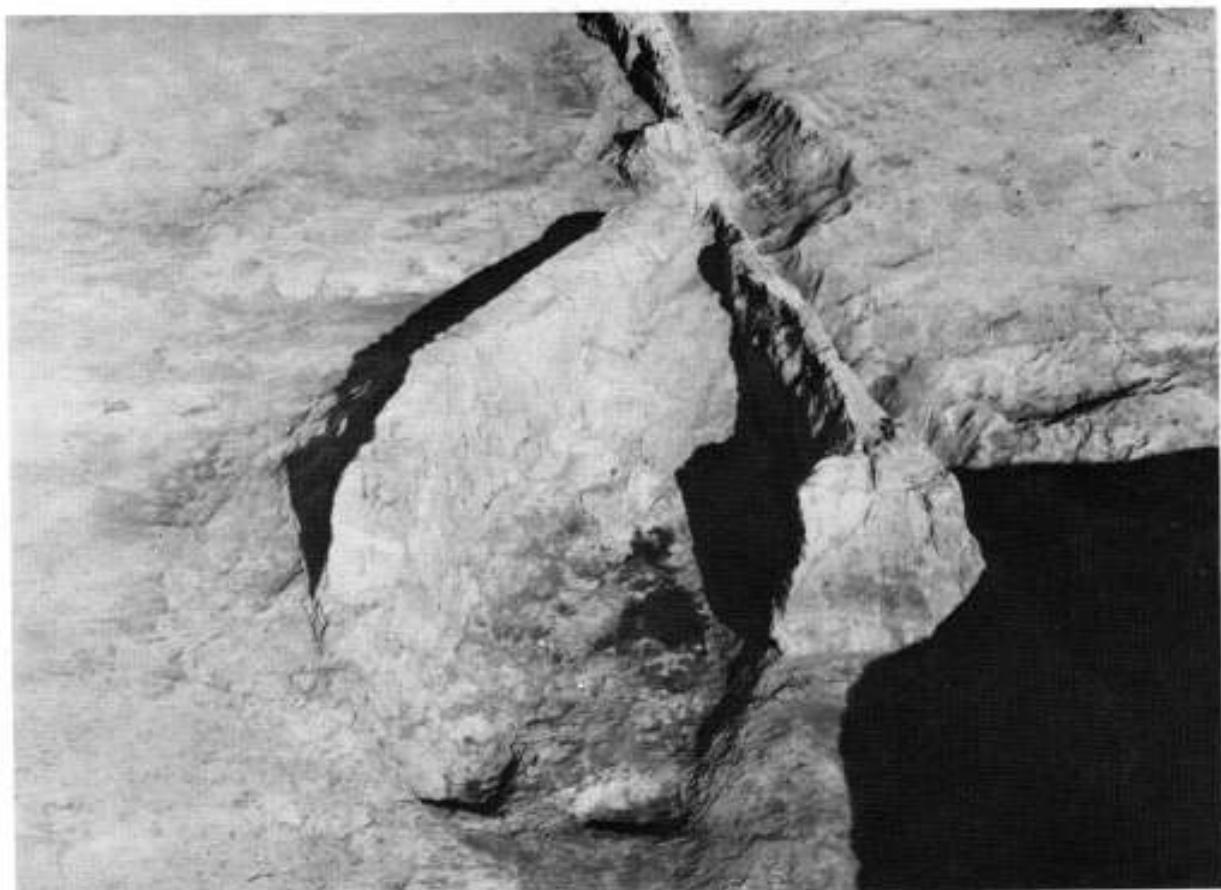
図版26



1. II区3号住居跡カマド



2. II区3号住居跡貯蔵穴土器出土状態



1. II区4号住居跡カマド



2. II区4号住居跡土器出土状態

図版28



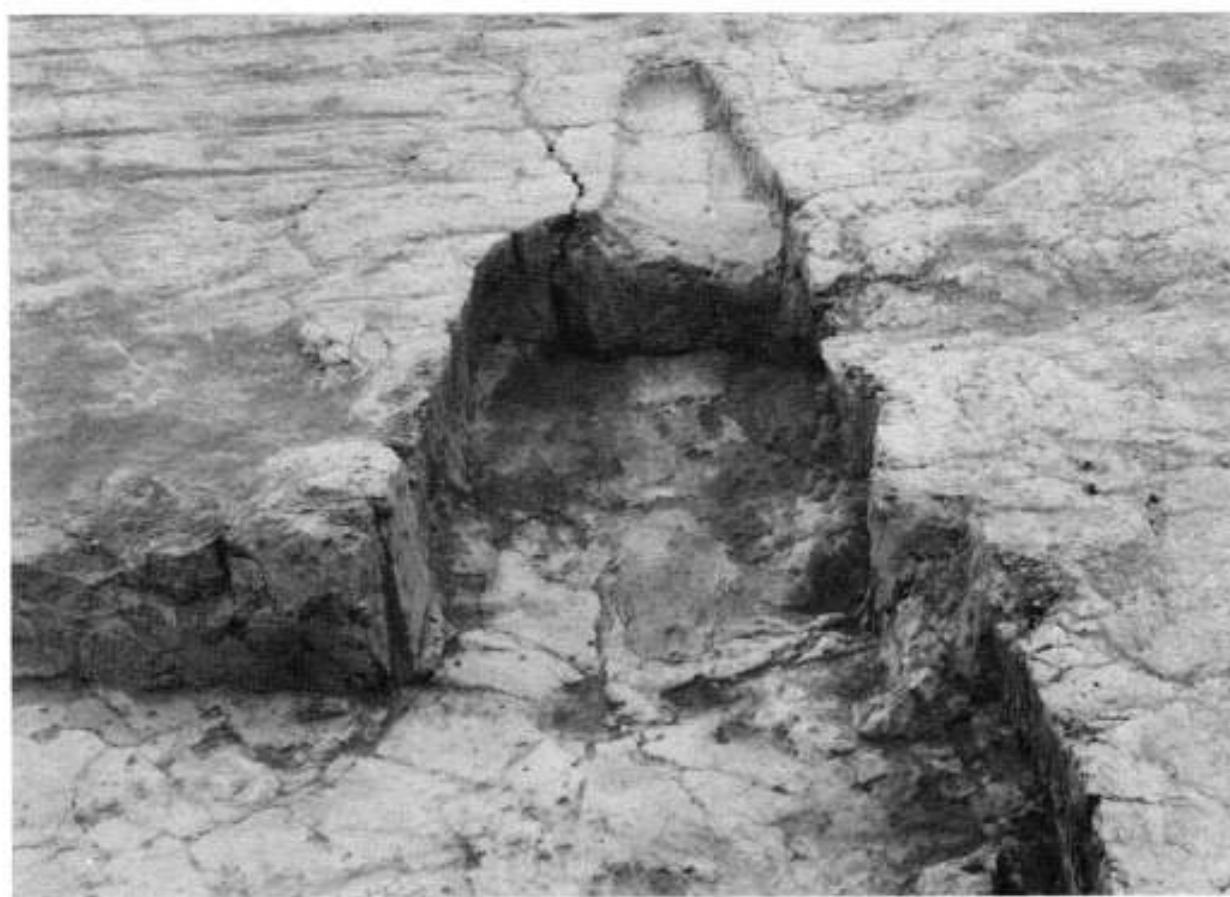
1. II区 4号住居跡土器出土状態



2. II区 4号住居跡紡錘車出土状態

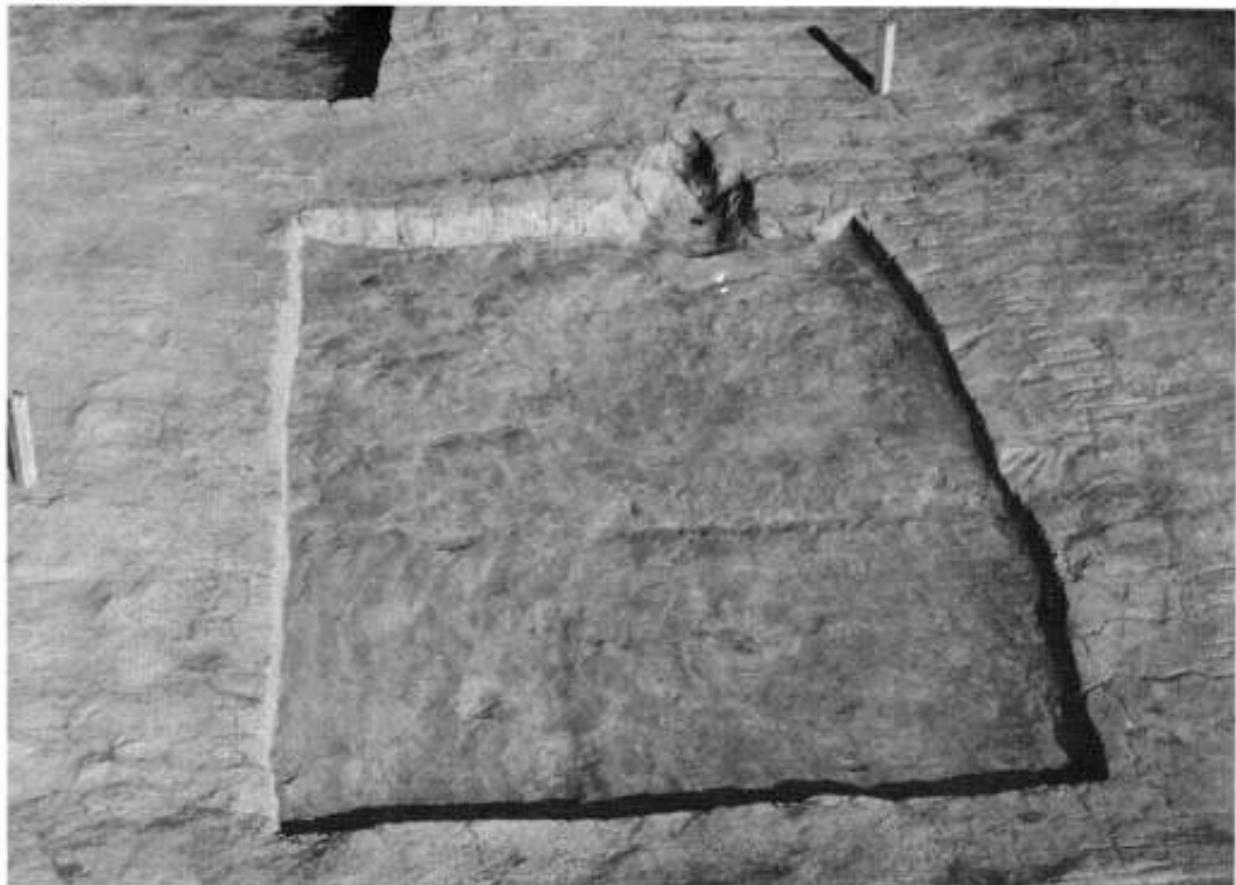


1. II区5号住居跡



2. II区5号住居跡カマド

図版30



1. II区6号住居跡



2. II区6号住居跡カマド



1. II区 6号住居跡カマド



2. II区 6号住居跡カマド土器出土状態

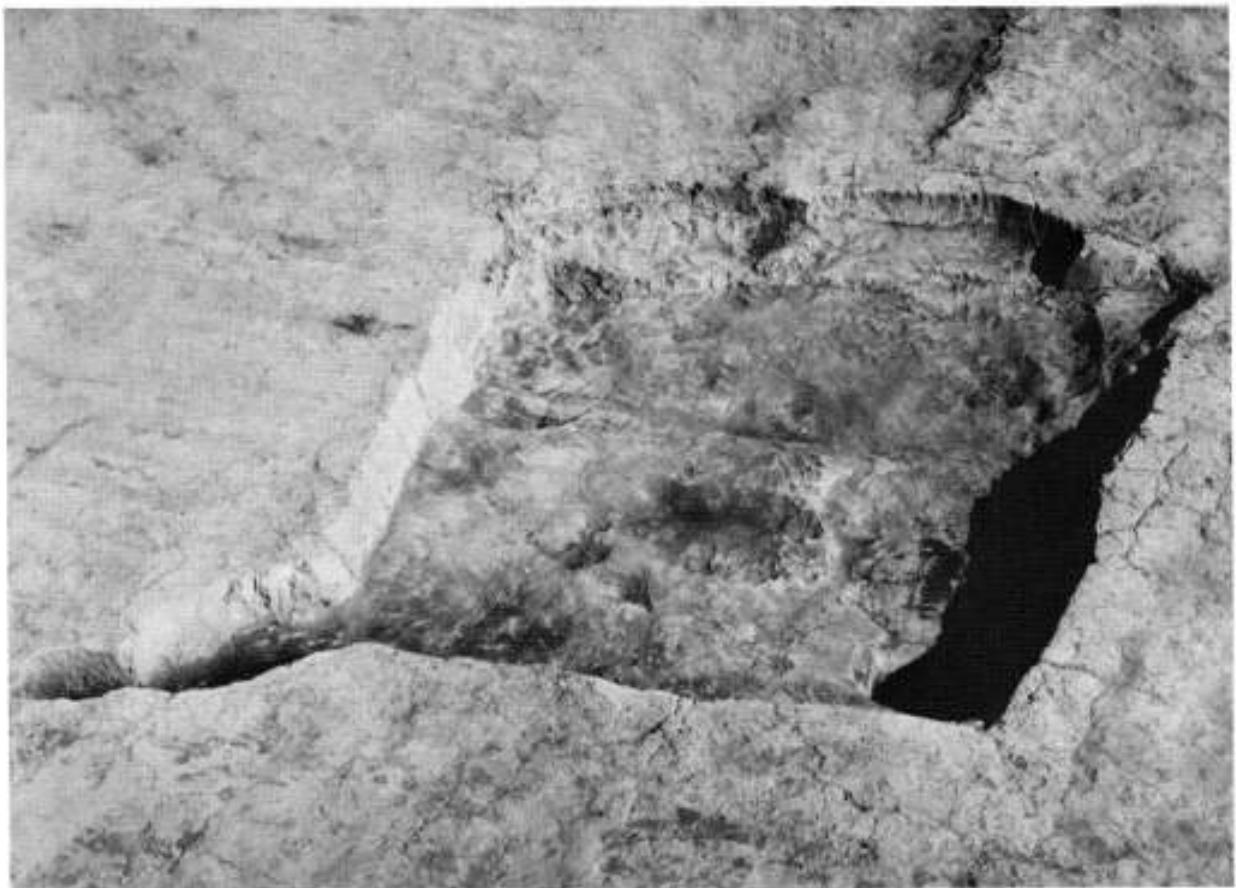
図版32



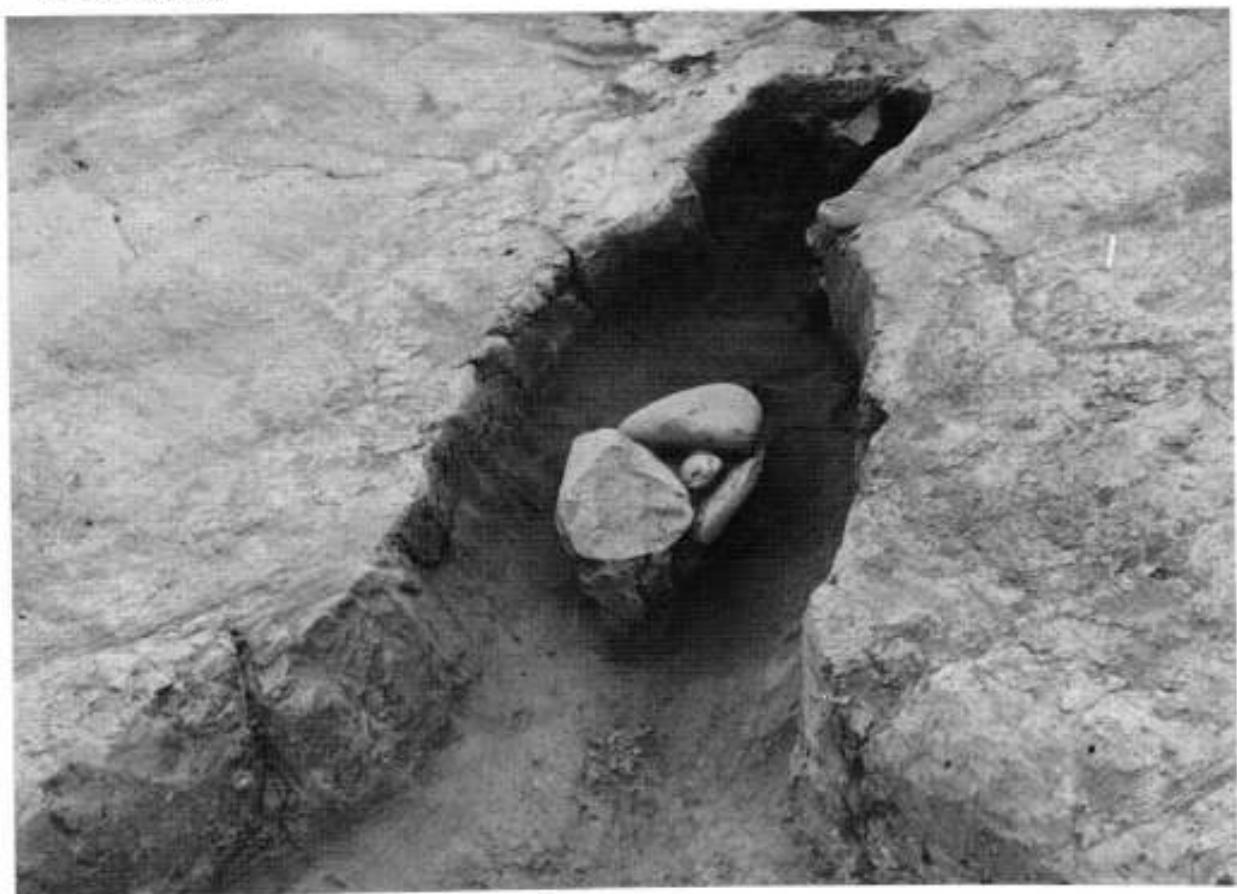
1. II区7号住居跡



2. II区7号住居跡カマド



1. II区 8号住居跡

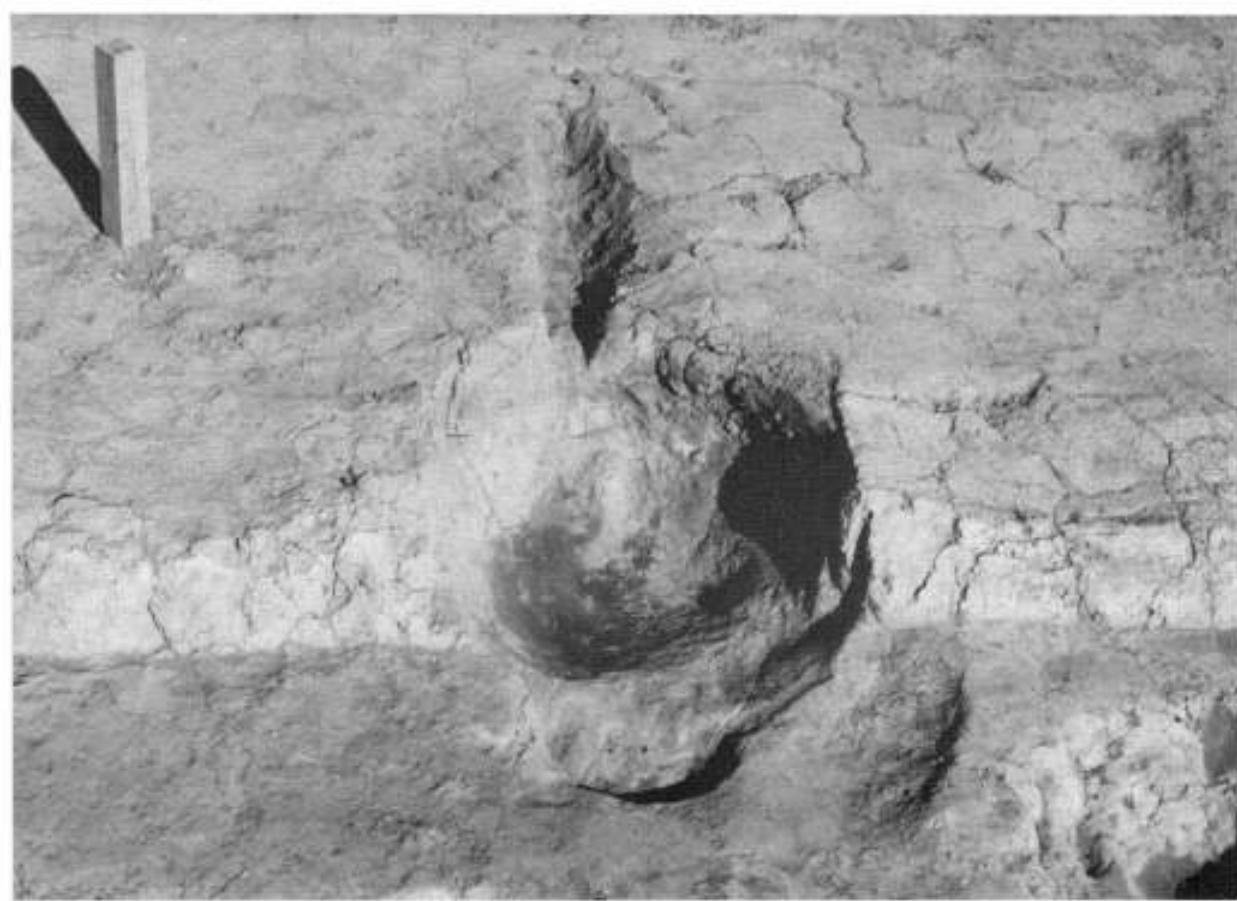


2. II区 8号住居跡カマド

図版34



1. II区9号住居跡



2. II区9号住居跡カマド

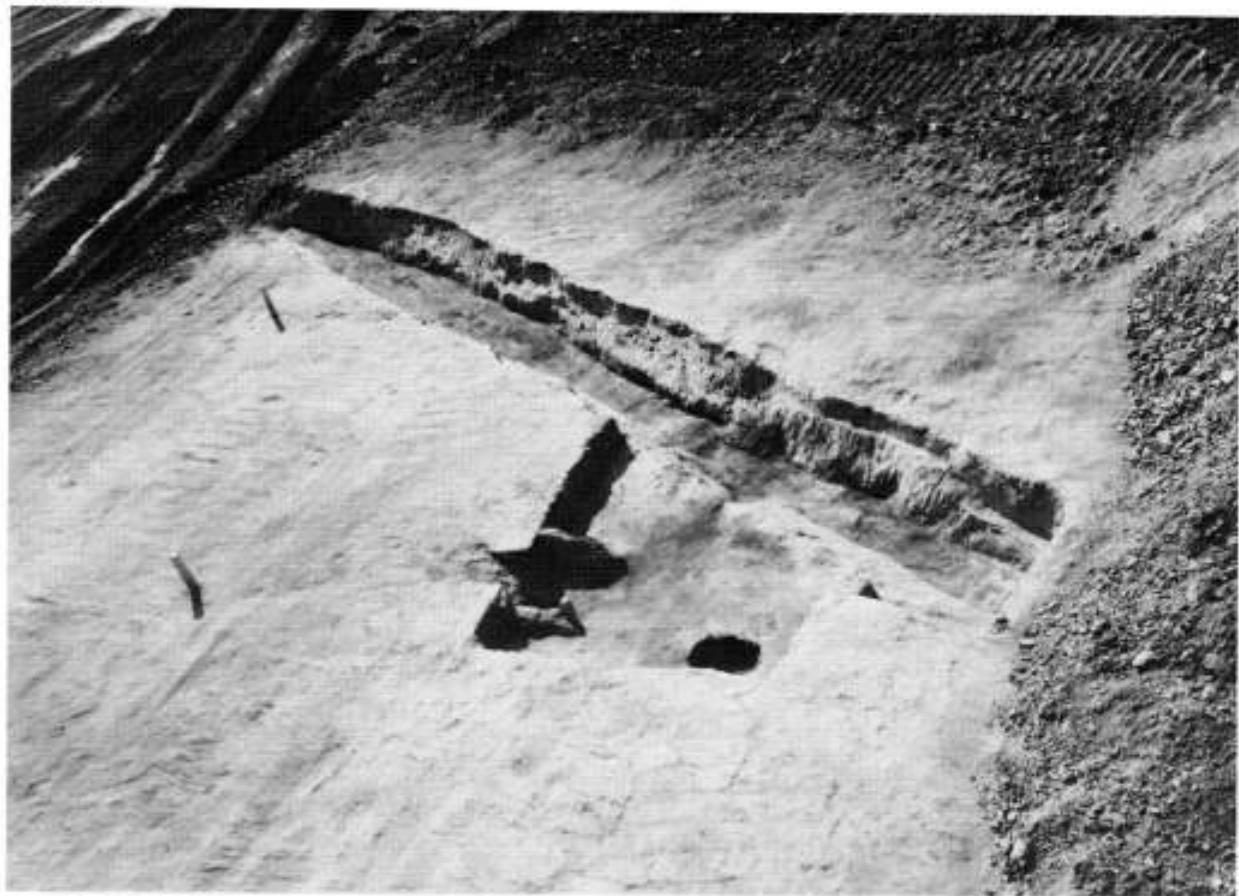


1. II区9号住居跡遺物出土状態

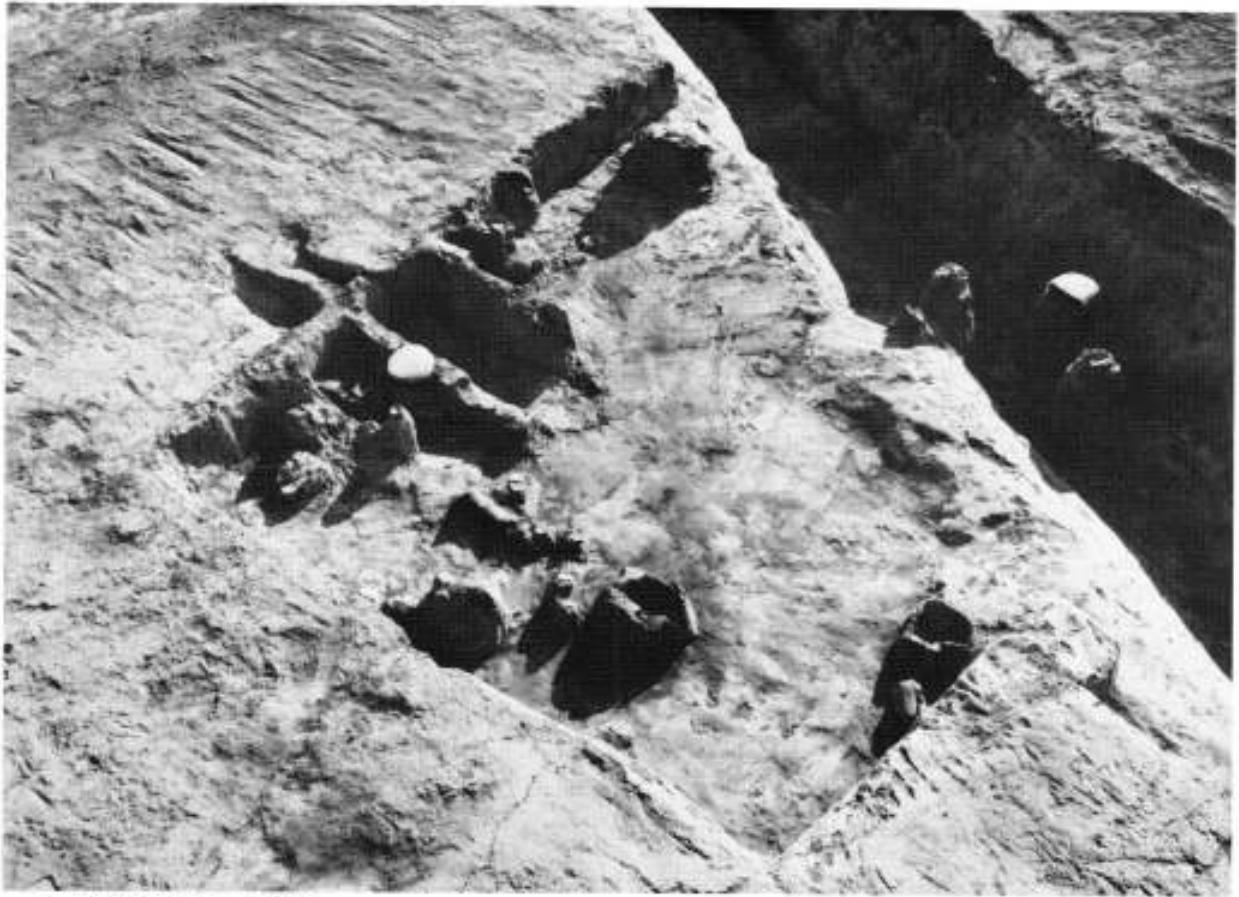


2. II区9号住居跡遺物出土状態

図版36



1. II区10号住居跡・1号溝跡



2. II区10号住居跡・1号溝跡



1. 下辻遺跡発掘風景（東から）



2. 下辻遺跡発掘風景（東から）

図版38



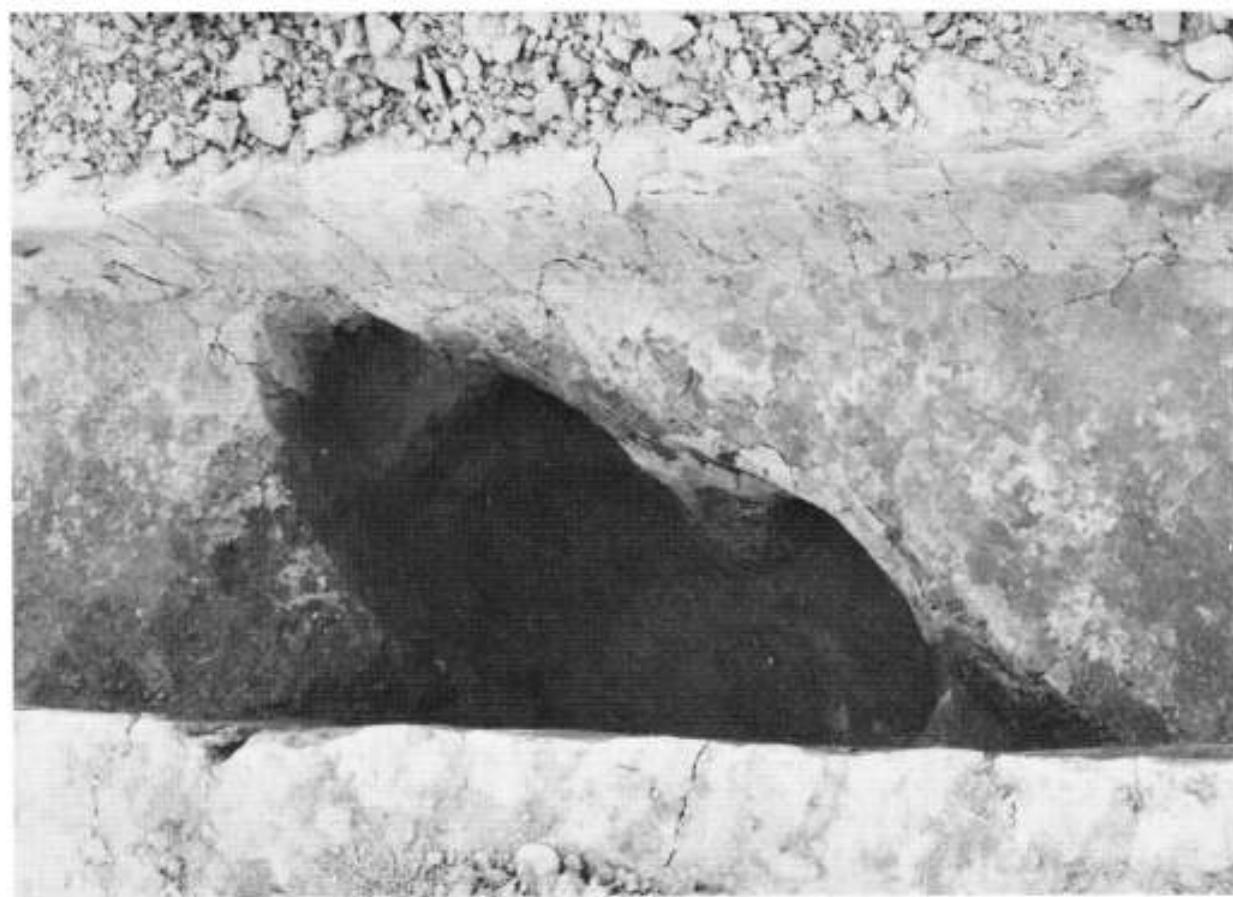
1' 一一一中世鐵鑄・日本製造



2' 一一二中世鐵鑄・日本製造



1. 1 T-3号住居跡出土状態



2. 1 T-4号住居跡

图版40



1. 1 T—5号住居跡



2. 1 T—5号住居跡土器出土状態



1. 1 T—5号住居跡石・軽石出土状態



2. 1 T—6号住居跡土器出土状態

図版42



1' トーナーの歯世頭蓋・の歯山アノ



2' トーナーの歯世頭蓋・の歯山アノ



1. 2T-1号住居跡カマド



2. 2T-3号住居跡カマド

図版44



1. 2 T-1号ビット



2. 2 T-3・4号ビット



1. 3 T—1号住居跡



2. 3 T—3号住居跡

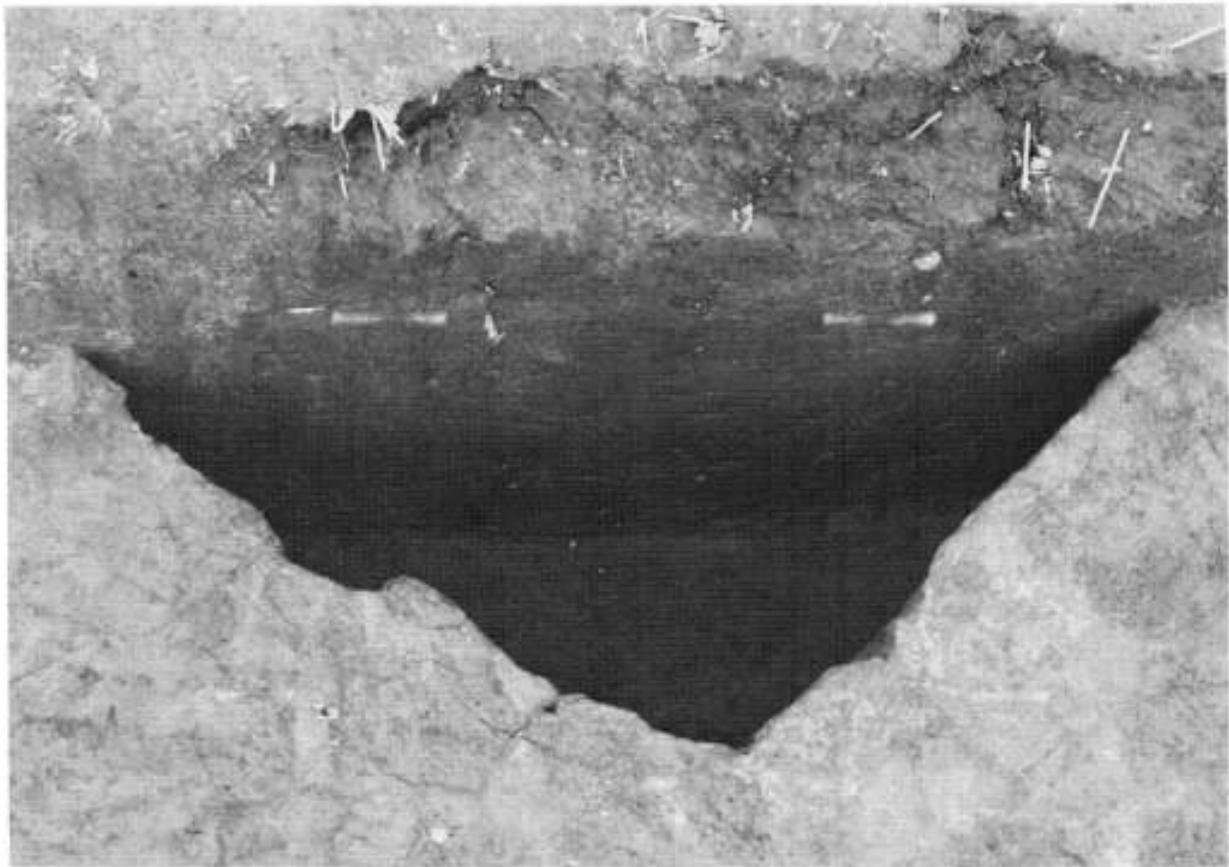
図版46



一' モトーラ駅地盤



二' モトーラ駅地盤



1. 4T-1号住居跡



2. 4T-2号住居跡

図版48



1. 4 T-4号住居跡



2. 4 T-4号住居跡カマド



1. 4 T-1号溝跡

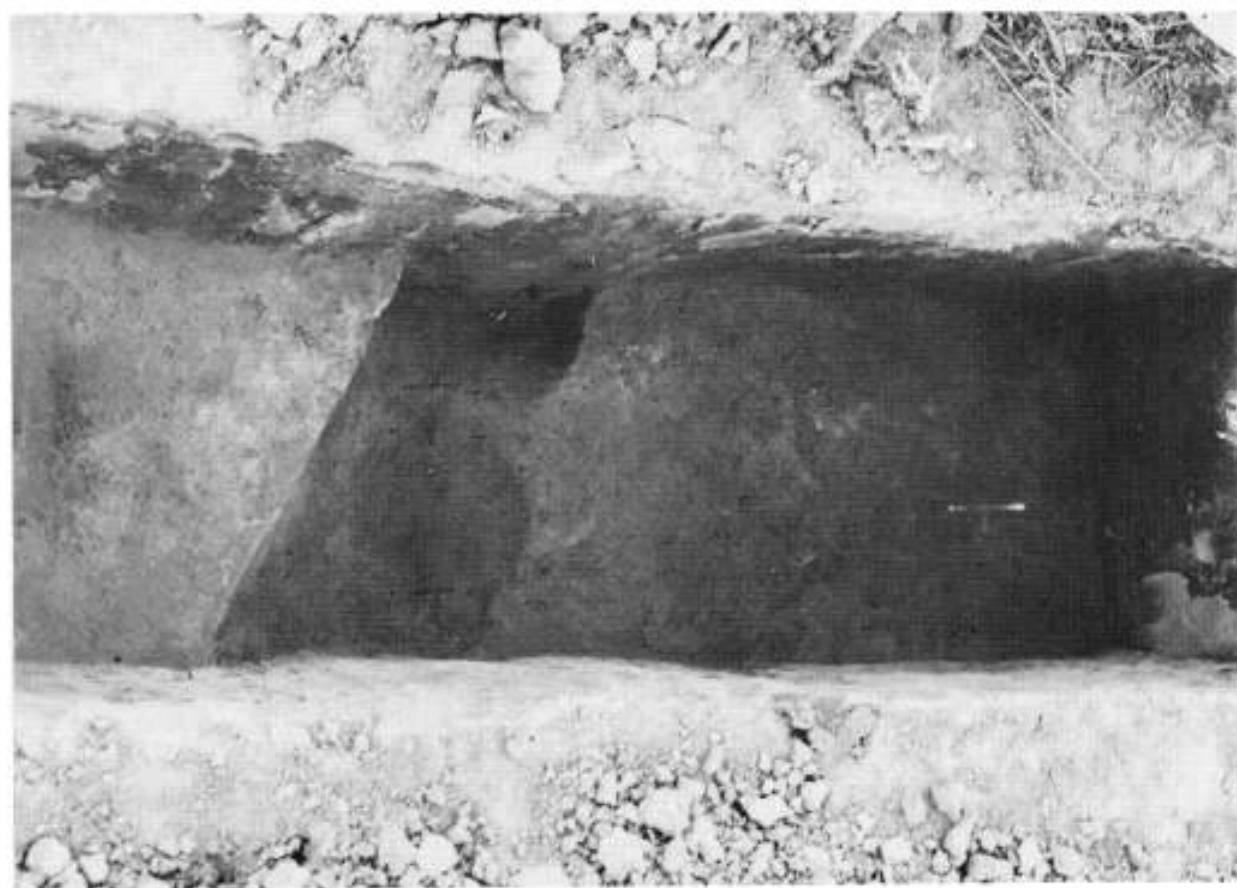


2. 4 T-2号溝跡

図版50



1. 4 T-2号ピット



2. 5 T-1号住居跡

昭和59年3月発行

昭和58年度 熊谷市埋蔵文化財調査報告書

三尻遺跡群 上辻・下辻遺跡

編集発行 埼玉県熊谷市教育委員会

印 刷 株式会社 博 文 社

